

ORIGAMI TANTEIDAN

折紙探偵団

M A G A Z I N E

定価 635円
(本体605円)

クローズアップ Close-up

第1回 国際折紙著作権会議(東京)

The First International Origami Copyright Meeting (Tokyo)

西川誠司

Nishikawa Seiji

展開図折りに挑戦! Crease Pattern Challenge!

シーラカンス Coelacanth

各務 均 Kakami Hitoshi



折り図 Diagrams

乳牛 Milk Cow

川畑文昭 Kawahata Fumiaki

つまみおり Information

PROミーティングレポート

Pacific Rim Origami Group Meeting Report

通巻 112 号

日本折紙学会 (JOAS) の理念

The Purpose of Japan Origami Academic Society

第一章 名称と目的

第一条 会の名称

1. 本会の名称は日本折紙学会とする。
2. 本会の英語での名称は、Japan Origami Academic Societyとする。
3. 本会の略称は、JOASとする。

第二条 会の目的

1. 本会は、折り紙の専門研究と折り紙の普及の促進、ならびに、それらを通しての広く国内、外の折り紙愛好家との交流の促進を目的とする。
2. 第一項の折り紙の専門研究とは、折り紙の創作、折り紙の創作技術の研究、折り紙に関する批評・評論、数学研究、教育研究、歴史・書誌研究、知的財産権等の研究、工学・商業デザインの研究等を意味する。
3. 第一項の折り紙の普及とは、折り紙の社会的認知度の向上活動、折り紙愛好者層の拡大活動、折り紙に関する人材の育成と発掘等を意味する。

規約第1章より抜粋

Chapter 1: Name and Purpose

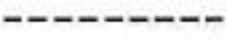
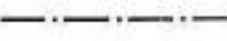
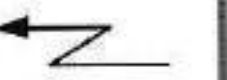
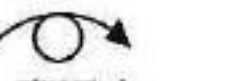
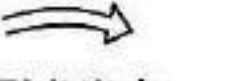
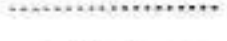
Article 1: Name

1. This society is to be called Nihon Origami Gakkai in Japanese.
2. This society is to be called Japan Origami Academic Society in English.
3. The abbreviated name of this society is JOAS.

Article 2: Purpose

1. The purpose of JOAS is to promote studies of origami, diffusion of origami, and both domestic and international association of all origami-lovers.
2. The studies of origami mentioned above includes designing, designing techniques, criticism, mathematical studies, educational studies, history, bibliography, studies of the intellectual property rights, studies of industrial and commercial design, and so on.
3. The diffusion of origami mentioned above includes widening appreciation of origami, expansion of the community of origami-lovers, scouting and rearing the origami talent, and so on.

●折り方の約束記号 SYMBOLS FOR FOLDING

 谷折り線 Line indicating valley fold	 山折り線 Line indicating mountain fold	 手前に折る Fold paper forwards	 後ろへ折る Fold paper backwards	 折り筋をつける Making a crease line	 段折り Pleat fold
 裏返す Turn paper over	 引き出す Pull out	 図の見る位置が変わる Rotation	 図が大きくなる A magnified view	 見えないところ A hidden line	 押す、押しつぶす Push paper in
					 切る Cut

乳牛

作:川畑文昭(P.22)

Milk Cow

by Kawahata Fumiaki (P.22)

■シマウマ・猫・犬など、インサイドアウトによる動物の模様折り出しに早期から取り組み開拓し続けてきた川畑氏。本作では模様表現に加えて、いかにも乳牛らしい「どっしり感」があふれている箱形の胴体、喉から垂れ下がって腹部に至る皮膚の様子までもが同時に組み込まれていて、円熟の表現技術に圧倒されます。

(解説 北條高史) Comments: Hojo Takashi

ORIGAMI TANTEIDAN
折紙探偵団
 MAGAZINE
 CONTENTS

No. **112**



Milk Cow : Kawahata Fumiaki

クローズアップ / Close-up

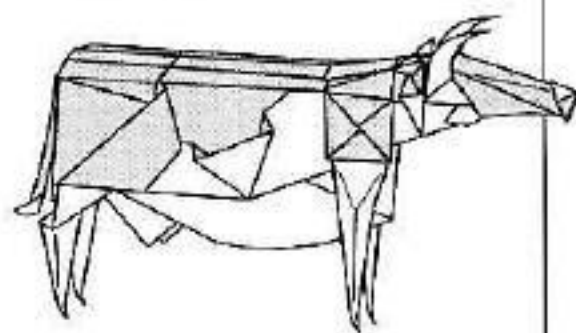
**P.11 第1回
国際折紙著作権会議
(東京)**

The First International Origami
Copyright Meeting (Tokyo)

西川誠司
Nishikawa Seiji

折り図 / Diagrams and Crease Pattern

P.22 乳牛
Milk Cow



川畑文昭
Kawahata Fumiaki

**P.33 展開図折りに挑戦！
Crease Pattern Challenge!**

シーラカンス

Coelacanth

各務 均
Kakami Hitoshi

カラーページ / Color

**P.20 オリガミ・フォトギャラリー
Origami Photo Gallery**

解説・北條高史
Comments : Hojyo Takashi

折り図 / Thematic Series with Diagrams

P.4 まーしーのユニット・オルタナティブ

Mercy's Unit Alternative

スリット折り鶴
Modulo-Orizurus

田中将司
Tanaka Masashi

P.8 おりがみ我楽多市

Origami Odds and Ends

千円札のトルソ
1000-Yen Bill Torso

やまぐち真
Yamaguchi Makoto

読み物 / Articles

P.14 過去の折り紙に学ぶ

Learning from the Paperfolding of the Past

折り紙の歴史概観・起源から現在まで
第2部・折り紙の近代から現代

A Brief History of Origami: from the origin to the present
Part 2: Modern and Contemporary Origami

羽鳥公士郎
Hatori Koshiro

P.16 折紙図書館の本棚から

From the Bookshelves of the JOAS Library

『折り紙』
"Origami"

小松英夫
Komatsu Hideo

P.18 折線雑考

A Long Excursus on Crease Lines

折線を接続するとき起きること

What Happens When Crease Lines Meet

目黒俊幸
Meguro Toshiyuki

P.34 ペーパーホルダーの横顔

Paper Folders on File

ブライアン・チャン
Brian Chan

取材：やまぐち真
Yamaguchi Makoto

コラム / Columns

P.7 折り紙の周辺

Origami and Its Neighbors

布施知子
Fuse Tomoko

P.32 おりすじ

Orisuzi ("Fold-Creases")

武田直樹
Takeda Naoki

情報 / Information

P.35 つまみおり Rabbit Ear

PRO (バシフィック・リム・オリガミ・グループ)
ミーティングレポート

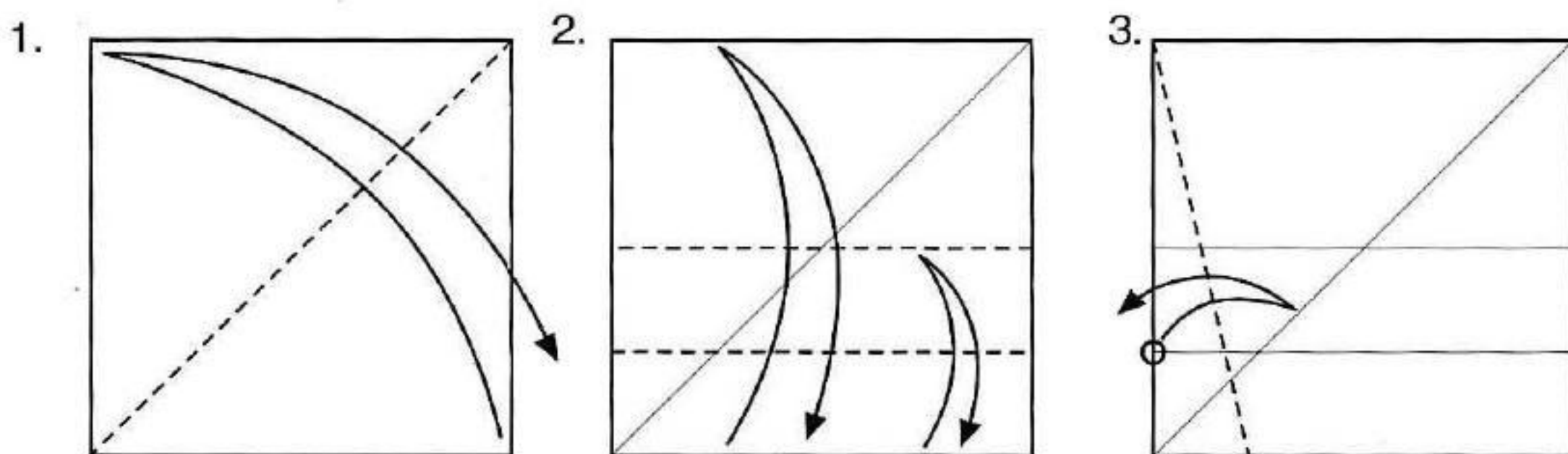
Pacific Rim Origami Group Meeting Report



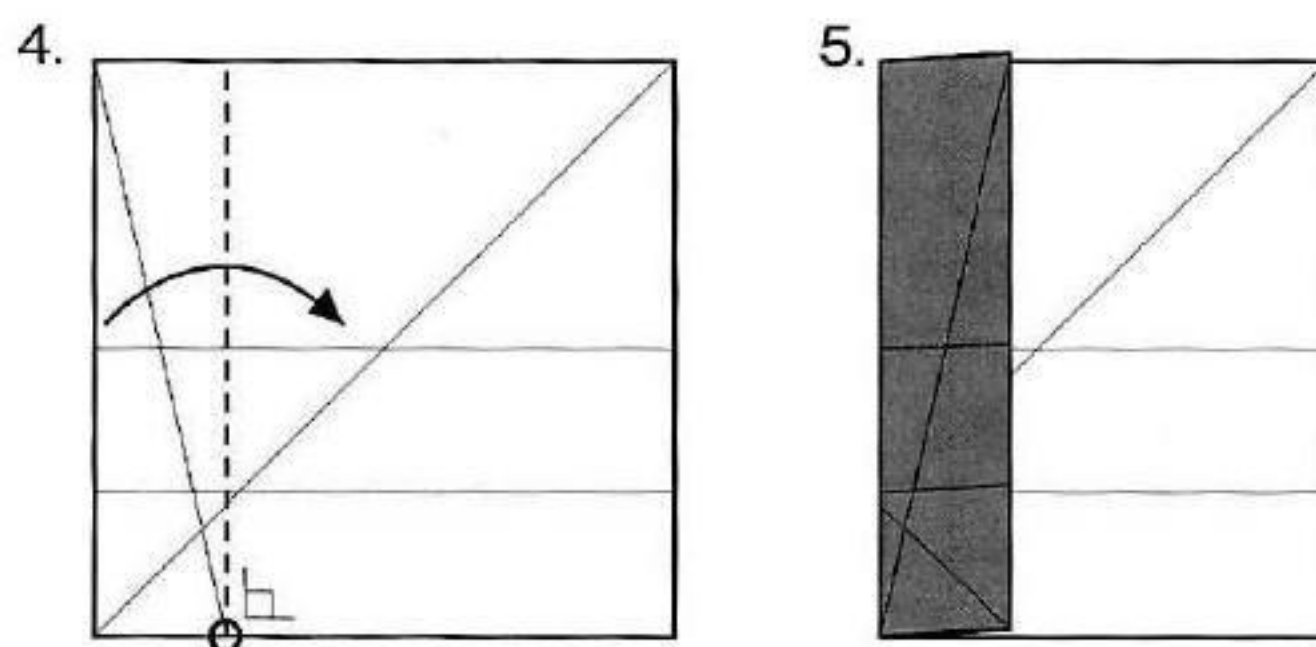
KFD-OriClub所属。折紙探偵団東海友の会スタッフ。苦手なものは酔っ払ったYさん。詳細は名古屋コンベンションで。

第3回 スリット折り鶴 Modulo-Orizurus

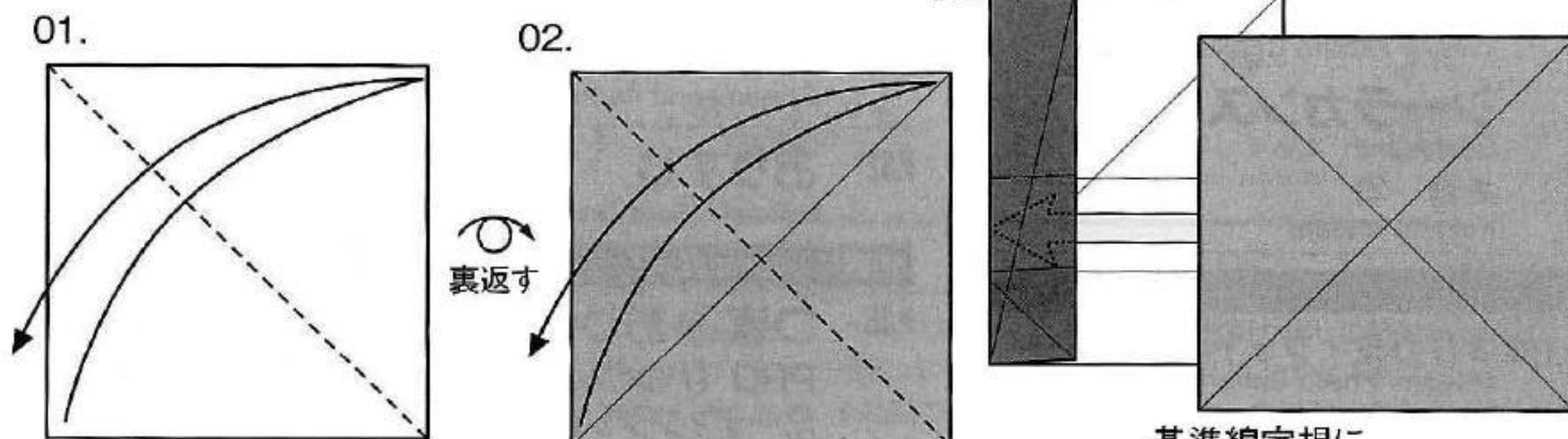
【基準線定規】 パーツを折る紙と同サイズの正方形を用意する。



○印点を対角線上に乗せる

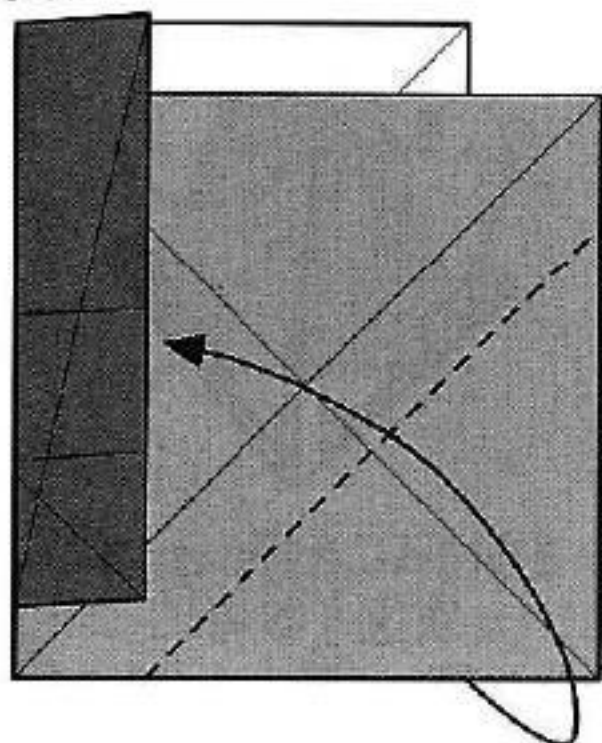


【スリット折り鶴(片羽スリット)】

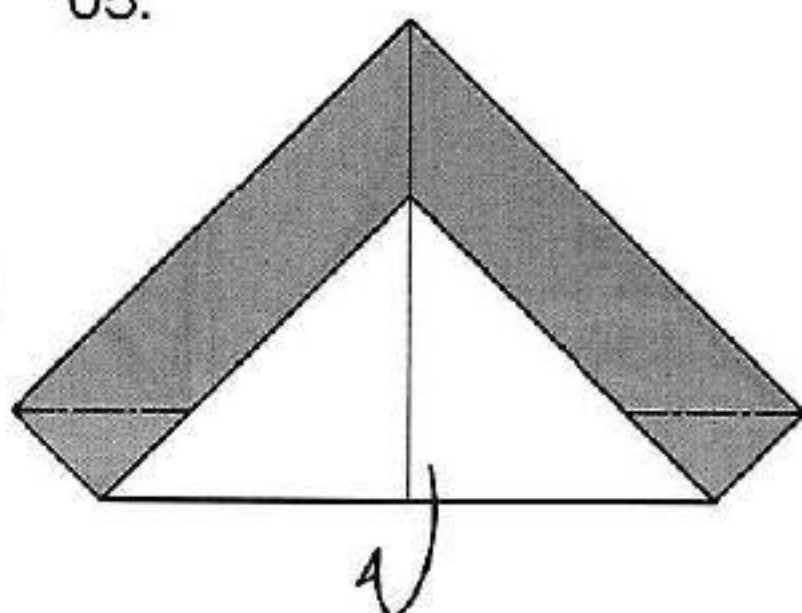


基準線定規に奥まで差し込む

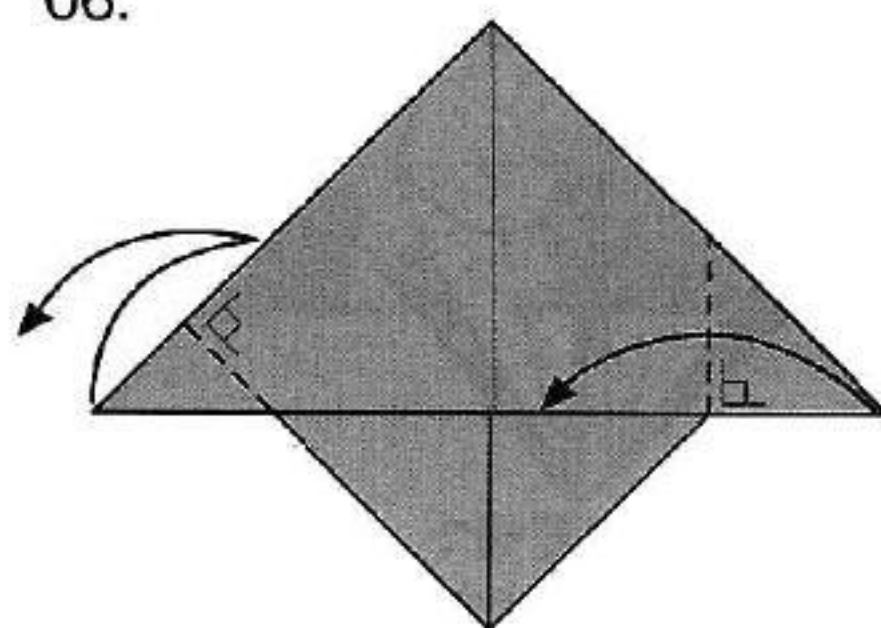
04.



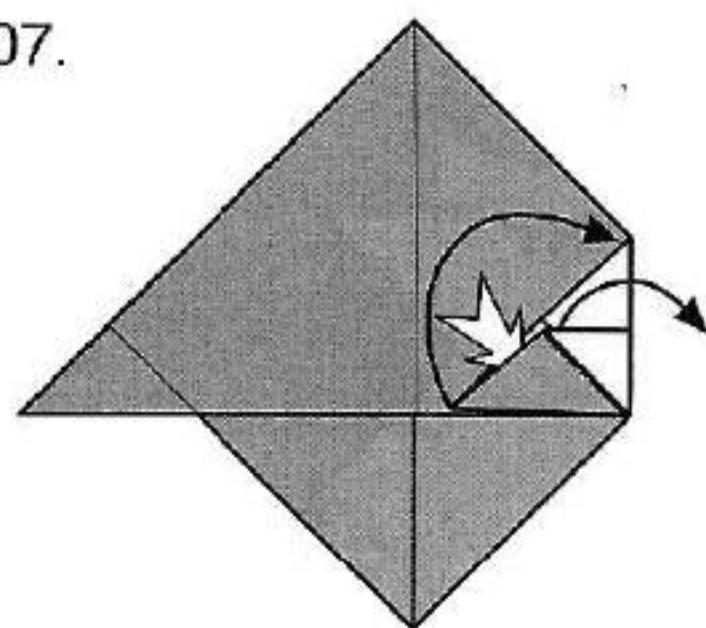
05.



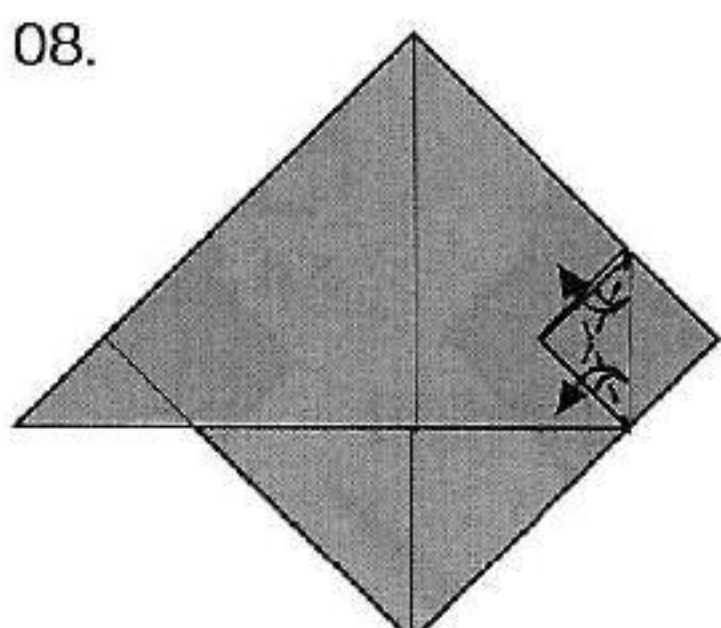
06.



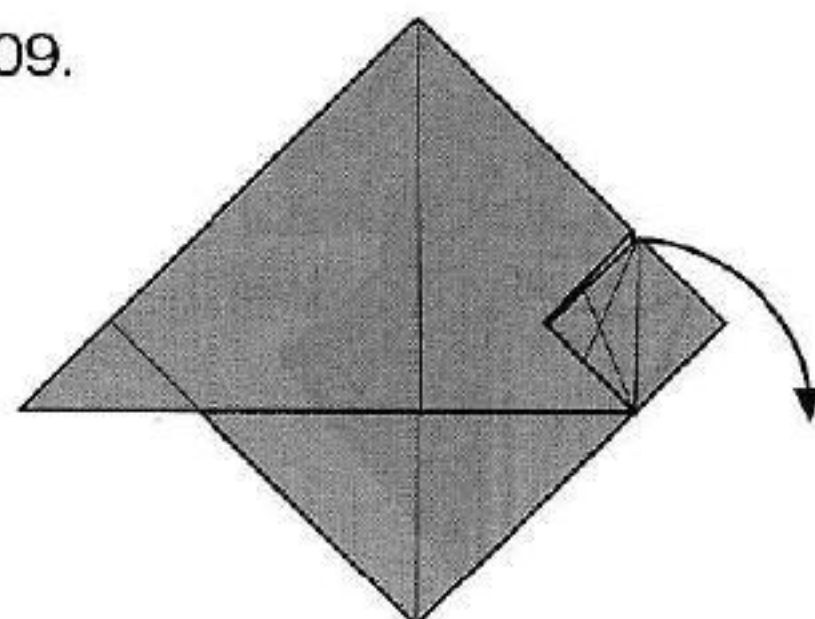
07.



08.

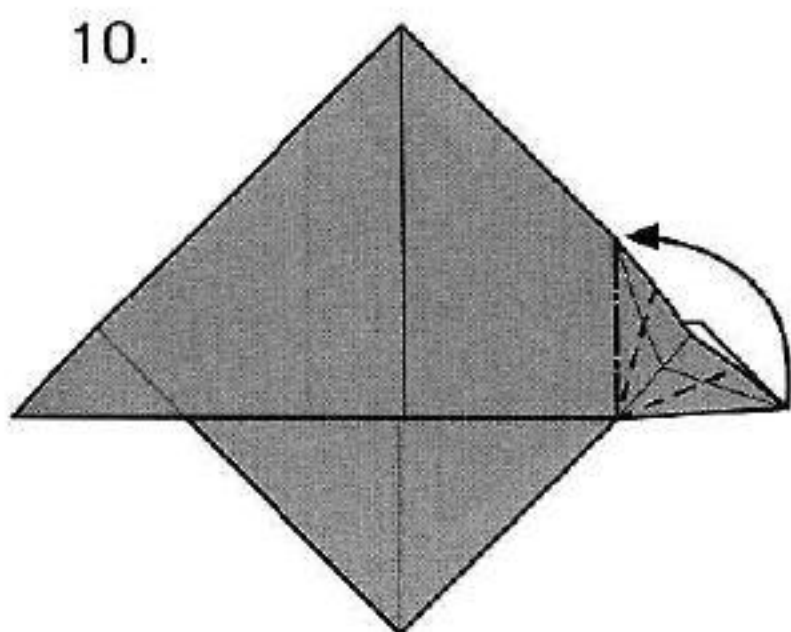


09.



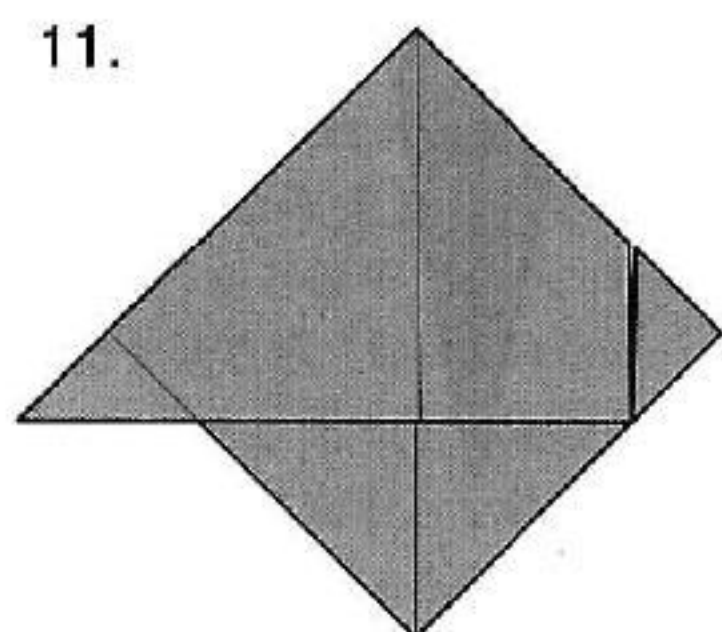
いったん開く

10.



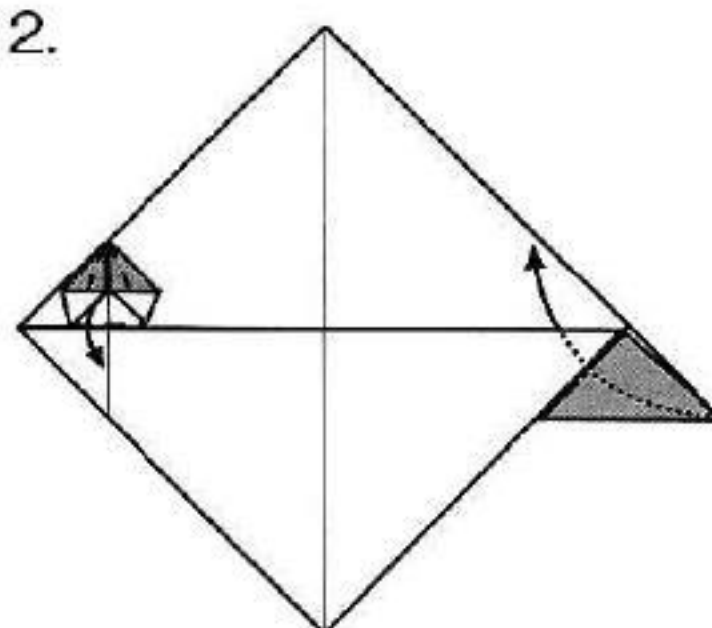
山谷を折り変えて
たたむ

11.



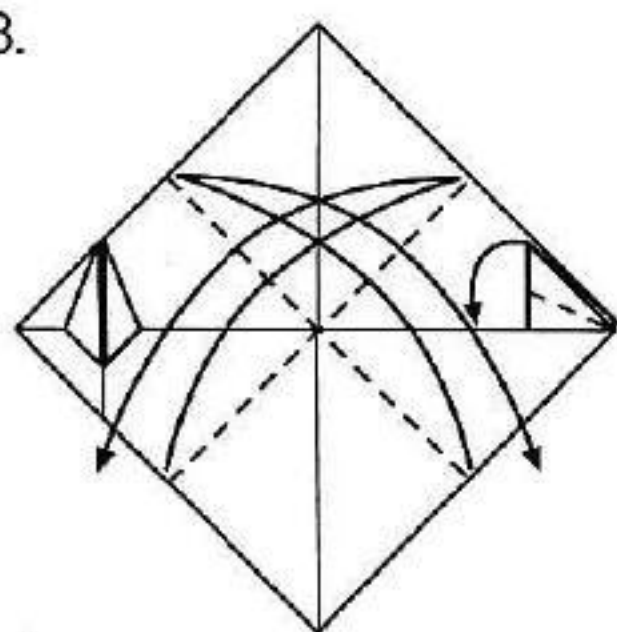
裏返す

12.

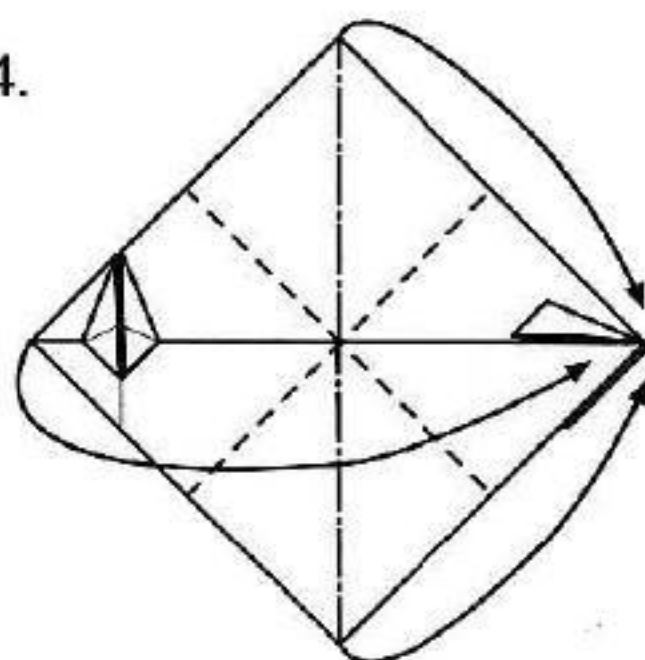


右側は中割り折り

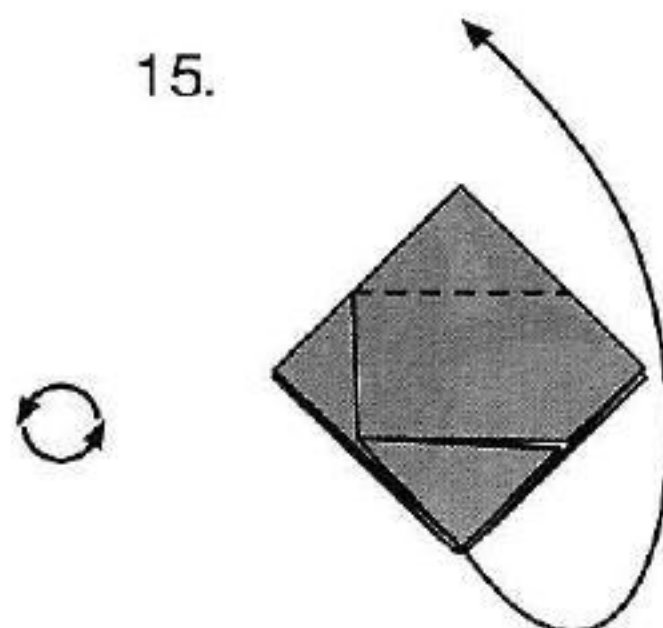
13.



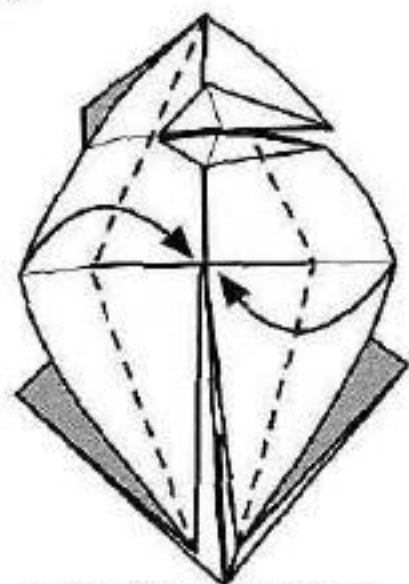
14.



15.

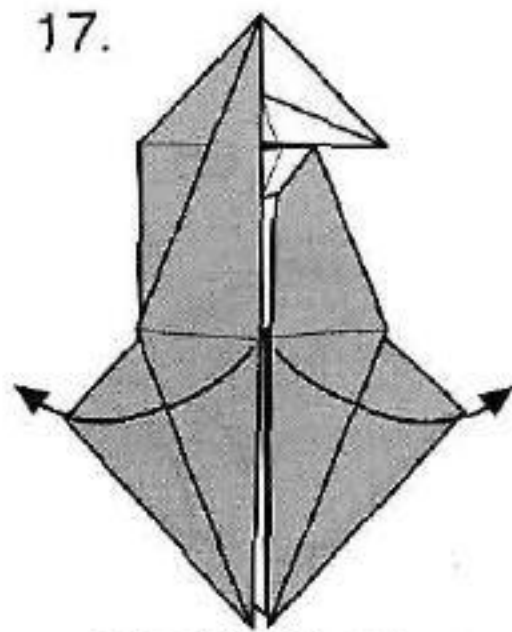


16.



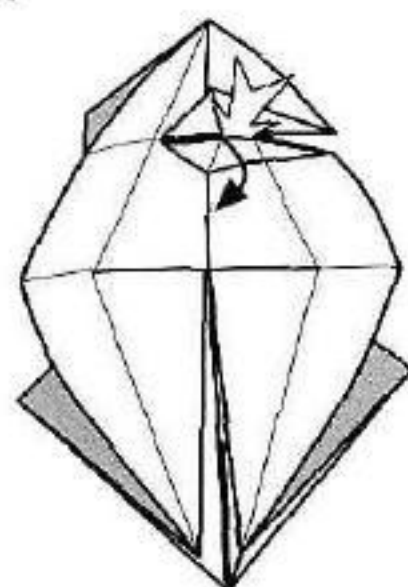
折り鶴の要領で
いったん折たたむ

17.



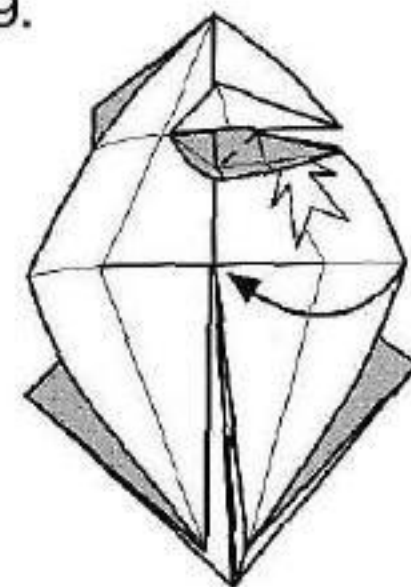
折り線を付けたら
開く

18.



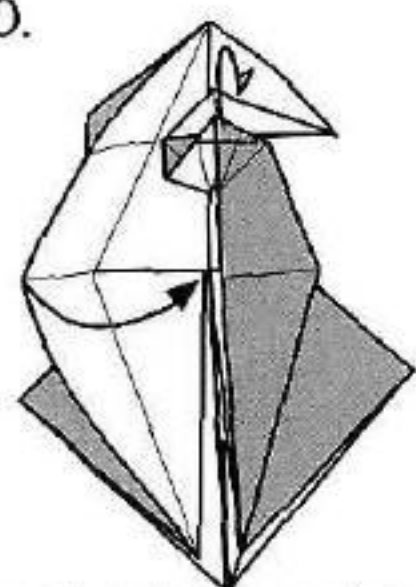
ここを開いて

19.



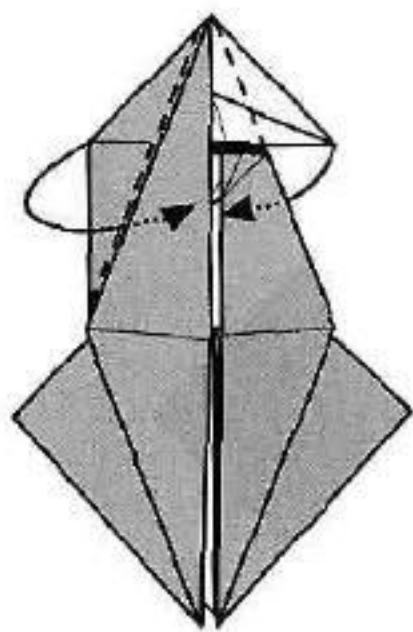
さらにここを押し上げて
次図を参考に
押しつぶした後

20.

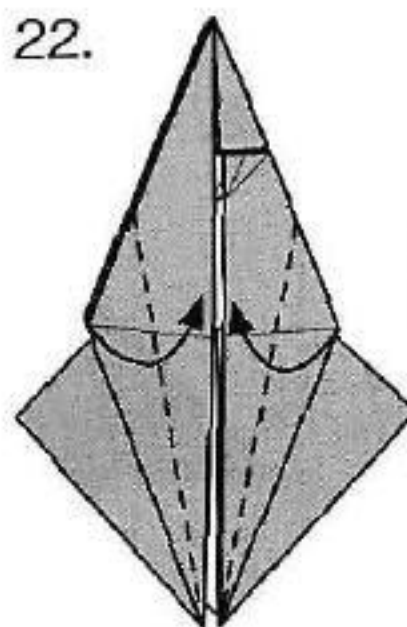


スリットからはみ出る
部分を折り返す

21.

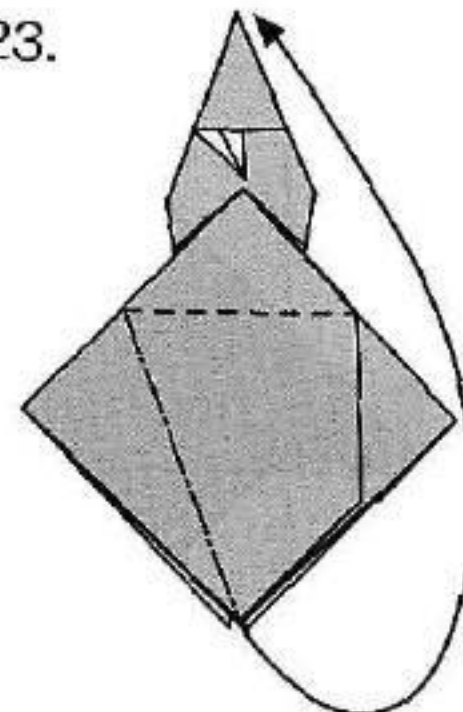


22.

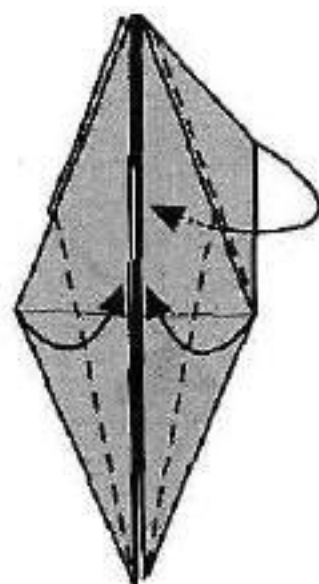


裏返す

23.



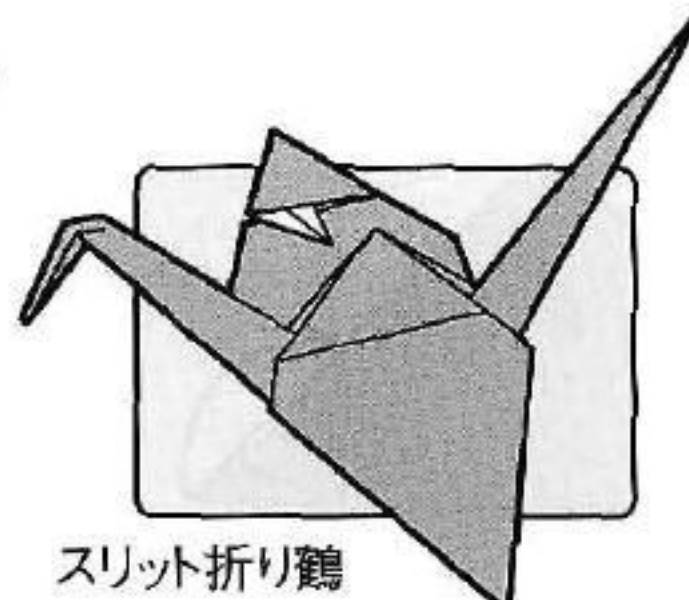
24.



25.

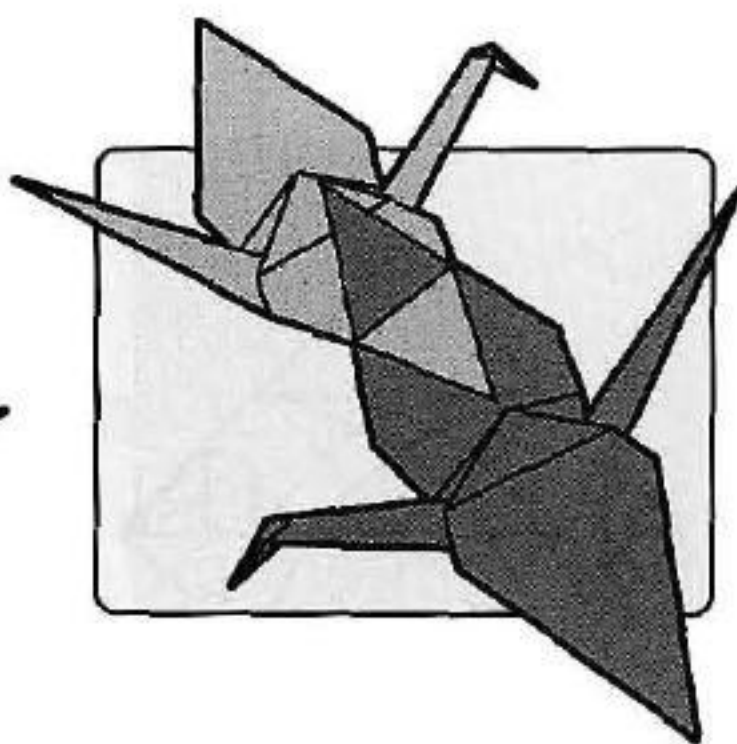
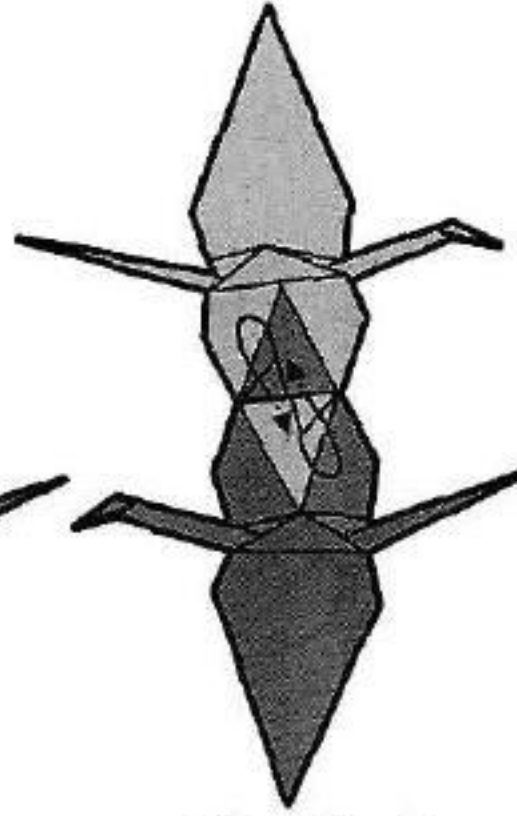
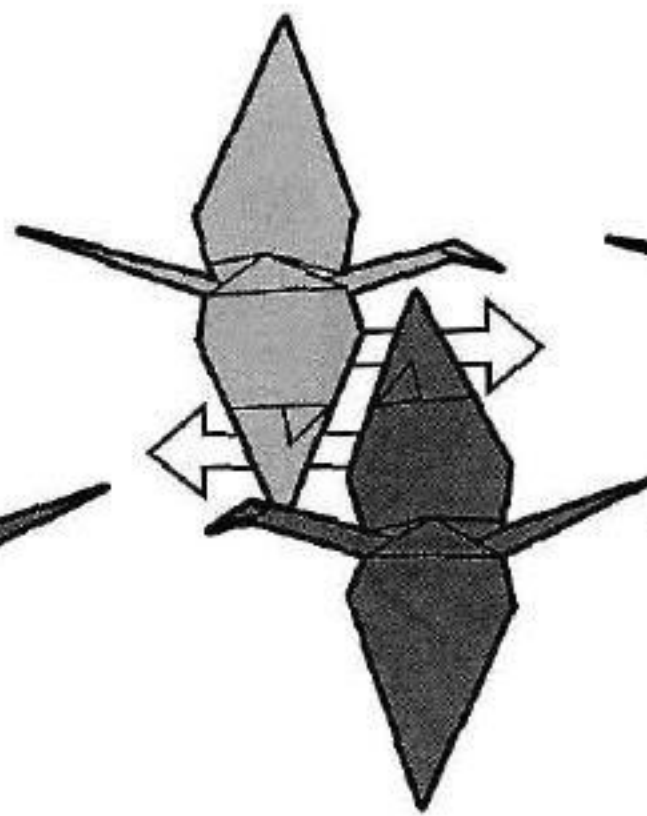
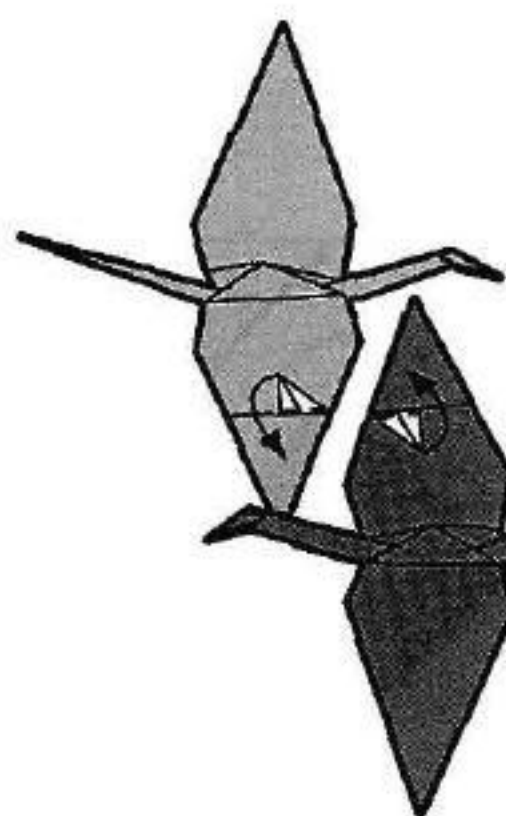


26.



スリット折り鶴

【組み方】

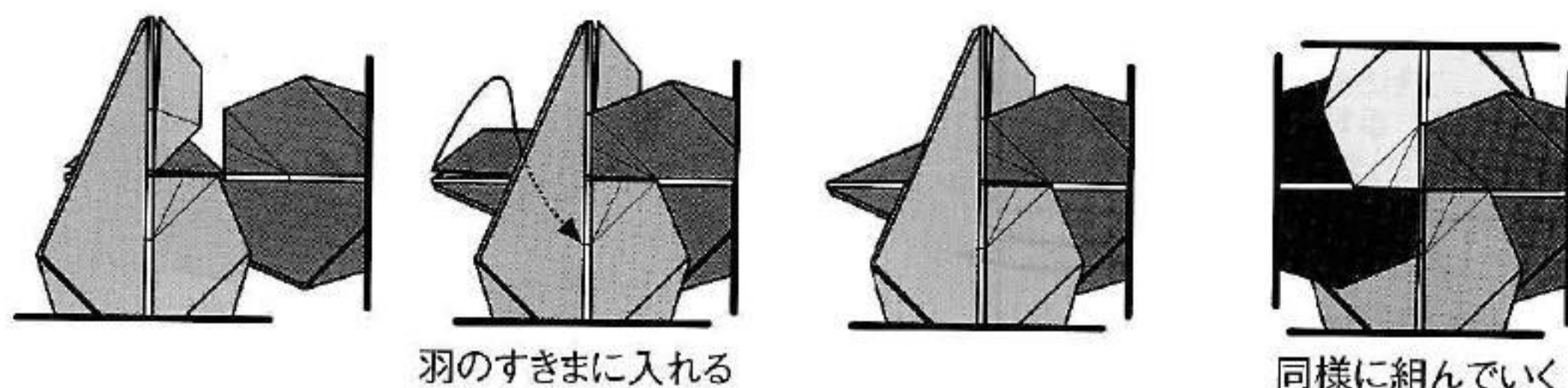


ストッパーを
すきまに差し込む

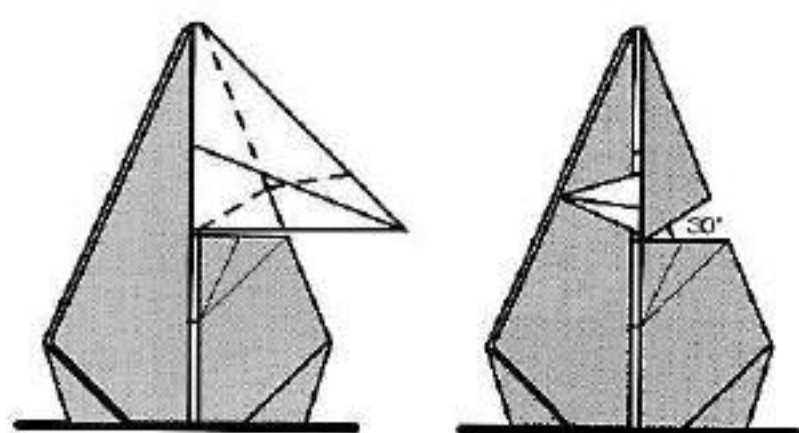
【4交差用改造】



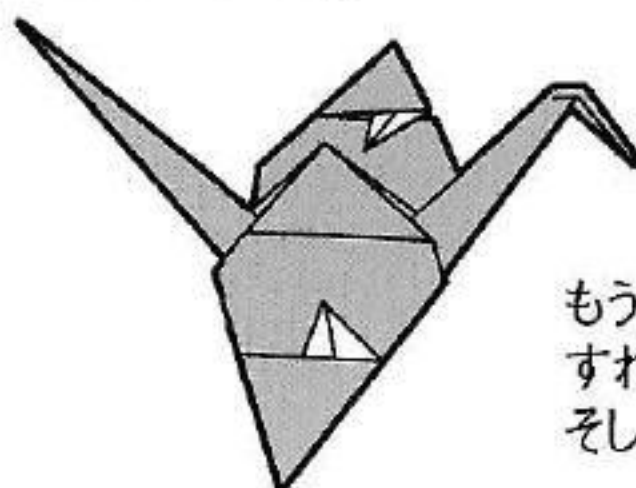
【4交差組み方】



【3交差用改造】



【両羽スリット】



もう片側もスリット化すれば多面体も組めます。そしてさらに……。

折り紙の 周辺

第32回

続ける
Lasting Origami
Activities

Origami and
Its Neighbors

布施知子 Fuse Tomoko

毎年干し柿を作っている。今年は250個ほど作った。皮剥きはタロ氏。ひもにくるのは私。当家の日照は半日ほどなので、日当りのいい道路脇に軽トラックを止めて荷台にはしごをおき、車のてっぺんとの間に竹を渡して、そこに干し柿をかける。カビが生えないよう注意をおこたらず、まめに手入れす

る。結構な作業量なので、今年はやめようかと毎年思うが、なっている柿を見ると、もったいない一つもいってみるか、となり、結局やろうか、ということになる。干し上がった揉んで新聞紙にくるみ、段ボール箱にいれておく。きれいに糖が浮き出て白くなるまで1か月半くらいかかる。作り方は郵便屋さんから教わったので今もそれを踏襲している。何でもやめるのは簡単というが、やめるのも続けるのも簡単ではない。

11月上旬に高知県の小学校で3年生と4年生に折り紙の授業をした。講習ではなく「折り紙のびっくり」というテーマで講話と実習。一回きりの勝負。思えば私に折り紙が侵入してきたのは小学2年生のときだ。授

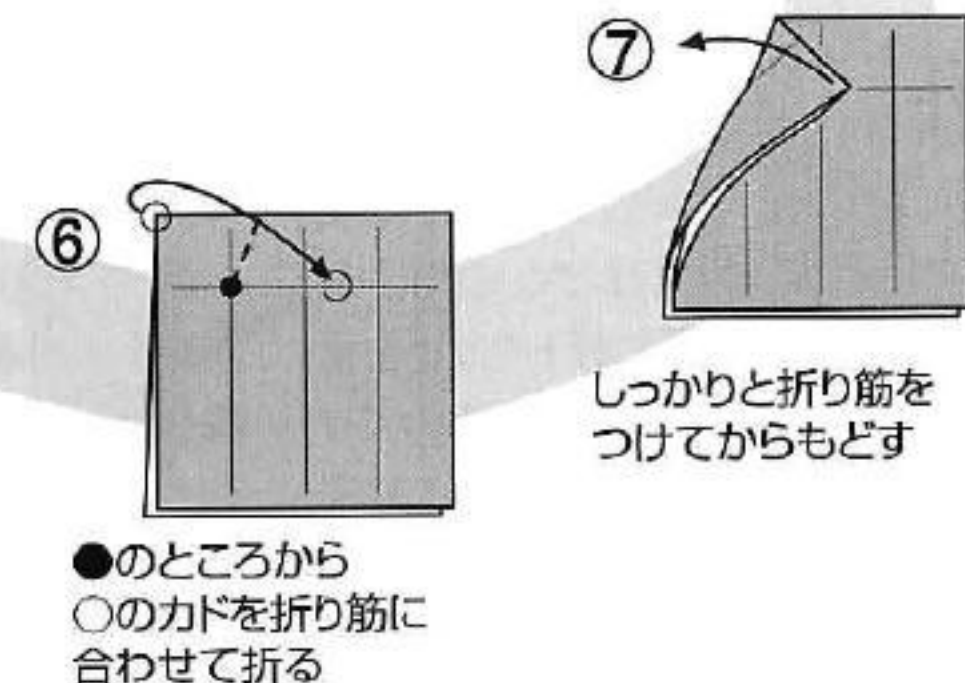
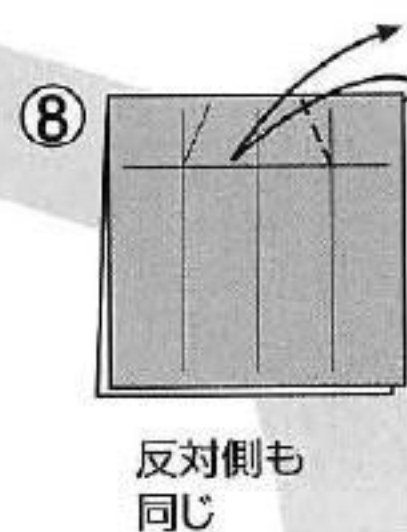
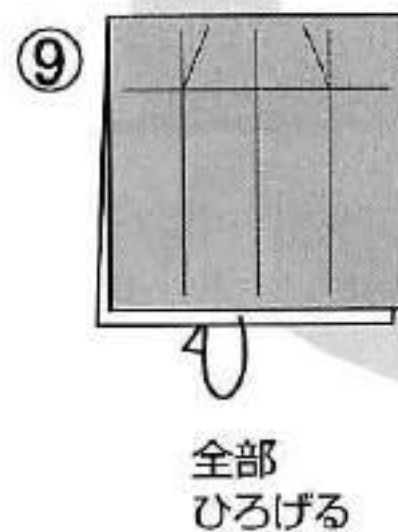
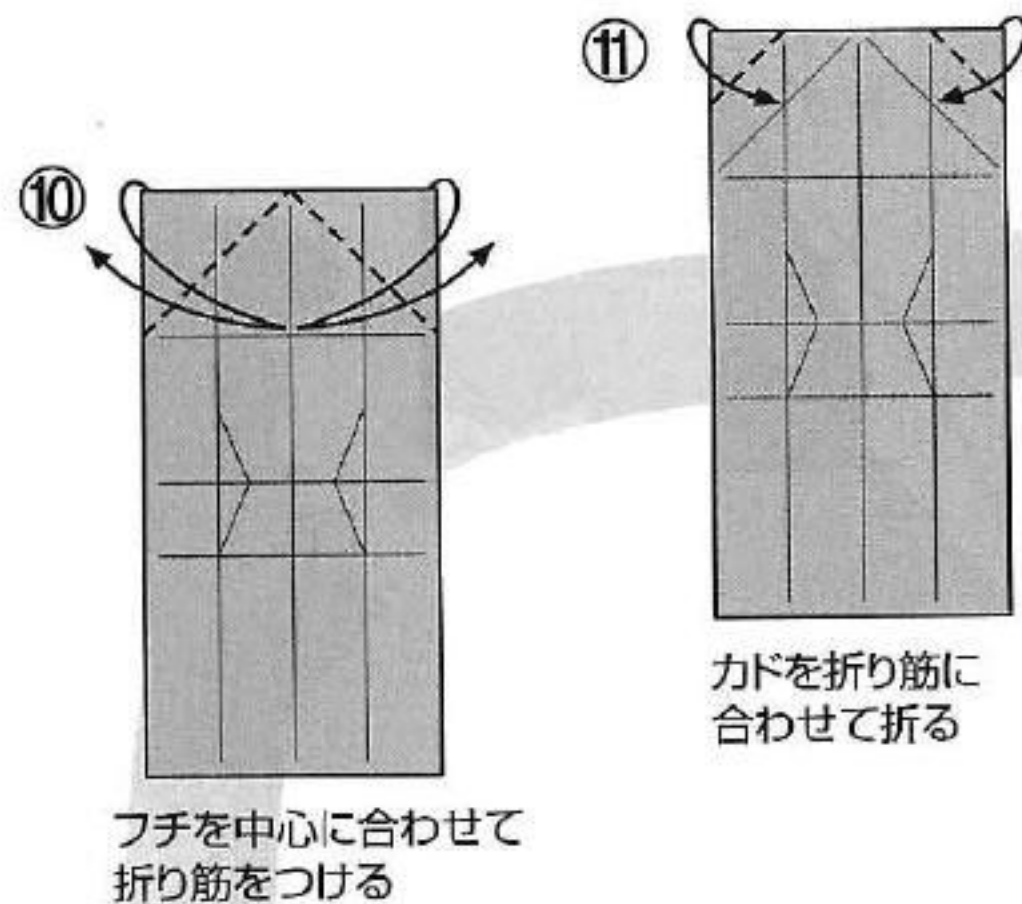
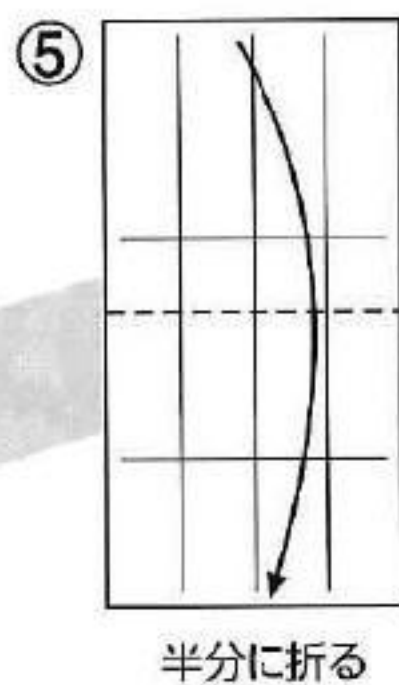
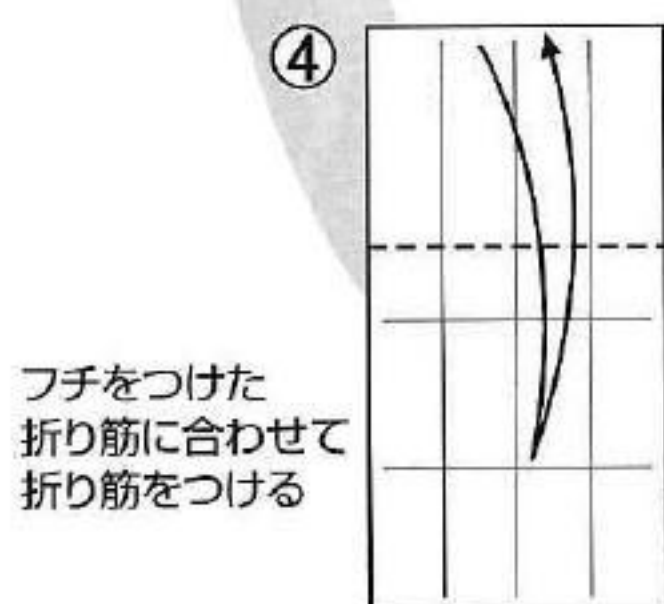
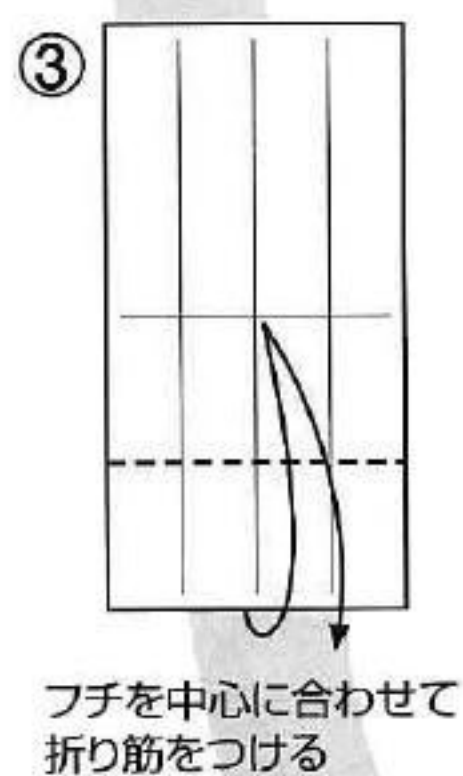
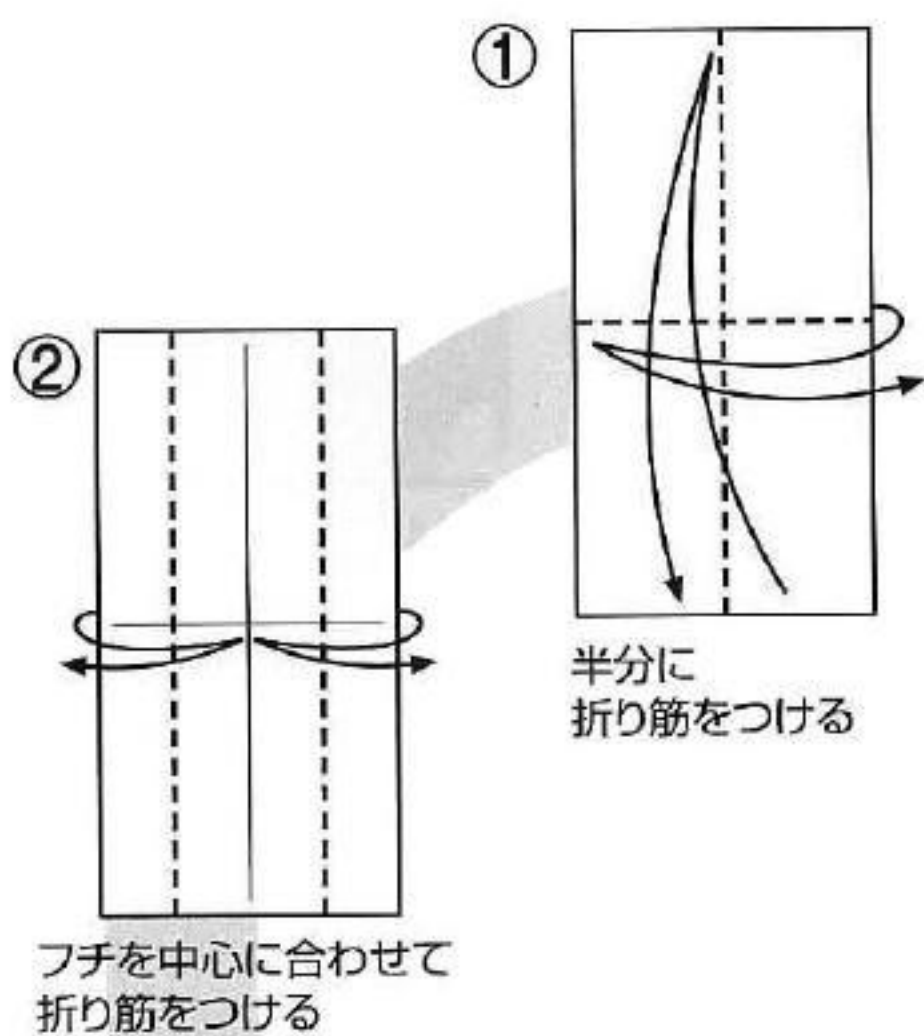
業の反応はよかった。次々取り出してみせたモデルにびっくりの歓声があった。この輝く瞳を見るために折り紙があり今ここに私がいる、と感じた。折り紙を続ける力のひとつ。

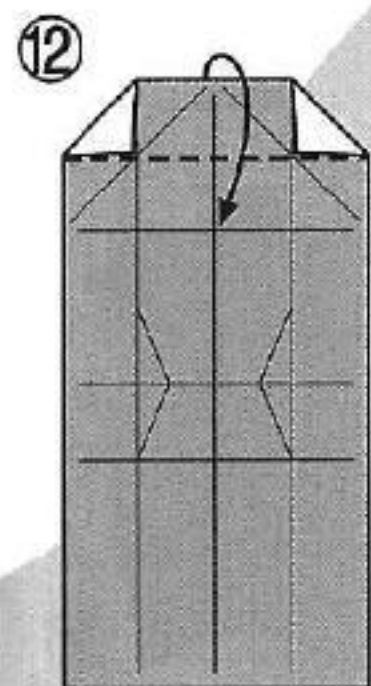
10月末ころから夕刻シカが鳴く。暖冬のせいか過疎が進んだせいか、ここ数年でイノシシとシカが増えた。カモシカも増えた。山道は彼らの足跡でいっぱい。だれの足跡かタロ氏とあれこれ言いながら散歩する。農作物にまだ大きな食害はないが、人と動物がバランスのとれた関係であるよう願う。闇をふるわせてシカが鳴く。キツネが鳴く。こんなはっきりした衝動に、私は心と体を揺すぶられる。季節が動いた。

第33回 千円札のトルソ

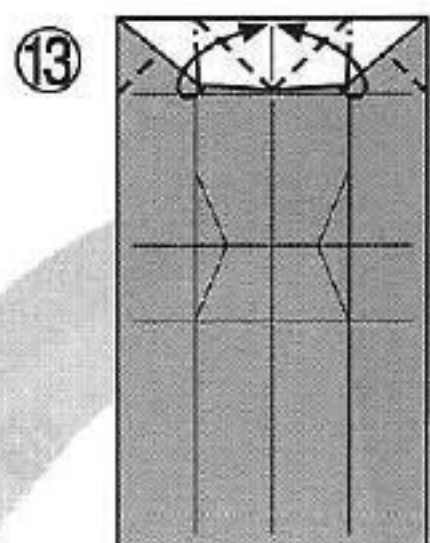
1000-Yen Bill Torso

先日、「箸袋で箸置き。」(PHP研究所)という箸袋とお札を使った折り紙の本を執筆しました。その時に用意した作品の中から、スペースの都合上掲載できなかった「トルソ」と、シンプルで面白い「ニセ円札」を紹介します。

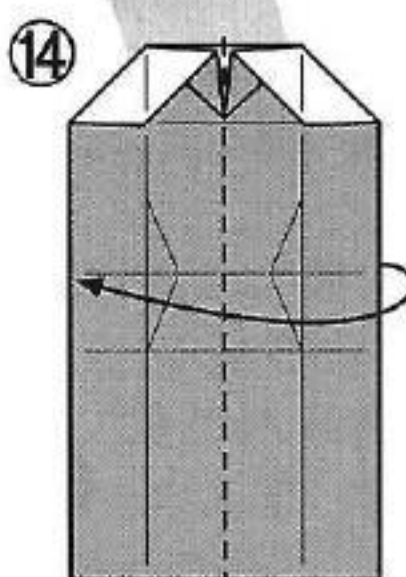




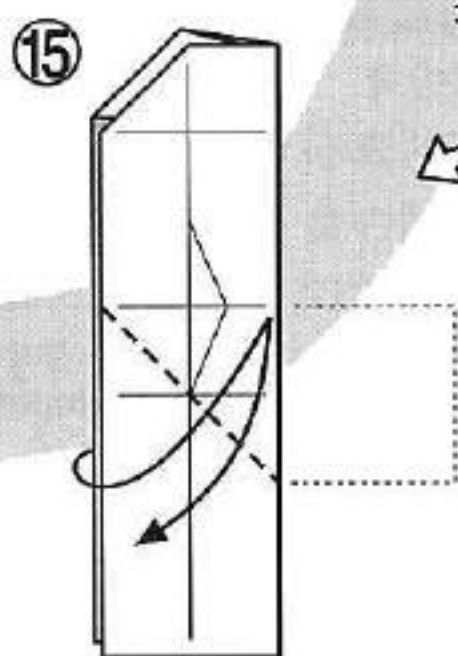
フチを折り筋に合わせて折る



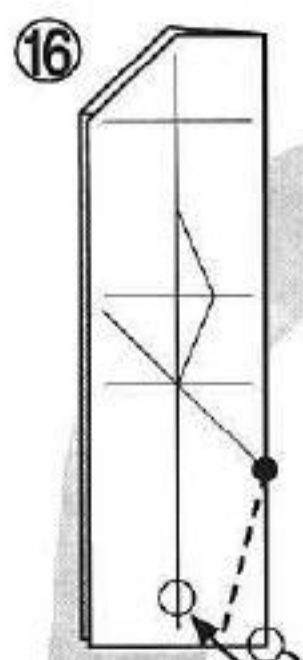
⑬ ついている折り筋を使って内側をひろげてつぶすように折る



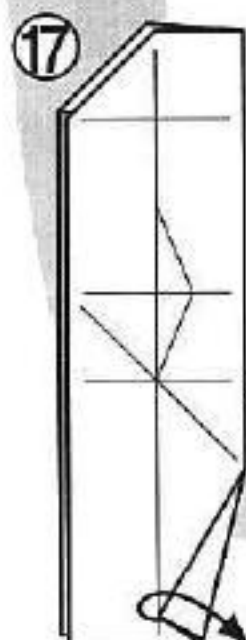
⑭ 半分に折る



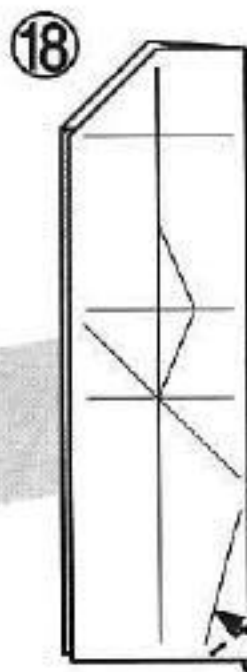
⑮ フチを折り筋に合わせて折り筋をつける



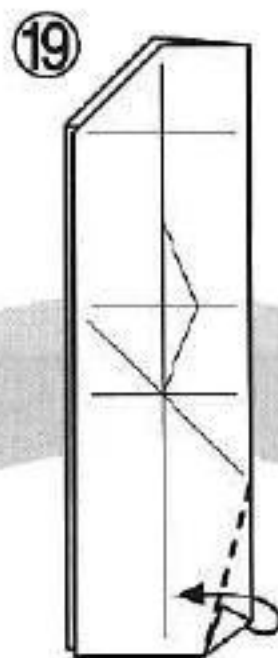
⑯ ●のところから○のカドを折り筋に合わせて折る



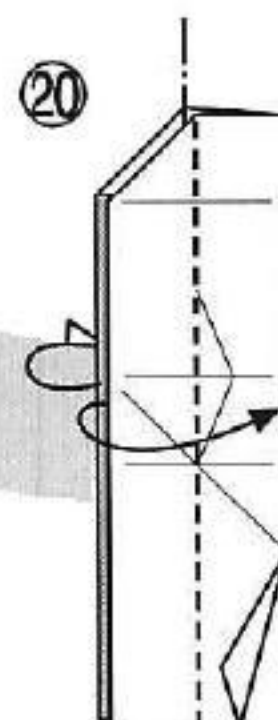
⑰ しっかりと折り筋をつけてからもどす



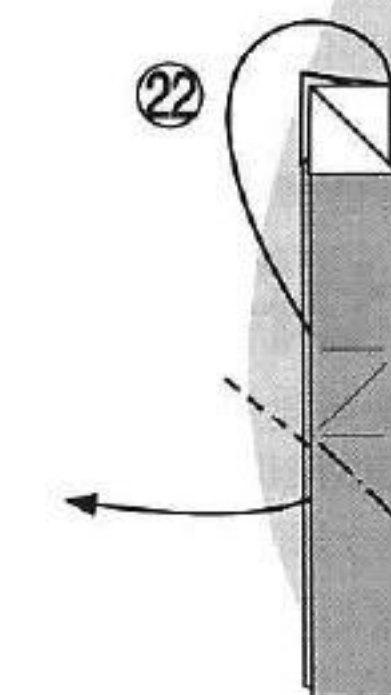
⑱ フチを折り筋に合わせて折る



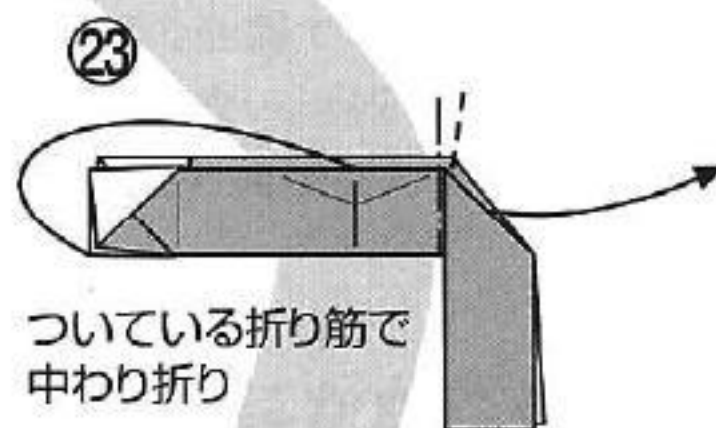
⑲ ついている折り筋で折る



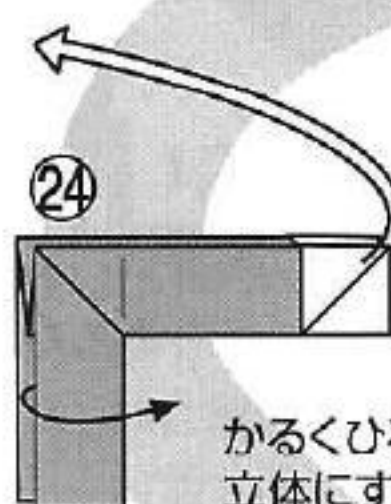
⑳ フチをついている折り筋で折る



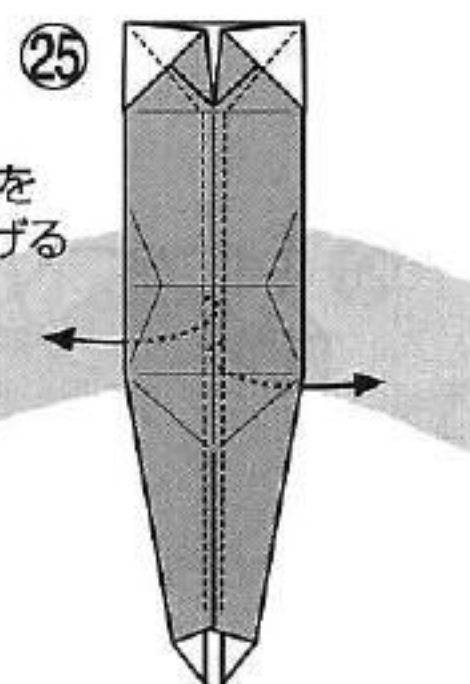
㉒ つけた折り筋で中わり折り



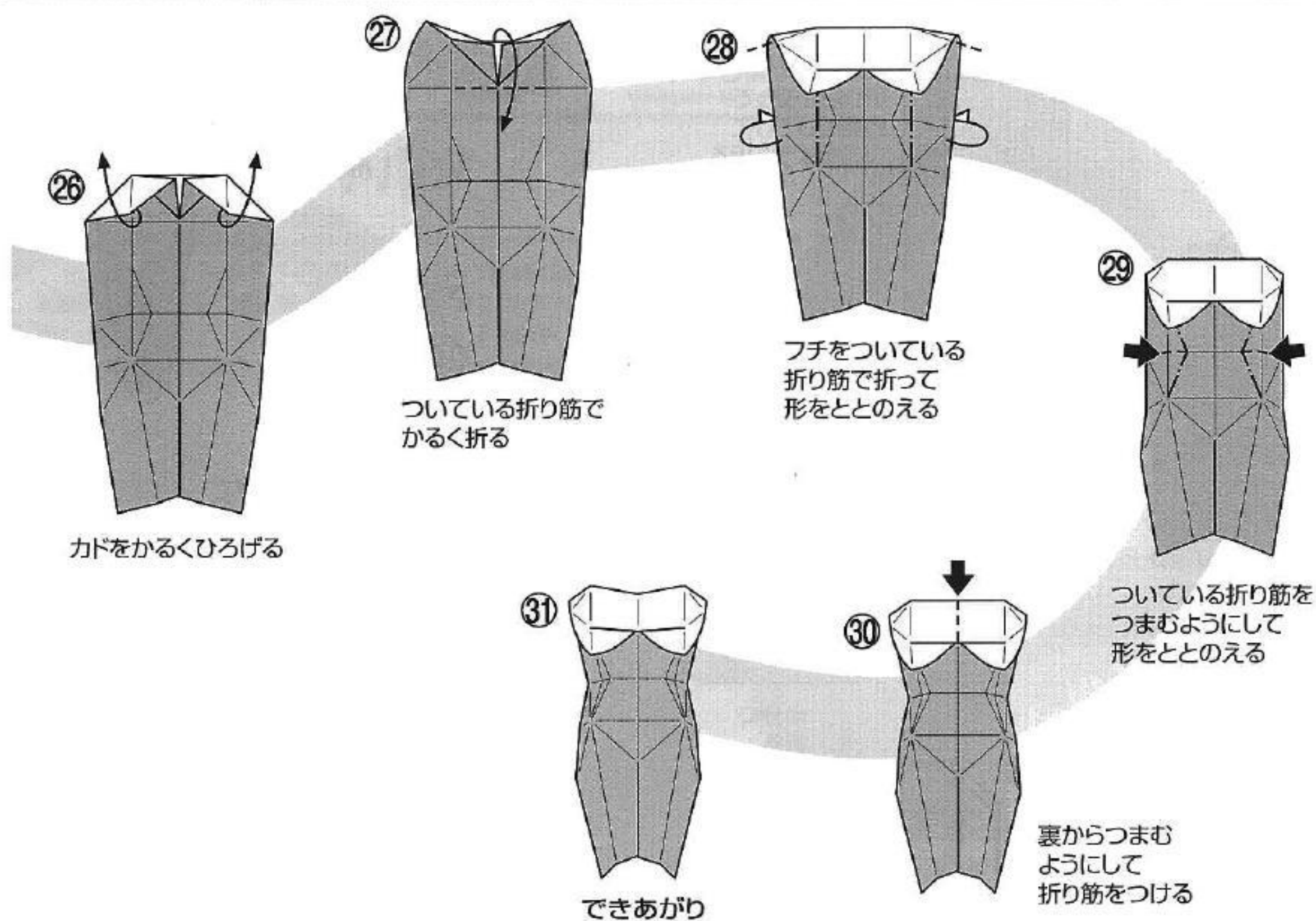
㉓ ついている折り筋で中わり折り



㉔ かるくひろげて立体にする

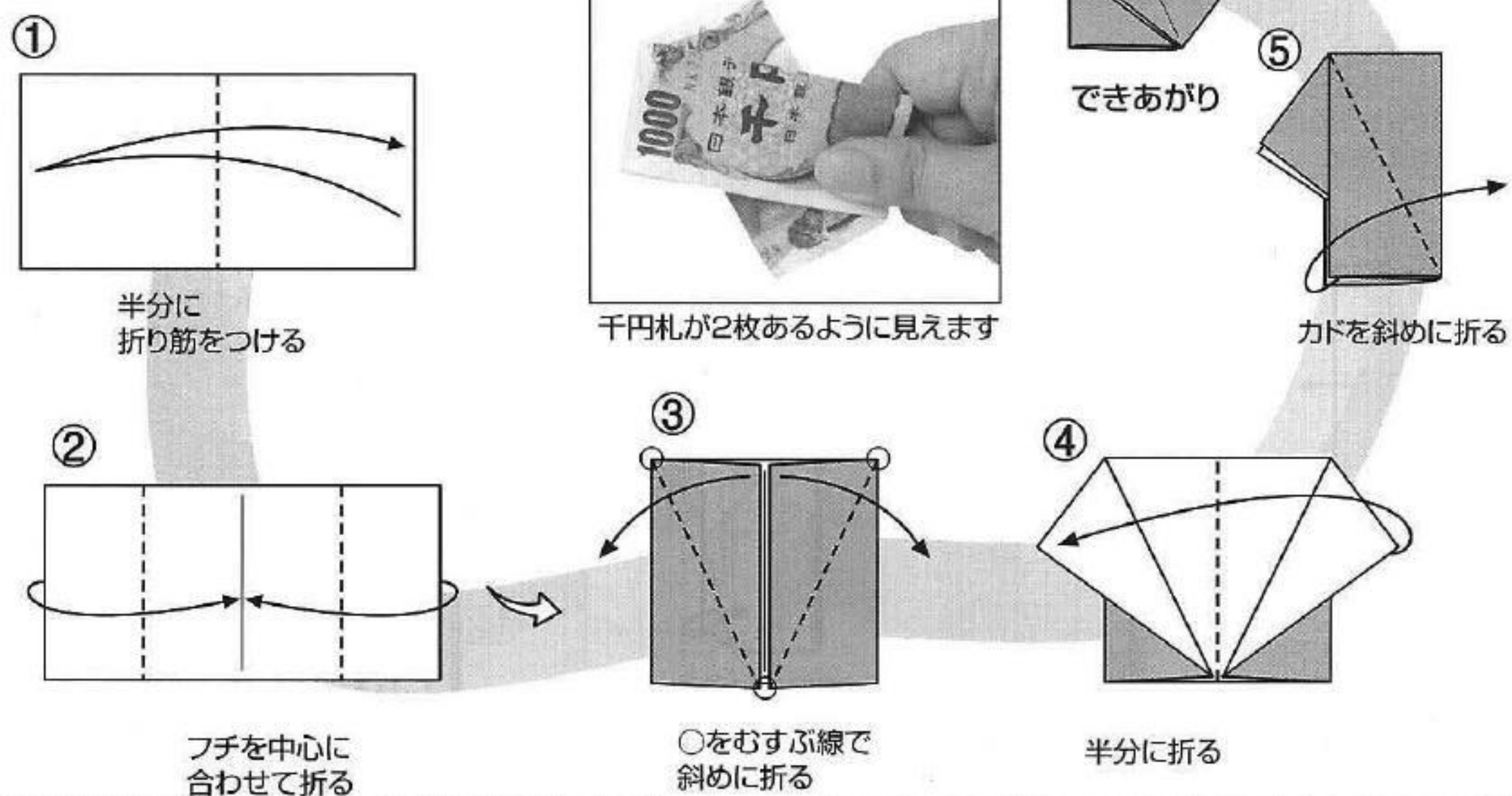


㉕ 後ろのフチをかるくひろげる



おまけ [ニセ円札]

この作品は20年ほど前に考えた作品です。
くれぐれも支払いには使わないように。



第1回 国際折紙著作権会議 (東京)

First International Origami Copyright Meeting (Tokyo)

October 11th-13th 2008

報告: 西川誠司

Nishikawa Seiji

「第1回国際折紙著作権会議」は10月11～13日の3日間、国内外の折り紙の創作者や折り紙出版物の著作者39名が集まり日本折紙学会JOASホールで開催された。本会議はすべての議論が日本語と英語で確認しながら進められ、最終日には折り紙の知的財産保護に関する声明(表1)を策定に至る熱い議論の3日間となった。

経緯

まず、この会議は昨今の折り紙の創作性を軽視したと思われる著作出版の増加などに問題意識を持った、おりがみはうす代表の山口真氏が、現状認識を共有し合うため、海外の著名な作家と意見交換する場を持つと呼び掛けて実現したものだ。おりがみはうす20周年の企画として10名の海外作家を山口氏が自費で招待することを決めたことに始まる。実は、呼びかけを受けた欧米の作家の間でも昨今の特にインターネット上での書籍の無断ダウンロードサイトなどへの対応や山口氏同様に出版の現状への問題意識が高まっていた(例えば本誌108号p.37参照)ところであった。日本折紙学会としては、これまでも折り紙の創作性を理解してもらうため、ガイドライン(「知的財産としての折り紙について」2005年5月)を提案するなど、同様の問題意識を持っており本会議が有意義な

会議となるよう運営に全面協力することとした。本誌でも本会議の開催をお知らせしてきたが、最終的に39名(表2)、6カ国からの参加を得てこの歴史的な国際会議がスタートした。

プレミーティング

本会議前日の10月11日には、海外招待者と日本からは山口氏と日本折紙学会の評議員で会議の運営方針に関してプレミーティングを行った。プレミーティングでは本会議のアジェンダと会議の運営方法などを討議した。会議全体の進行役は筆者とノグチ氏が務め、立石氏、羽鳥氏、ノグチ氏が発表内容の日英の通訳を分担して進めることとした。詳細な議事録は日本語版を川村氏、英語版をジャン・ポーリッシュ氏が担当となった。

この会議は、「折り紙の創造性と共有を実現するために、創作者の権利を守る」ことを目的に、議論を進めるものであることを確認し合った。

12日 10:00-17:00

アジェンダ(表3)に沿って、各人30～60分程度の話題提供が順次行われ、特に興味ある話題について最後に総合討論を行う形式で進めた。

はじめに、呼びかけ人である山口氏から、「1回の会議ですべてが解決するとは思っていない。回を重ねることが大切だ」と開会の挨拶があり、熱い討議の幕が開いた。

著作権にかかわる概要

はじめに、全体的な理解を共有するために、3つの話題提供が行われた。

ジャン・ポーリッシュ氏とロバート・ラング氏からは、弁護士と予め相談の上で用意した簡潔な資料で、米国の著作権法と折り紙の関わりをわかり易くまとめてくれた。折り紙は米国の著作権法の解釈からは明らかに保護されるべき表現物であるとの主張である。ベルヌ条約批准国では著作権は著作物が表現された時点で発生するが、米国には別に登録制度もある。参加者からは米国特有の登録制度などについて熱心な質問があった。

折り紙の知的財産権に関する会議の声明(和文)

2008/10/13 JOAS ホール

私たちは以下のことに同意します

折り紙アーティスト(創作者、正当な作図者・制作者)の諸権利は保護されなければならない:

- 作品・図の使用前には
権利所有者の許諾が必要である。
使用にまつわる、報酬その他の契約項目の合意が必要である。

- 作品・図の使用時には
明白な形で認められている場合を除き、権利所有者の名誉を保護し、名を示さなくてはならない。

私たちは、権利の侵害及び無許可の複製、配布に強く反対するものである。

表1. 折り紙の知的財産保護に関する声明

(米国) マーク・カーシェンバウム、ジャン・ポーリッシュ、ロバート・ラング、アン・ラビン、マルシオ・ノグチ
(英国) デビッド・プリル、マーク・ボライソ
(カナダ) ジョセフ・ウー
(フランス) ニコラス・テリー
(韓国) オウ・ギュソク
(日本) 山口真、前川淳、立石浩一、羽鳥公士郎、津田良夫、北條高史、川村みゆき、川崎敏和、川畑文昭、三谷純、西川誠司、大橋皓也、佐野友、青木伸雄、三浦公亮、桃谷好英、山梨明子、吉澤喜代、菊川多美子、塩川誠、松尾俊夫、布施知子、神谷哲史、松浦英子、小松英夫、新宮文明、藤本祐子、館知宏、重松祥司

表2. 会議出席者一覧(敬称略)

羽鳥氏は日本の知的財産権の概要を説明した。日本の場合、知的財産権は著作権、著作隣接権、工業所有権に大別される。アイデアは著作権法では守られないなどの意見があるが、折り紙の創作が表現であり著作権や著作隣接権で守られるべきものであるとの主張を行った。

筆者は折り紙作品の伝搬ルート(図1)について、この会議に集まった識者の基本的な共有イメージを確認し、伝搬ルートに関わる様々な立場の人々に折り紙の知的財産権の理解を求めていかななくてはならないことを強調した。

事例報告

続いて、具体的な事例について4人が話題提供を行った。

おりがみはうすの松浦英子氏から山口氏に関わった著作権に関わる問題事例として、

1) 山口氏の作品「はなみずき」が全く別の作者名で他人の著書に使用さ

れた件(国内)

2) 山口氏の著書と極めて類似性の高い著書が出版された件(海外)

3) 折り紙用紙に添付された折り方解説書への作品の無断使用(海外)

4) 折り紙のキット商品に山口作品が無断使用されたケース(海外)

の4つの具体的な事例の報告が行われた。例えば、1)は著者が原作者が誰であるかを良く調べなかった例。また、4)の事例は、現地弁護士によるレター作成に多大な費用が必要なこと、裁判で本人が当地に赴く必要があるなど、著作権者側の労力が掛かり過ぎる問題が指摘された。三浦氏は、著書の完全なコピーなどは著作権だけでなく不当競争防止法など他の法律に当てはめて不法性を指摘出来るとの考えを示された。

吉澤喜代氏は、50年以上前に始まる故・吉澤章氏の苦悩の体験のご紹介があり、問題の本質は当時と状況は大きく変わっていないながら、このような会議が開かれることには、隔世の感があるとの

感慨を述べられた。当時を知る桃谷氏からは、故・章氏の発表作品の背景にはその周辺に多くの試行錯誤の末に選択しなかった作品群があり、他人が章氏の発表作品との僅かな違いを強調し、自作として発表してゆく傾向が、むしろ劣化した形が伝播する結果になることを悲しんでいたとのコメントがあった。

ジョセフ・ウー氏からは、広告業界での無断で折り紙作品が取り扱われた事例が紹介された。広告業界では、创作者の権利が比較的理解されているイラストレーターの立場で接する方が著作権保護の理解を得易いという。折り紙作品の創造性への各業界の理解不足の問題が話題となった。

筆者からは、折り紙の創造性について各種のメディアからの理解を得ていかななくてはならないとの問題意識を日本折紙学会、日本折紙協会(NO A)が共有し、弁護士との相談など協調して取り組んでいることを報告した。

総合討議

多くの話題提供を受け、総合討論では現状の問題点がさらに幾つか指摘された。誌面の都合で一部にとどめるが、例えば以下のようなものである。

「著作権違反の根源にあるのは無知であり、知らしめていくのが我々の最初の行動だ」(ラング氏)

「『折り紙=安いもの』という構図になっていることが問題」(カーシェンバウム氏)

「出版社によって著作権への意識に開きがある。どのように交渉していくべきだろうか」(山梨氏)

「みんな本は出したい。買い取りなど出版社寄りの条件で素早く出す、自作品が少なく他人の作品を締め切りに追われて無許可で使用してしまうなど、著者の責任感が問われることになる」(山口氏)

「NO Aでも创作者のクレジットは各種展示会等でもお願いしているところだが、文部省が作った折り紙に関する映画でも创作者のクレジットが全くないというような経験もあり、引き続き抗議し続ける必要を感じているところだ」(大橋氏)

Origami Copyright Meeting Agenda

Oct/11 Pre-meeting 11:00-13:00, 15:00-

Chairperson: Nishikawa (Japanese), Noguchi (English)
Scribe: Polish (English), Kawamura (Japanese)

Oct/12 10:00-12:00, 13:30-17:00, 18:00- Reception

Opening (Yamaguchi)

Agenda Chairperson: Nishikawa (Japanese), Noguchi (English)

General (Polish/Nishikawa)

translator: Tateishi

Print

•Matsuura (Case studies)

translator: Noguchi

•Yoshizawa

translator: Hatori

•Wu (Artworks in advertisements)

translator: Noguchi

•Nishikawa (Action of NOA & JOAS)

translator: Tateishi

General Discussion

translator: Tateishi

Oct/13 10:00-12:00, 13:30-17:00

Web/Sale models & Photo/Others

•Brill/LaVin (OAC, Sale models)

translator: Tateishi

•Wu (Opposing view)

translator: Hatori

•Lang/Polish (Origami Clearing house)

translator: Noguchi

•LaVin (Digital Origami)

translator: Hatori

General Discussion

translator: Tateishi

Next steps

15:30-

Mission: Protect the right of origami creators while encouraging creativity and sharing.

Objective

Statement (English, Japanese)

System Idea(real face of creator, paragraph for books, symbol mark)

Next meeting

Share with origami communities

表3. アジェンダ

懇親会

会議参加者は、近隣のイタリアンレストランでの懇親会に参加し、更に積極的な意見交換が行われた。乾杯のあいさつに立たれた三浦公亮東大名誉教授からは、「これだけの人々が集まり一つの課題に集中的に取り組む機会は非常に得がたいものです。1日目の討議を聞いて、参加者の皆さんの問題意識とスタンスは比較的近いと感じました。これだけの会議が行われたのだから、是非最終日には一つの結論として“声明”の形で残し、次のステップに繋げていただきたいと思います。」と、非常に力強いご発声があった。

13日 10:00-17:00

2日目は、折り紙の著作権や知的財産権を守る新しい国際的な仕組み作りについていくつかの提案がなされた。

新提案など

デビッド・プリル氏からは、オンラインでの著作権侵害の現状と対応について「Origami Authors & Creators (OAC)」というグループ活動について紹介があった。インターネットの普及と為替の問題などから、著書を手に入れにくい非先進国を中心に無断で著書をダウンロード出来るサイトが横行している。

プロバイダーなどに正式な著作権者が訴えることで止めさせられる場合もあるが、巧妙化している上に多くの場合イタチごっこになる傾向がある。また、真の著作権者であることの証明や他言語で訴えることが必要な場合など多大な労力を要するなどの問題もある。現状、完全な撲滅は難しいと言わざるを得ないが、適切な対抗は行うべきだろう。OACがwebページを持って、折り紙に対する著作権保護を訴えながら、公的に著作権者の代理人となって、個別に抗議するより効率的な活動を促したい。

ウー氏は、折り紙の著作権を侵害する側の言い分を、誰が聞いても身勝手なもの(「欲しいものは欲しい」とか「権威に対する反抗を気取る姿勢」)から、上記のプリル氏の話で上がった経済的な課題や言語の違いによるコミュニケーションの問題など、場合によっては耳を傾けるべきものなど様々なパターンを紹介した。

ラング氏からは「Origami Clearinghouse(折紙取引所)」構想について紹介があった。これは、著作権者の連絡先や許可情報を予め登録しておき、善意の利用者が著作権者から何らかの許諾を求めることを便利にすることで、不法使用が発生する環境を改善しようという試みである。登録情報を管理運営するボランティアのパワーが重要である。日本折紙学会でも指導員向けに創作者

の教室での利用条件を公表している試みが同様な考え方に基づくものであることが議論された。

ラビン氏からは、不法なネット上の書籍のダウンロードサイトの横行への対抗手段として公式な利用し易い「デジタル折り図」の入手サイトの立ち上げの提案があった。既存の出版社との競合の回避など課題も指摘されたが、興味ある試みとして多くの意見交換がなされた。

総合討論

プレミーティングを含め非常に多くの話題、議論が行われ、折り紙の著作権／知的財産権についての問題意識の共有化の第一歩として非常に有意義な3日間であった。懇親会の三浦先生のご発言にもあったように、3日間の締めくくりとして、この会議の声明文の取りまとめの議論を行った。真剣な議論の末、声明は日英文で表1のように策定できた。なお、本声明は13日の午後の会議にやむを得ず出席できなかった数名に対しても、会議後に確認を行って取りまとめた出席者合意の声明文である。今後、国際的な議論を深め更によりよいものとしてゆくことも確認された。また、この国際会議についてはそれぞれが所属する各国折紙協会に、機関誌記事などによってフィードバックすることが約束され、この記事もその一つである。この会議で議論された新しい提案についても、今後各国に支部委員を置きコンベンションなどの機会に議論を進めることを確認した。取りあえず日本の取りまとめは筆者が引き受けることにした。

補記

この記事は会議の概要を取りまとめたものである。本会議は各発表者のプレゼン資料およびジャン・ポーリッシュ氏と川村みゆき氏による英文11,000語、和文25,000字の議事録によって記録されている。今後の議論の発展の有用な礎となるだろう。また、新しい提案については多くの協力者を必要とする。今後、個別に紹介し、具体的に発展させていく必要があると考えている。

Distribution of Origami Model

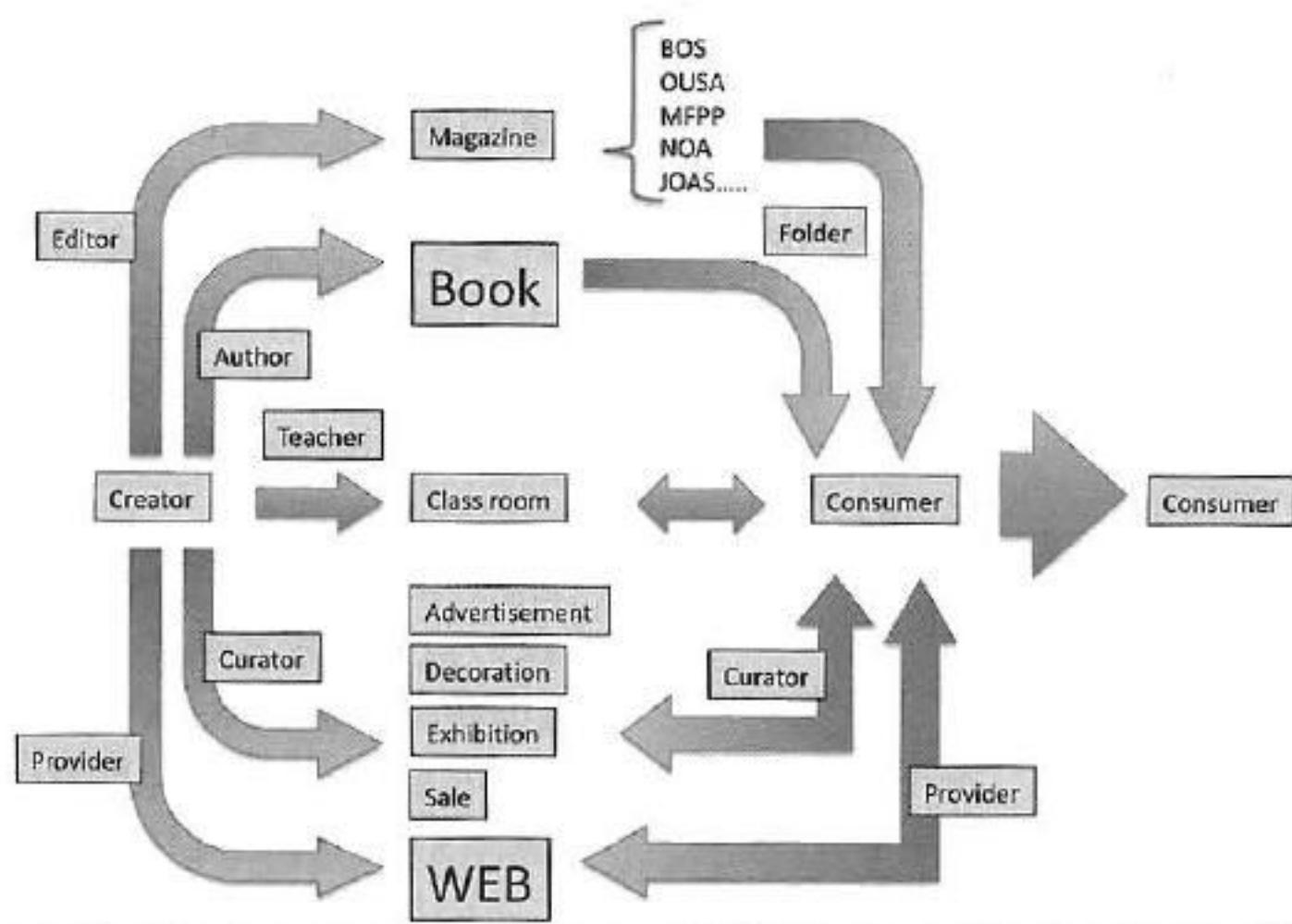


図1. 折り紙作品の伝播ルート



過去の折り紙に学ぶ 第10回

Learning from the Paperfolding of the Past

羽鳥公士郎
Hatori Koshiro

折り紙の歴史概観・起源から現在まで 第2部・折り紙の近代から現代

A Brief History of Origami: from the origin to the present Part 2: Modern and Contemporary Origami

(訂正: 第1部で「少国民」とあったのは「小国民」の誤りでした。)

伝承折り紙では、折り方を誰が考えたのかということは意識されず、作品は共有されるものとして人から人へ伝えられます。実際、伝承の過程で折り方や題名が変わることがしばしばあり、またよく似た作品が複数の時代や地域で独立に発生することもあるので、ある作品について特定の個人が考案したとは言えないことが多くあります。

折り紙作品を個人が創案するものと考え、折り紙に関して知的所有権の意識を持った最初の人、おそらく内山光弘でしょう。内山は、自分が考案した折り方について実用新案登録を受けました。このような考え、つまり、折り紙作品は特定の個人が創作するもので、作品の知的所有権は創作者に帰せられるという考えは、現在でこそ折り紙界の大部分に広まっていますが、当時としては画期的な考えであったに違いありません。

このように、折り紙作品を特定の創作者と結びつける意識の下に、創作されたり折られたりする折り紙のあり方を、伝承折り紙に対して近代折り紙と呼ぶことができます。

折り紙が個人の創意工夫と結びつけられるとき、折り紙のパズルの要素が強調されることがあります。つまり、ある制約の下で、今までになかったアイデアによって新しいものを作り出すことに価値が置かれます。そのような制約として一般的なものは、いわゆる不切正方形一枚折り、つまり一枚の正方形の紙を切らずに折るというものです。

このルールが採用された背景には、折り紙は折り紙用紙を使って折るものだという暗黙の前提があると私は考えています。

片面に色のついた正方形の紙としての折り紙用紙が使われるようになったのは、フレーベル流の幼稚園教育がきっかけであろうと考えられます。1890年代アメリカの幼稚園教材のカタログ『Steiger's Kindergarten Catalogue』に、片面に色のついた折り紙用紙が各種掲載されています。

興味深いことに、このカタログには、正方形の紙だけでなく、1対2の長方形や正三角形、円形などの折り紙用紙が掲載されていますが、「生活の形」で折られていた作品のほとんどは正方形から折り始めるので、幼稚園の授業の外では正方形以外の形の紙が使われることはほとんどなかったでしょう。

幼稚園教育は日本にも伝わっていますが、日本では20世紀の初め頃、幼稚園の要請によって折り紙用紙が制作・販売されるようになったといわれています。

1950年代から60年代にかけての日本で近代折り紙を主導した人物として、内山興正と吉澤章の名前を挙げることができます。彼らは「創作折り紙」という概念を提唱し、数々の作品を自分の作品として発表しました。しかし、笠原邦彦が『をる』第1号の「近代折り紙の歩み」で述べているように、近代折り紙には「複数の個性がそれぞれに思

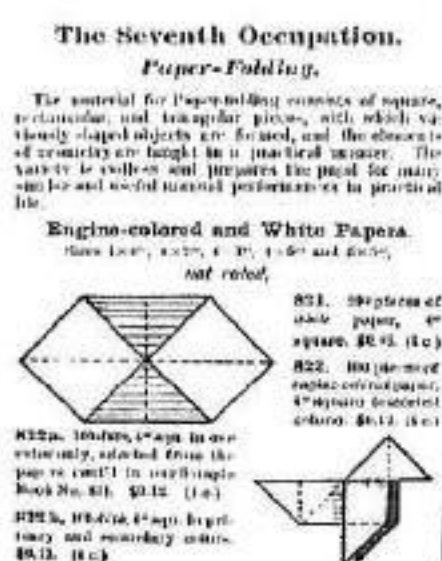
案を巡らせ」という要素のほかに、「相互の交流と向上を目指し、かつ全体的な普及を図る」という側面があります。その点で特筆すべきは、ガーシオン・レグマンの果たした役割です。

レグマンは、1945年頃から広範な折り紙の研究を始め、1950年代には吉澤を欧米に紹介するほか、高濱利恵、本多功、ロバート・ハービン、リリアン・オッペンハイマー、サミュエル・ランドレット、ピセンテ・ソロルザノ＝サグレドといった作家や折り紙人を互いに結びつけました。それによって生じた活動を、第2次国際折り紙交流といえることができるでしょう。

彼らは、日本やヨーロッパ、南北アメリカの作家の作品を日本語や英語で出版したり、各国で折り紙団体を組織したりして、折り紙の知識を交換するとともに、折り紙の普及を促進しました。また、リリアン・オッペンハイマーの呼びかけによって「origami」という言葉が国際語となり、吉澤が使用していた折り図の表記法がハービンやランドレットに採用され、国際的な標準となりました。

近代折り紙における創作方法は、鶴の基本形や蛙の基本形など、既存の少数の基本形に大きく依存しています。それは、ある作品の途中の形から別の作品を作るといったことが多いため、このような基本形というのは、結局のところ、多くの折り紙作品に共通して現れる途中の形だといえます。

しかし、単に途中の形というだけでは、工程の数だけ基本形があるということにもなりかねません。さまざまな作品の途中の形を幾何学に基づき整理して初めて、基本形という概念が成立するといえます。この早い例は、内山光弘の『折紙教本』(1931)、中島種二の『手工教材



1896年の『Steiger's Kindergarten Catalogue』第6版より、折り紙用紙の紹介の一部分

○羽鳥公士郎（はとり・こうしろう）＝日本折紙学会評議員。日本語だけでなく、英語の文献も研究対象としている。アメリカ留学時には、授業の課題として折り紙展のプランや折り紙のウェブサイトを作した。

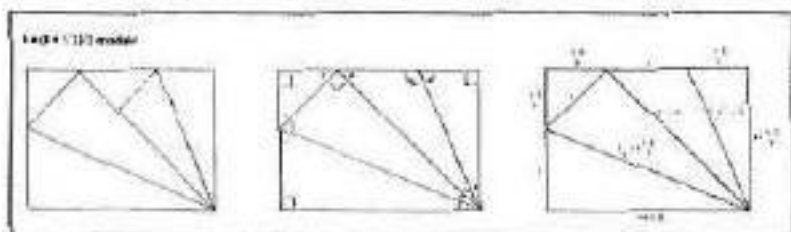


折紙細工』（1936）、ソロルザノ＝サグレドの『Papirolas: Tratado de Papiroflexia』（1939-43）などに見られます。

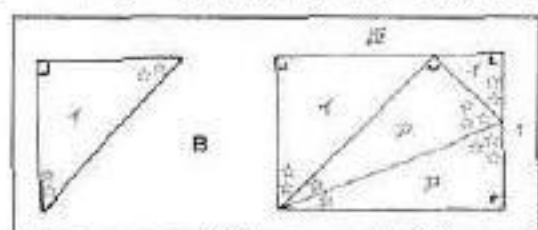
基本形を分類することによって、既存の基本形を変形して新たな基本形を考案することも容易になりますが、それによって得られるのは、正三角形を使って鶴の基本形を折ったり、鶴の基本形と蛙の基本形を半分ずつ組み合わせたり、鶴の基本形を4つ組み合わせたりといったものに限られ、全く新しい基本形が生まれることは滅多にありませんでした。

1980年代に、前川淳とピーター・エンゲルが互いに独立に基本形の幾何学的分析を行い、それぞれ『ビバおりがみ』（1983）と『Folding the Universe』（1989）で、新しい基本形を作成する方法を示しました。両者が、いわゆるコンプレックス折り紙への道を切り開きました。

基本形を折ってから広げると、紙の上に折り目のついた展開図が得られます。前川とエンゲルは、既存の基本形の展開図が、特定の数種類の三角形と四角形で構成されていることに着目します。彼らは、展開図をこのような「原子」に分割し、それらを並べ替えることで、新しい展開図を作ります。展開図は基本形を定め、基本形が作品を定めます。このようにして、展開図を作成することにより折り紙作品を創作することが可能になりました。つまり、



ピーター・エンゲル『Folding the Universe』より



笠原邦彦・前川淳『ビバおりがみ』より

実際に折る前に設計をするのです。

折り紙設計の誕生により、基本形の概念が大きく変わりました。従来の基本形は、さまざまな全く異なる作品を創作するために共通して使われていましたが、折り紙設計では、基本形は特定の作品を作るためのもので、別の作品を作るには別の基本形を考えます。そのような考え方にに基づき、さわめて精巧な折り紙作品の数々が作られるようになりました。

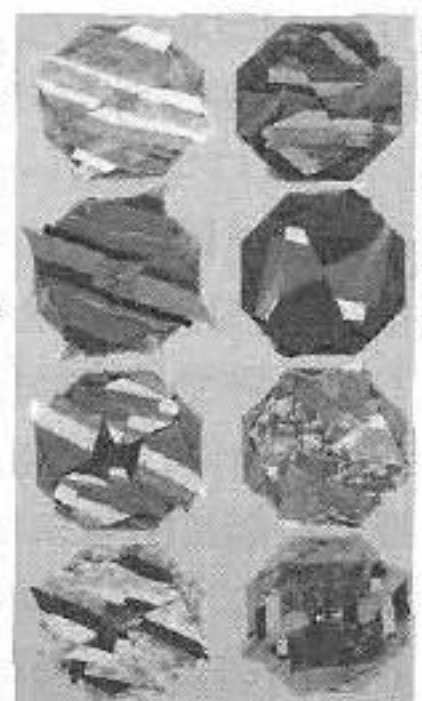
このような数学的な創作法は、目黒俊幸、川畑文昭、ロバート・ラングらによってさらに発展させられ、1960年代からニール・イライアスなどが使ってきたボックスプリーツの技法と組み合わせられて、任意の基本形を折り出す展開図を生成するアルゴリズムがいくつか考案されています。

数学的折り紙では、折り紙の幾何学パズルとしての側面が強調されています。これと関連した流れとして、幾何学的な形状それ自体の美しさ、面白さを目的とした折り紙も生じてきました。多数の単位を組み合わせる多面体などを作るユニット折り紙、ねじり折りを連続させて平面に敷き詰める平織り、段折りを繰り返した波状の構造を基本とするコルゲーションなどがあります。

折り紙には、幾何学がもたらす美しさに加えて、紙という素材から折りという技法によって引き出される美しさがあります。この折り紙の芸術としての可能性にいち早く気づいたのが、吉澤章でした。吉澤は、すでに1950年代から折り紙の表現力を追求し、日本だけでなくアムステルダムやニューヨークの美術館で展覧会を開きました。彼の作品は、単に対象の外見を写し取るのではなく、生命感を再現し、情緒的な表現にまで達しています。

1960年代になると、内山光弘の花紋折

りが現れます。これは畳紙を拡張して抽象的な模様を折り出すものです。抽象折り紙自体は新しいものではなく、フレーベルの「美の形」までさかのぼりますが、内山は自分で染めた和紙を重ねて折ることで、独自の表現を開拓しました。



内山光弘の花紋折りを紹介した「をる」第六号の表紙部分

このような、紙の持つ潜在的な表現力を引き出す折り紙では、紙選びが重要であり、紙に手を加えることもあります。内山の花紋折りもその例ですが、吉澤も紙を濡らしてから折るウェットフォールディングを始めたり、紙の縁による表現を試みたりしています。さらに、マイケル・ラフォースは自ら紙を漉いています。

吉澤が押し進めた芸術的折り紙は、現在では日本よりもむしろ欧米で盛んです。主な名前としては、ジャン＝クロード・コレイア、ポール・ジャクソン、エリック・ジョワゼル、ジャン・デインなどを挙げることができます。

おそらくは日本とヨーロッパで独立に誕生した折り紙は、子供の遊びとして受け継がれながら、さまざまな才能を引きつけ、今日では多面的な姿を呈するようになりました。今でも折り紙の本流はやはり子供の遊びだと私は思いますが、こうして折り紙の歴史を眺めてみると、折り紙は子供の遊びをはるかに超えて、多様な方向に広がってゆく可能性を秘めていたことが分かります。そしてこれからもまた、折り紙の新たな側面が次々と開かれてゆくでしょう。

折紙図書館の本棚から

From the Bookshelves of the JOAS Library

小松英夫 Komatsu Hideo

10冊目『折り紙』内山興正著

"Origami" by Uchiyama Kosho

「つまりこの本のめざすところは、おとも工夫しておもしろく、こどももたのしくあそべる、一家団樂のマスコットとしての、折り紙創作の方法の確立なのです。」(「はしがき」より)

今回取り上げる『折り紙』(1962年／国土社)は、『ピバおりがみ』(109号)、『超難解マニア向き作品集』(前号)と見てきた、折り紙の設計的創作法の系譜の原点に位置すると言われる本です(写真1)。

著者の内山興正氏(1912-1998)は禪宗の僧侶だった方で、宗教関連の著作も多く遺しています。「花紋折り」や「光弘式折り紙」などで知られる折り紙作家の内山光弘氏を父に持ち、幼少時より創造的な折り紙の中で育ったいわば「折り紙エリート」のような人物でした。本書は同氏が50歳のときに出版されたものですが、『季刊をる』4号のインタビューによると、原稿の大部分は20代前半で書かれたものだそうです。

本書で提示された創作理論の象徴としてあげられるのが、巻頭で紹介されている「主要基本図系統表」です(図1)。これは、正方形用紙から単純な目安で描き得る折り線を系統的に整理し

たものです。基本的には、系統を進むごとに前のパターン上に線を書き加えるルールであることが読み取れますが、一部完全にしさがっていない部分もあります。

分類の対象となっているのが、あくまで基本となる図形のパターンである点は注意すべきでしょう。基本形はこれらの基本図を元にして折られ、ひとつの基本図が基本形としては複数の折り上がり形を持つこともあります(例えば基本図A12→正方基本形と風船基本形)。このように、新しいパターンを発想するとき、実際に採り得る山谷のパターンではなく、より下位の幾何学パターンに着目するという方法論は、『ピバおりがみ』で示されたものとも重なり、興味深く思えます。

もっとも今日の視点で「主要基本図系統表」を見るならば、このような幾何学パターンを完全に系統的に記述することの難しさを感じざるを得ない部分もあります。事実、後の著作において分類に変化が見られたり、著者も「研究途上にあり、少しずつ動揺変化している」と漏ら

この連載では、折紙学会図書館に所蔵されている資料の中から、興味深いものを選んでご紹介しています。折紙図書館の蔵書は、折紙探偵団ホームページから検索できます。詳しくは、<http://www.origami.gr.jp/Libra/>にアクセスしてください。

していたりします(『純粹折り紙』p.87／1979年)。とは言え、本書が刊行される以前の折り紙というと、(著者の好む言い回しで言うところの)「教えられる、そのとおりに折る、できた」で完結するしかない遊びであったのに対して、基本形の背後にある幾何学の存在と、その関連性を考察することで新たな創作につながるという論理を提案したことの新規性はきわめて大きいものでした。

目次

- 第1部 やさしい折り紙
- 第2部 基本図からの創作1
- 第3部 主題による創作
- 第4部 基本図からの創作2
- 第5部 ダイヤ系統の基本形
- 第6部 ブロック折り紙
- 第7部 折り容器

7部からなる本文のうち、第1部で基本図系統表の初期の段階を、第2部と第4部で基本図全体を網羅して、多数の作例とともに基本図から得られる基本形の解説をしています。紹介される作品は、切り込みや複数枚使用を制限するようなこだわりはなく、むしろ積極的に用いている印象です。この手法上のこだわりの無

さは、第6部で扱われている「ブロック折り紙」(ごく簡易な基本形を何個も貼り合わせての造形・図2)でも如実に表れています。

コンプレックス系と呼べる作品が登場するのは第5部です

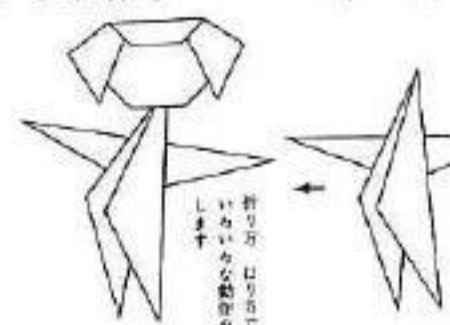


図2 ブロック折り紙の代表作「紙子ちゃん」。日本折紙協会のマスコットキャラ「NOAちゃん」の原作です

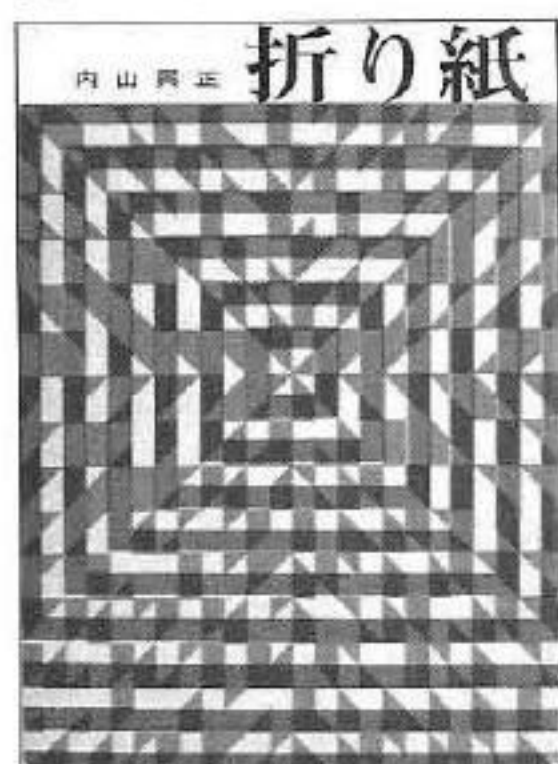


写真1 表紙。函入りハードカバー全212ページという豪華な装丁は、歴史的な書籍の風格を感じさせるに十分です。定価は3,500円

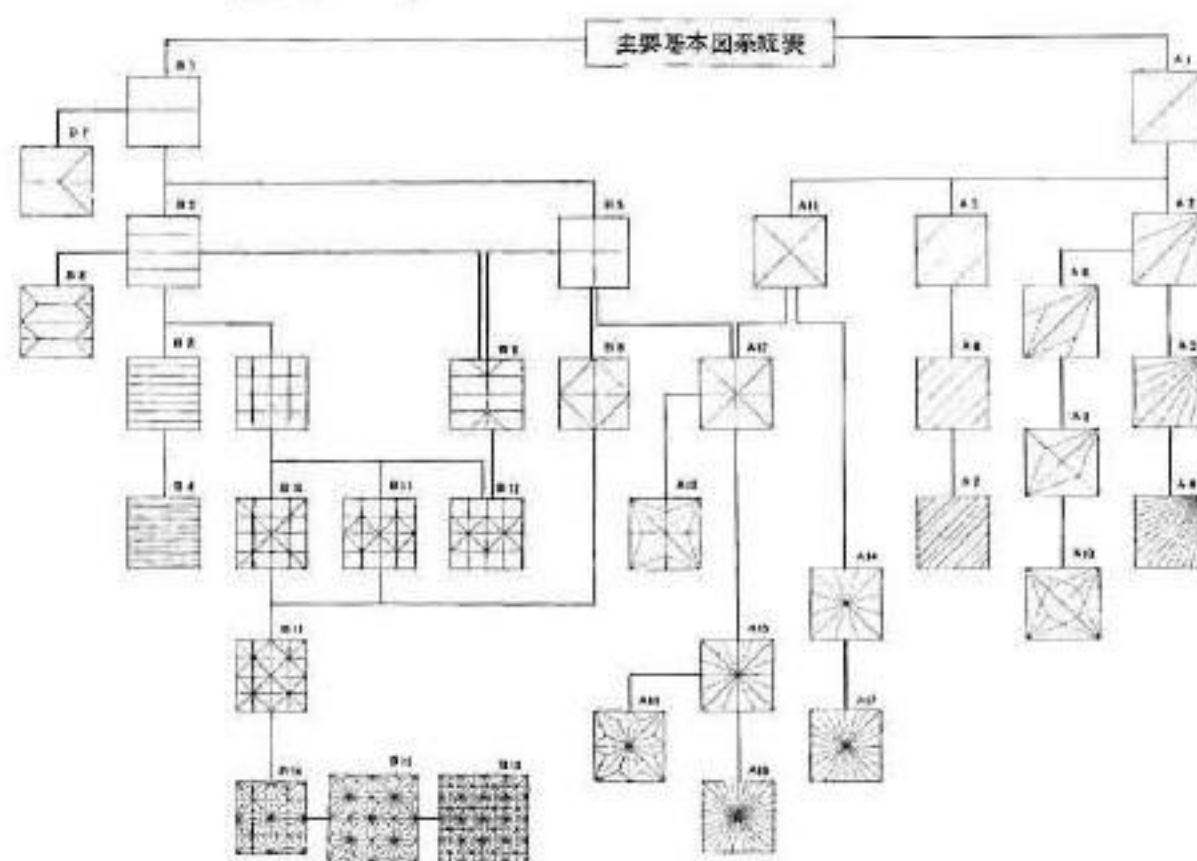


図1 主要基本図系統表

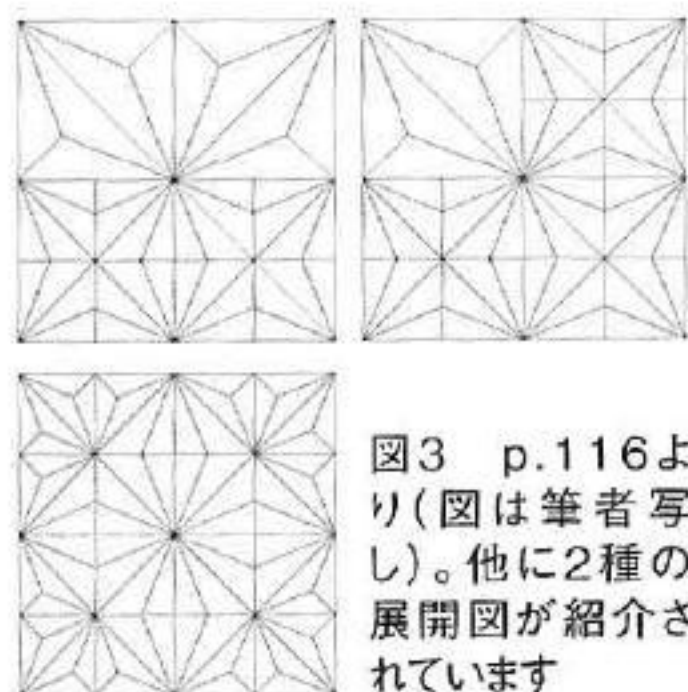


図3 p.116より(図は筆者写し)。他に2種の展開図が紹介されています

が、面白いのはここで基本図A群とB群を横断する「ダイヤ系統の基本形」と著者が呼ぶ基本形群が新たに提示されている点です。本連載でも“直角二等辺三角形分子の組み合わせによる基本形”として何度も登場してきた基本形群ですが、もっとも複雑なものはなんと“16ツル”で、「ひまわり」が作例として完成写真のみ掲載されています。その他、“4ツル”による「観世音菩薩立像(写真2)」「かまきり」，“4アヤメ”による「かに」が折り図で紹介され、さらには図3のような混合パターンも紹介されており、これらの系列の基本形の応用範囲はほぼカバーされていると言っていいでしょう。これらは『ビバ!』登場時まで、不切正方形一枚折りの創作技術の中核を占めるものでしたが、改めて、本書が出版されたのが1962年であることを考えると、日本の折り紙界の1970年代は“技術的に停滞していた時代”だったと言ってしまうのもいいのかもしれない。

➤ の本の創始者としての功績は折り紙用語の分野にも及びます。39～41ページに「よくつかわれる折り方のせ

著者による命名です。この内「ひきよせ折り」「中わり折り」は現在において定着しているおなじみの用語です。

本書での「かぶせ折り」は、“かぶせるように両側で段折り(outside crimp)”に相当し、これは「うわむき折り」=“押し込むように両側で段折り(inside crimp)”とセットになって定義されているものです。現在言うところの“かぶせ折り”に相当するのは、本書では「外わり折り」と名付けられていて、「中わり折り」と対になる命名は、著者の理論立った思考ゆえでしょう。『純粋折り紙』で内山氏は、当時すでに「外わり折り」が「かぶせ折り」と呼ばれていることについて苦言を呈していますが、結局「かぶせ折り」が優勢となったまま現在に至っています。

巻 末を飾る2万字にも及ぶテキスト「折り紙の葉」も読み応えのある資料です。ここで著者は「折り紙創作について」と「日本の折り紙の歴史」について自らの考えを示していますが、ここでは前半の「折り紙創作について」から、著者が自身の創作法をまとめた箇所を見てみましょう。それは次の3段階として説明されています。

- 1) 折り紙の骨組になる基本形の研究
- 2) 骨組(基本形)をとおしての着想
- 3) 着想したものにまでの形づけの工夫

1)はすでに見た「主要基本図系統表」に代表されるものとして、次の2)で述べられている作業は、つまり「見立て」に他なりません(図4)。この点で、著者の方法論は西川氏が109号折紙三昧で述べている「進化的モデル」の典型であり、先述した『ビバ!』との相似も腑に落ちるところです。そして最後の3)については「折り紙には折り紙としての内的必然性」が重要だとして、

○小松英夫(こまつ・ひでお) = 1977年生まれ。図書館担当。牛の創作でハマっています。



- 1) 基本形から自然にみちびかれて、無理と無駄のない折りかたをすること
 - 2) 写實的にでっちあげてにせものをつくらうとせず、どこまでも折り紙としてただ部分を持って全体を余韻するような、あどけない夢のある作品であること
- と自身の理想をまとめています。

本稿冒頭で引用したように、創作折り紙を家庭において親子がともに楽しめる情操教育の素材としたいというのが著者の望んでいたところでしたが、著者によると、上記のような創作法や折り紙観に至ったのは、折り紙界が「こどもの折り紙」(伝承作品)と「おとなの折り紙」(「かやら草」のような古典作品)とに隔てられている状況に対して憂慮していたためであったと言います。著者は、古典折り紙を器用に作られてはいるが洗練されていないものと受け止めていたようで、折り紙創作法を誰もが学べ使えるものとして確立しようとした背景に、個人レベルでの器用さを良しとしない思考があったことはどこか示唆的です。

さて、笠原邦彦氏(学生時代に本書に出会ったそうです)が内山氏を折り紙の師と仰いでいることはよく知られていますが、実際に本書で展開されている内山氏の持論や創作観は、その後の笠原氏の著作に強く引き継がれているように見えます。もしかすると前回紐解いた『超難解マニア向き作品集』における“技術への距離感”の源流もまた本書にあると言えるかもしれません。

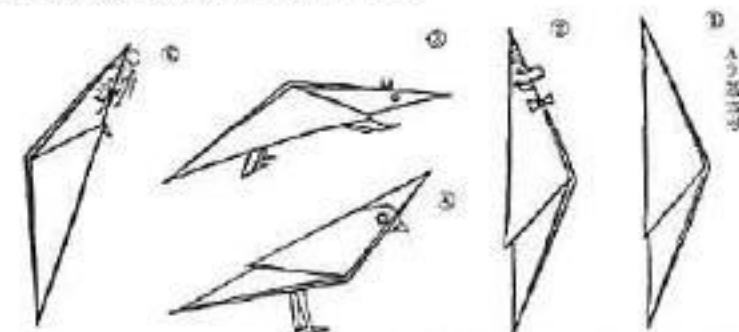


図4 p.195よりA9基本形(魚の基本形)からの着想例を示した図



写真2 「観世音菩薩立像」。「うわむき折り」。光背、蓮華は別紙が「かぶせ折り」ら。仕上げに漆を塗っている技法は全体的なこと

折線雑考

A Long Excursus on Crease Lines

目黒俊幸 Meguro Toshiyuki

第2回

折線を接続するとき起きること

What Happens When Crease Lines Meet

早いもので前回の記事からもう4か月がすぎた。記事を読んでいる人は前回の内容なんて忘れていたろうけど書いていた自分もほとんど忘れていたのだ。なので前回の話の流れなんて無視して、「折紙でいかに萌顔を目指すか」を熱く語ってみたい。なったりするのだ。

そんなこんなで前回の原稿を読み直してみると、「次回は部分構造同士の壊し合いを起こさない基本的な接続方法を具体的にみて、それから各種折紙創作法がどのように発展しているのか調べていきたいと思う。」などとグドグドと書いてあるのだ。そういうわけで残念ながら(フイフイ)今回は部分構造同士の最も基本的な接続方法である線配置法を検討していくのだった(何だこの前書き)。

線配置法とはどのようなものだろうか？ それは折紙展開図上の部分構造同士を接続する基本的な技法である。

以前私は面配置法という設計方法を提案したことがある(2006年05月16日@ようこそ折紙のホームページへ掲示板)。面配置法を知っている人なら線配置法は面配置法と同じ方法だとすぐ気付くと思う。いちおう面配置法と線配置法の違いを書いておくと、「面配置法は考慮の対象として面としての折紙原子に注目するのに対して、線配置法は考慮の対象として折線そのものに注目する。」ということになる。ただ、これは方法を

使う人間側の気の持ち様であって、方法の内容自体は線配置法と面配置法は同じものである。以下

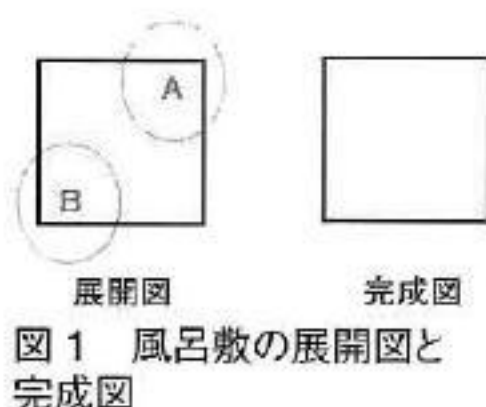


図1 風呂敷の展開図と完成図

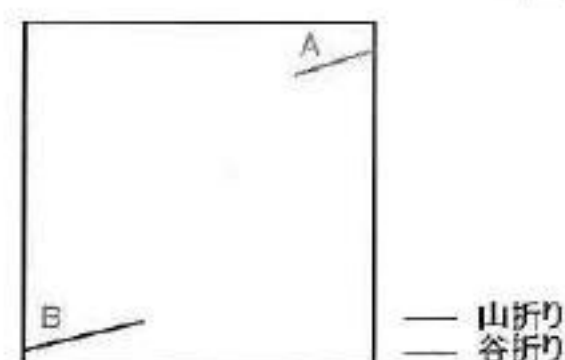


図2 折線一本ずつの部分構造 例1

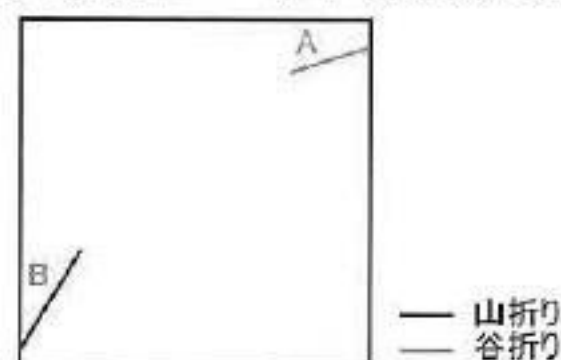


図3 折線一本ずつの部分構造 例2

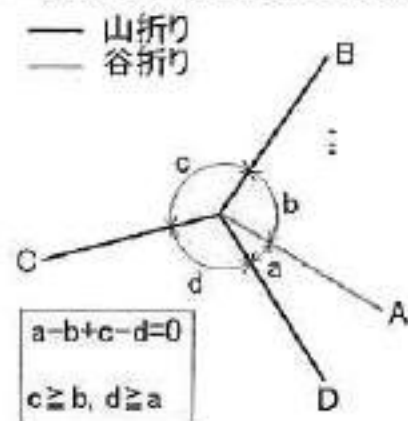


図4 伏見定理の説明

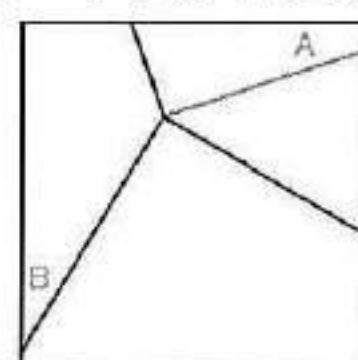


図5 伏見定理を使った部分構造の接続

による平面折りの定理を満たすように交差点から新たに2本の折線を発生させるとうまくいくのだ。図4で伏見定

開図上に配置して終わりである。

これでは、話が簡単すぎるので、もう少し複雑な部分構造についてみてみよう。

というわけで、折線1本からなる部分構造同士を接続する場合を考えよう。例えば図2では、右上に折線1本の部分構造A、左下に折線1本の部分構造Bがある。この部分構造同士の接続はどうすればよいだろうか？って、これも各部分構造の折線を伸ばしても折線同士が交差しないし他に特別不都合も起きないのでこれ以上何もやる必要はない。

では図3の部分構造同士を接続する場合はどうだろうか。この展開図も右上に折線1本の部分構造、左下に折線1本の部分構造があることは図2と同じだが、今度は各部分構造の折線を延長した場合、折線同士が交差するので交差点で折線同士の関係が破綻しないように何らかの処理が必要になる。この処理をどうするかが線配置法のダイナミクスである。

さて、「交差点で折線同士の関係が破綻しないように」と上で書いたが、これはどういうことかという、「交差点で、紙の破れとか歪みとかが生じないように、用紙を平面に折りたためる」ということである(要するに、交差点付近もちゃんと平らに折れればよいだけの話)。

ではどうやって2本の折線から生じた交差点をちゃんと平らに折れる交差点にするのだろうか。それには伏見康治氏に

目黒俊幸 (めぐろ・としゆき) = 1965年生まれ。24才から本格的に折紙を始め。代表作は円領域分子法、横分子蛇腹法、面配置法など。近年のテーマは萌顔の折り方。
ウェブサイト=<http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Oak/5487/>



理を具体的に説明しよう。図のように4本の折線からなる頂点を考える。平らに折りたためる頂点では、4本のうち1本だけ山谷の種類が異なるが、他の3本は同じになる。図4では3本が山折り1本が谷折りとした(もちろん3本が谷折り1本が山折りの場合もありうる)。

まず1本の谷折線をAとし、順次図4のように折線と折線のなす角度について名前をつけてみる。ここで、伏見定理は、「図4の頂点が平らに折りたためるなら① $a-b+c-d=0$ 、かつ、② $c \geq b, d \geq a$ である。」というふうに言える。定理①は各折線のなす角度上の制約を表し、定理②は山折谷折の配置上の制約を表している。

話を図3の部分構造同士を接続することに戻そう。接続の手順は図3の2本の折線を延長し交差点を作り、そこから伏見定理を満たすように2本の折線を発生させるということだ。新たに発生させる2本の折線の方角や山谷は色々なパターンが可能だが、一例として図5のような結果が得られる。

以上のことをふまえて、さらに複雑な部分構造同士を接続してみよう。図6は右上の折りカドの部分構造と左下の折りカドの部分構造を接続する手順の一例を展開図①から⑥の順で示してある。

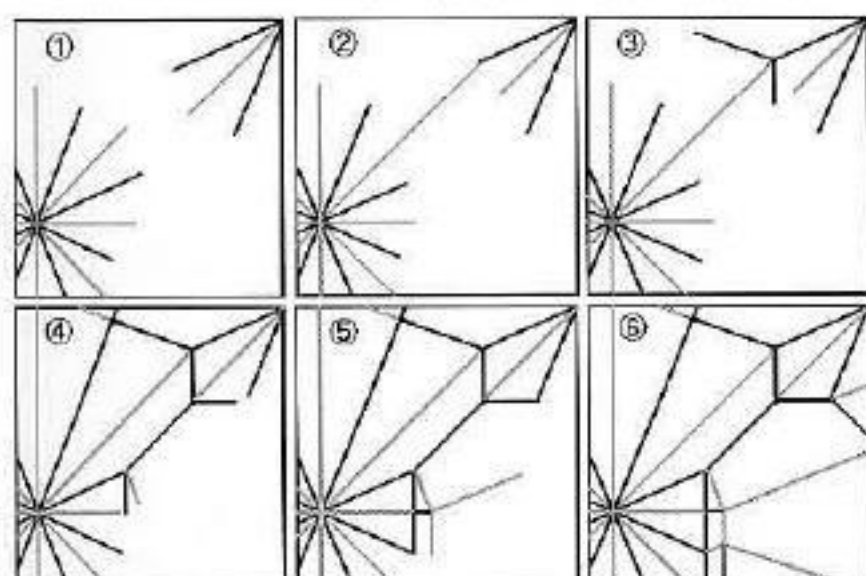


図6 伏見定理を使った複雑な構造の接続

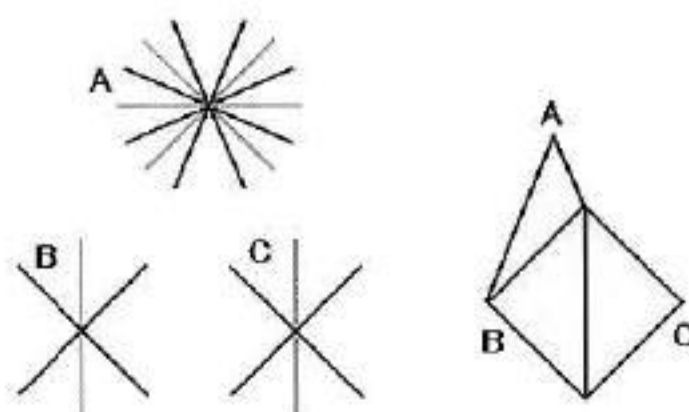
— 山折り
— 谷折り

複雑な部分構造同士でも接続できるのである。

ところで、今まで述べた方法だけだと、部分構造同士の接続は簡単にできるのだが、部分構造同士の接続した後の位置関係については全然コントロールされていない。折紙創作のためには折り上がり時の部分構造同士の位置関係をコントロールすることも重要なので、線配置法ではさらに工夫を加えて部分構造同士の位置関係を正確にコントロールする必要がある。その一工夫について以下でみていこう。

図7のように3つの部分構造を展開図上で接続して、それを折ると、部分構造は折り上がり形のような位置関係になるようにしたい。このような場合、3つの部分構造を展開図上に適当にバラバラと置いただけでは折り上がり後の各部分構造同士の位置関係はメチャクチャになる。そうならないように、3つの部分構造を展開図上の適切な位置に置きたいわけだ。

そのためには図8のように最初に各部分構造から一部の構造を抽出して、それらだけで目標とする折り上がり形が得られるように配置する。これだけだとペーパークラフト的だが、各部分構造の実体はもっと大きいのだから、普通のペーパークラフトの型紙を作る場合よりも、各部分構造の間を離しておくことがコツと言えはコツである。



3個の部分構造

折り上がり形

図7 こんな折りたいたんですけど

なにはさておき、図8の配置をもとに各部分構造の実体を配置してみると図9になる。あとは先ほど述べたように、各折線を伸ばして行って交差したら、その交差点から伏見定理によって新たな2本の折線を発生させ、また折線が交差したら交差点から新たな2本の折線を発生させるという操作を繰り返していけばよい。

以上の操作によって、図7の各部分構造を折り上がり時の位置関係をコントロールしつつ接続できる。その一解答例を図10に示す。実際に図10の展開図を折ってみると部分構造同士の折り上がり時の位置関係もちゃんとねらい通りに制御されて接続されたことが確認できる。時間のある人はお手数でも図10の展開図を折ってみてほしい。図8で決定された部分構造同士の接続の位置関係が“必ず”最終の折り上がり形に正確に反映されることを体感することは、すなわち、各種折紙設計法の根底に存在する基本原理を体感することなのだ(と思います。多分……)。

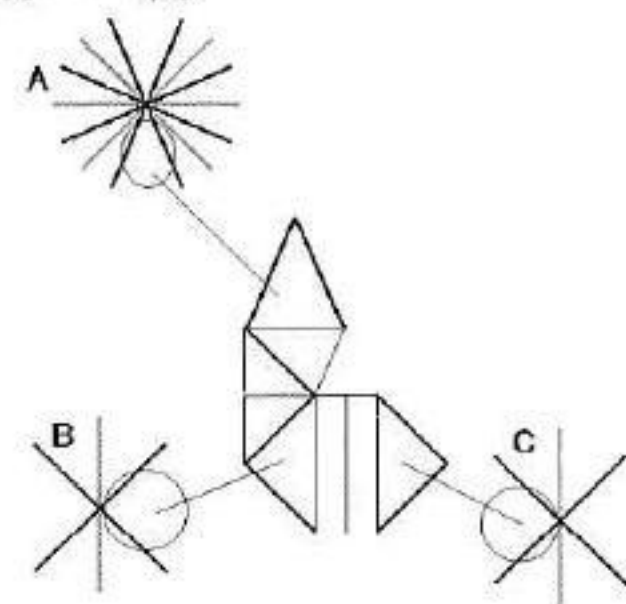


図8 こうやって配置したら

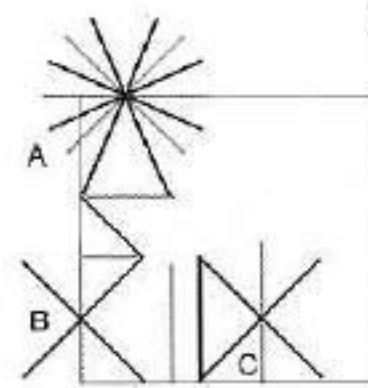


図9 A、B、Cの部分構造を接続せよ

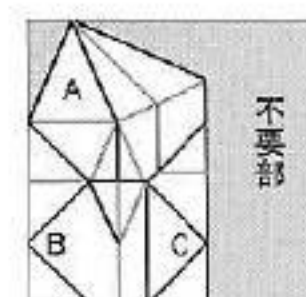


図10 接続できたよ

■名古屋コンベンションに参加した皆様、お疲れさまでした。ふと思い返すと秋がほとんどなくて、直接冬本番に突入しそうな雰囲気。あったかいものでも飲みながら、持ち帰った作品に再挑戦というのも良いかも。

「スリット折り鶴(12枚組・4枚組・2枚組)」

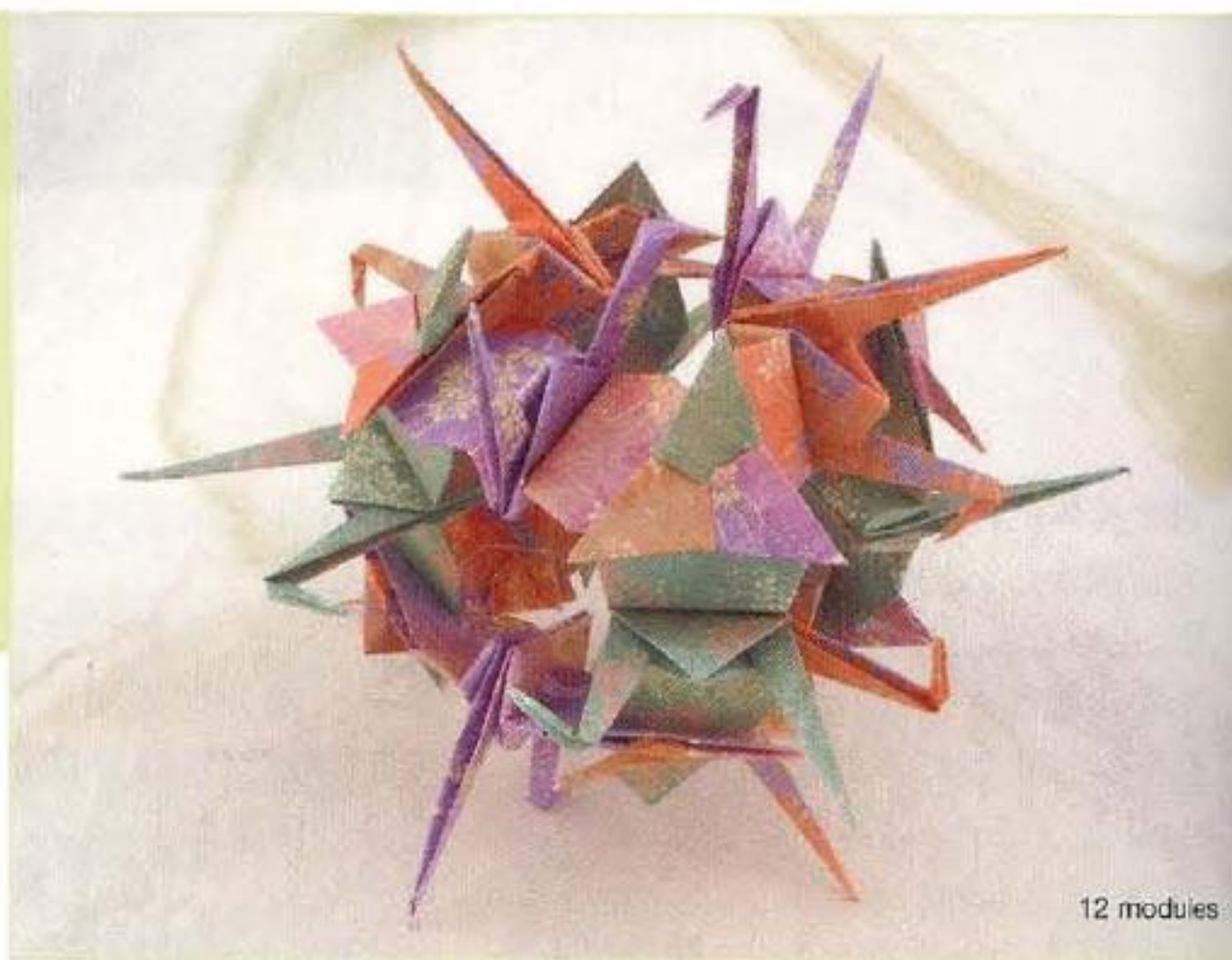
作：田中将司(P.4)

Modulo-Orizurus

(12 modules, 4 modules, 2 modules,):

Tanaka Masashi (P.4)

■鶴の羽根に切り込みが入って、ユニットパーツとしての可能性が飛躍的にひろがりました。ですがもちろん、実際にハサミで切り込むのではなく、きちんと「折り」で対応しています。組み合わせた部分に手裏剣のような模様が出てアクセントになるので、各パーツの配色を工夫してセンス良くまとめたいところです。



12 modules



「千円札のトルソ」

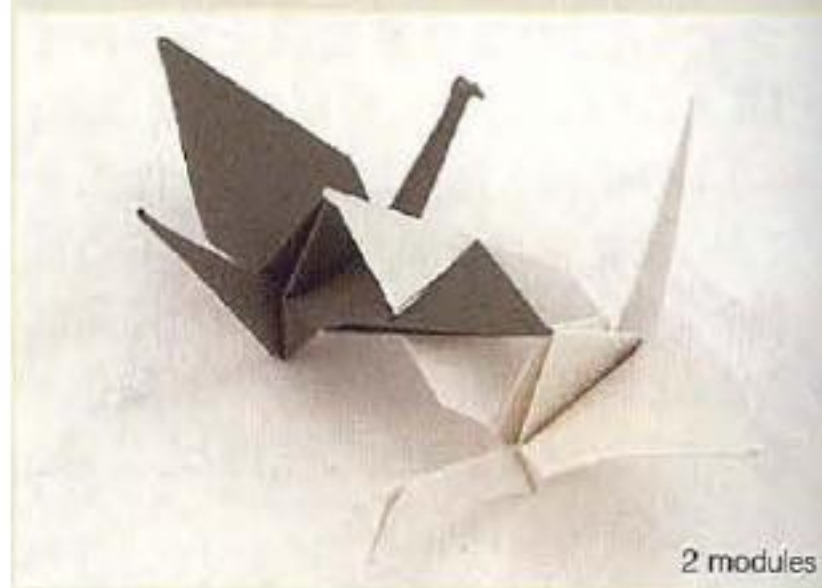
作：やまぐち真(P.8)

1000-Yen Bill Torso :
Yamaguchi Makoto (P.8)

■あまりいろいろと妄想してはいけません、これはトルソです。高校の美術室にあった石膏像の、胴体だけを切り出した形のアレです。1000円札の模様が役立っているような、いないような。



4 modules



2 modules

「シーラカンス」

作：各務 均(P.33)

Coelacanth : Kakami Hitoshi (P.33)

■魚のひれを細かく折り出そうとすると全般的に、胴体が複雑化して重苦しいイメージになりがち。しかし本作では厚みや重なりを巧みに分散しながら、優雅な長いひれを多数引き出しています。薄い金属でできた鎧の層が何枚も重なって、動くとガチャガチャと音をたてそうなデザイン構成は、古代のさまざまな甲冑魚に応用がききそうです。



エリック・ジョワゼル折り紙作品展より Exhibits from Eric Joisel Collections of Models at Origami House

■これは折り紙なのかと一瞬戸惑うような、折り紙のイメージを良い意味で粉々に打ち砕いてくれる爽快感。魅力的な曲面としわの表現を駆使したジョワゼル氏の作品群には、紙だけでなくコーティング剤や金属材料など、さまざまな素材と向き合って研究を重ねた時間とエネルギーが凝縮されているようです。今回の展示では作品販売もおこなわれ、巨匠の作品を入手できるまたとない機会となっています。



Don Quichotte

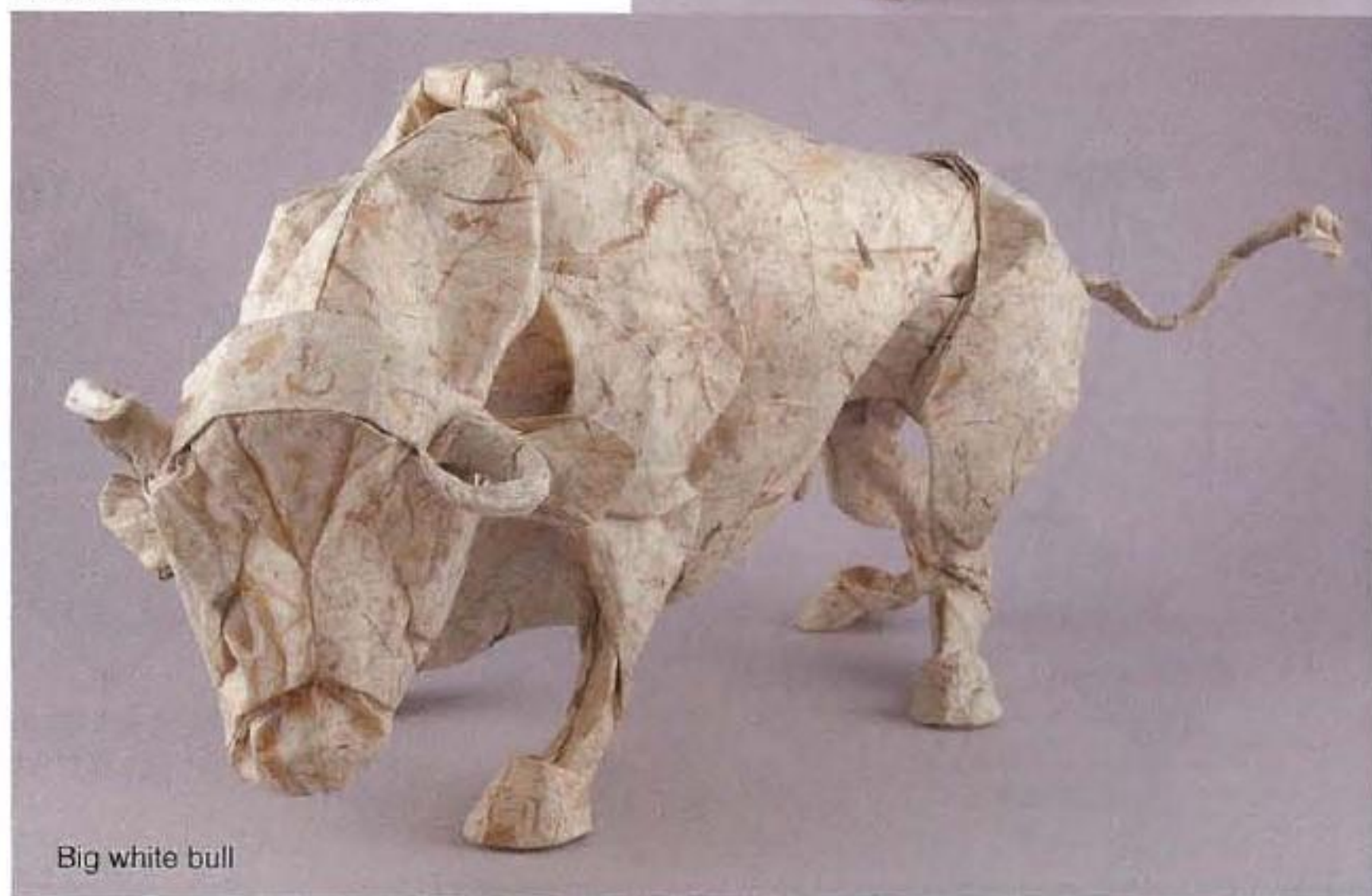


Musician

補注)同作品展は、好評のため会期延長となりました。
詳細は、おりがみはうすのHPをご覧ください。
<http://www.origamihouse.jp>



Rooster



Big white bull

乳牛 / Milk Cow

川畑文昭

Copyright By Kawahata Fumiaki 2008

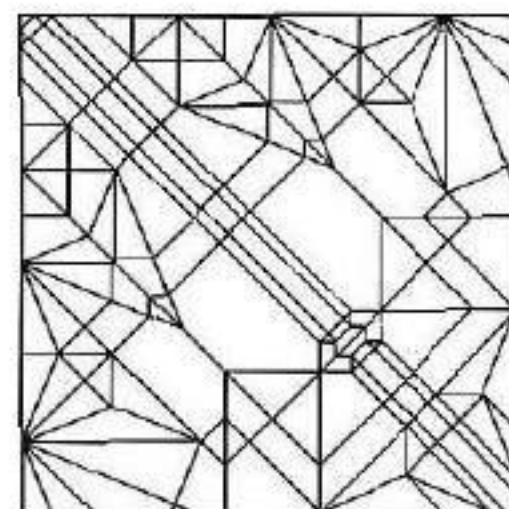
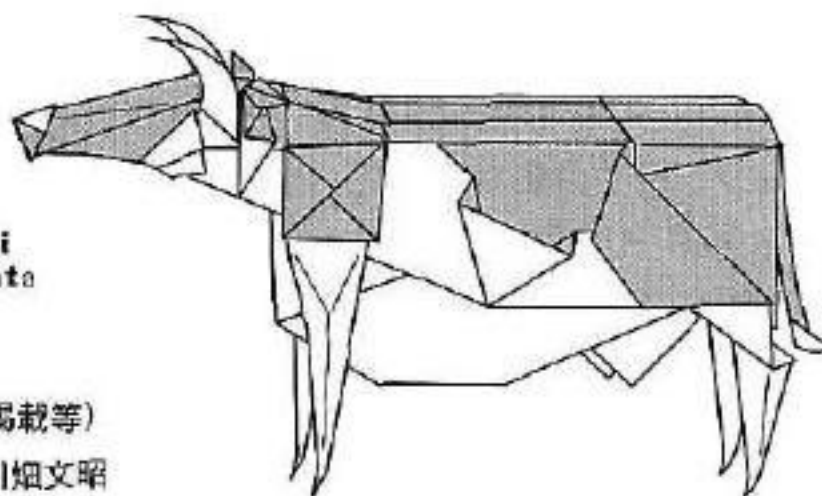


本作品は非営利な活動において以下の自由な使用を許諾します。

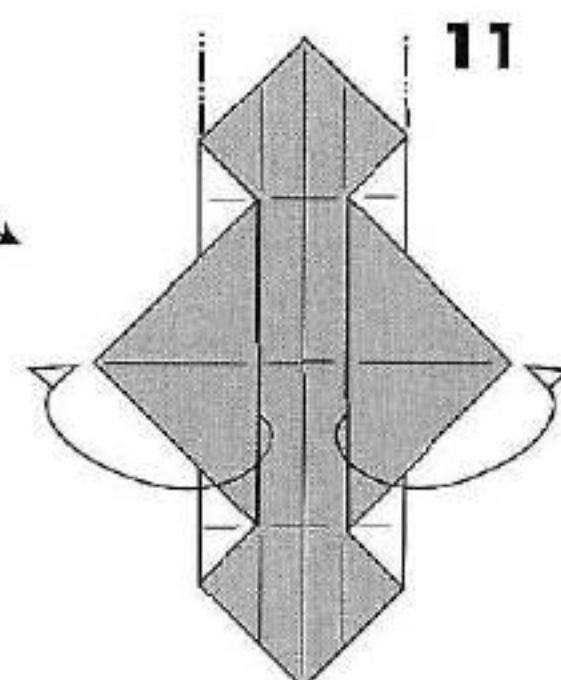
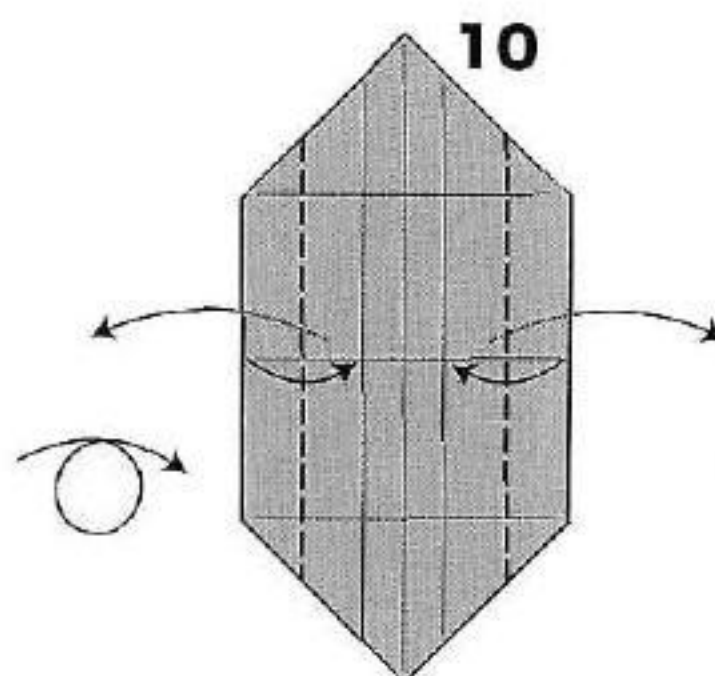
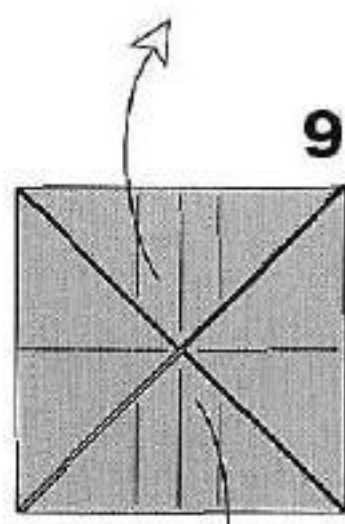
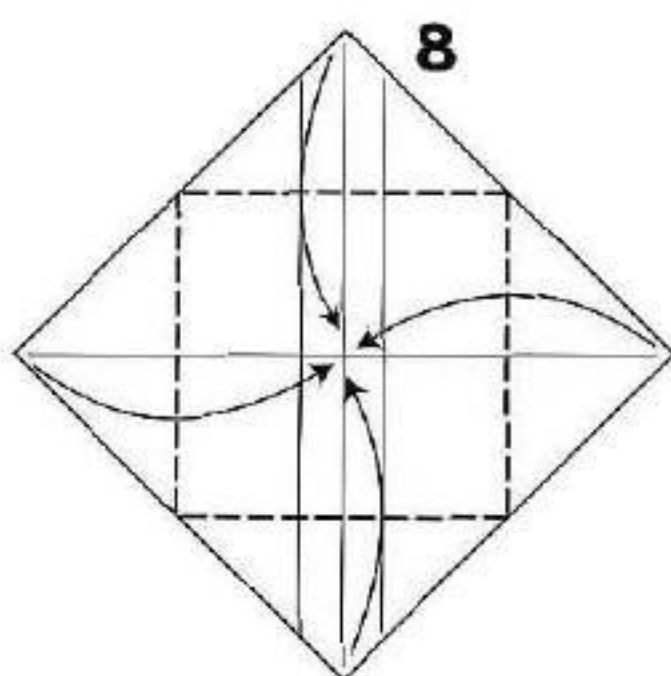
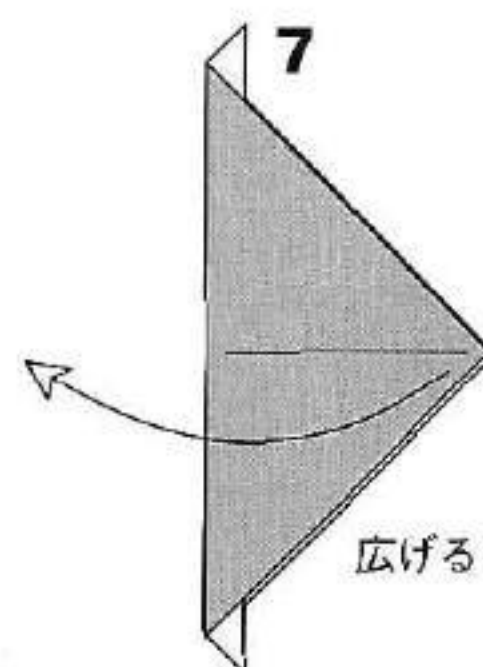
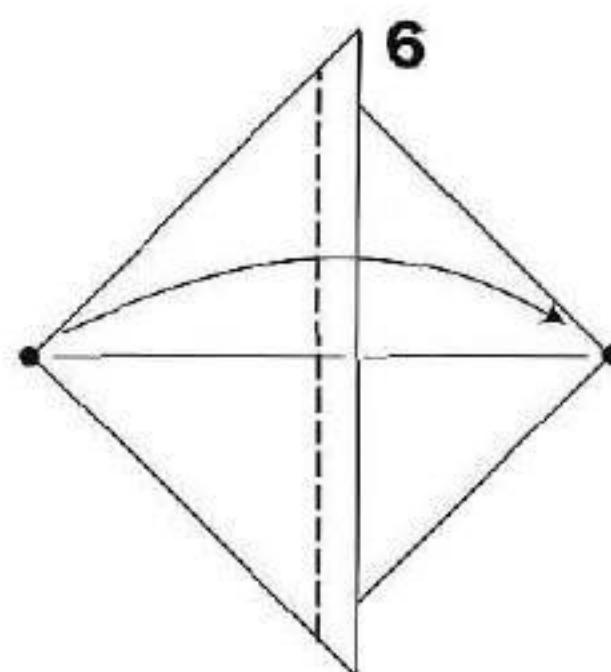
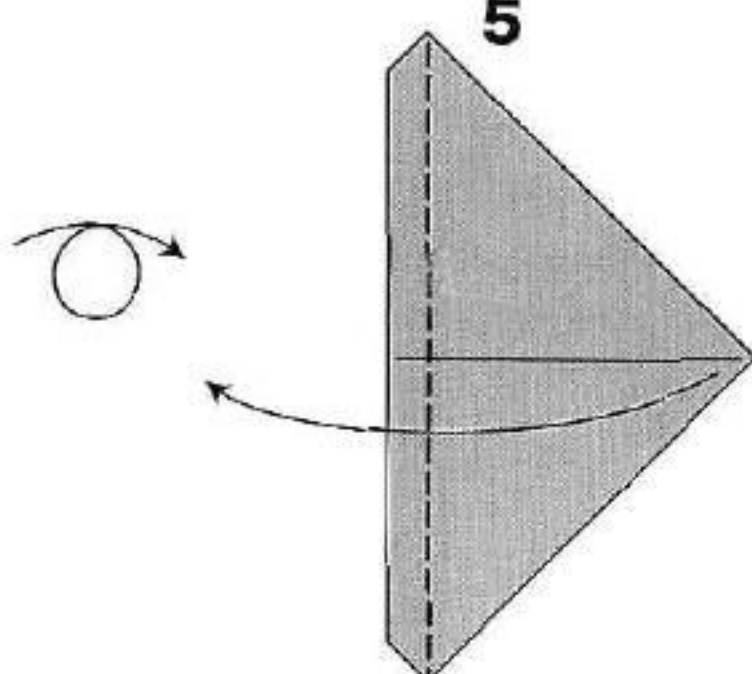
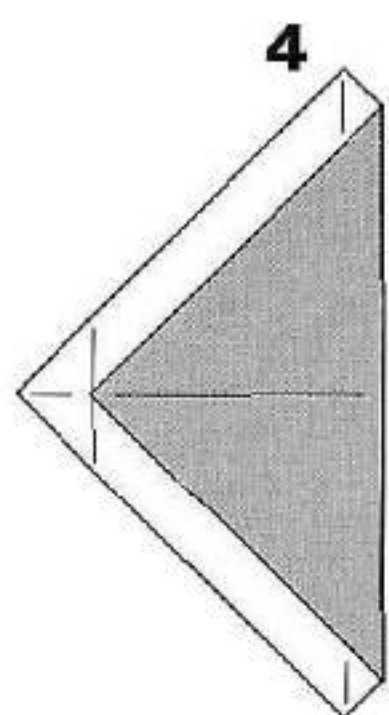
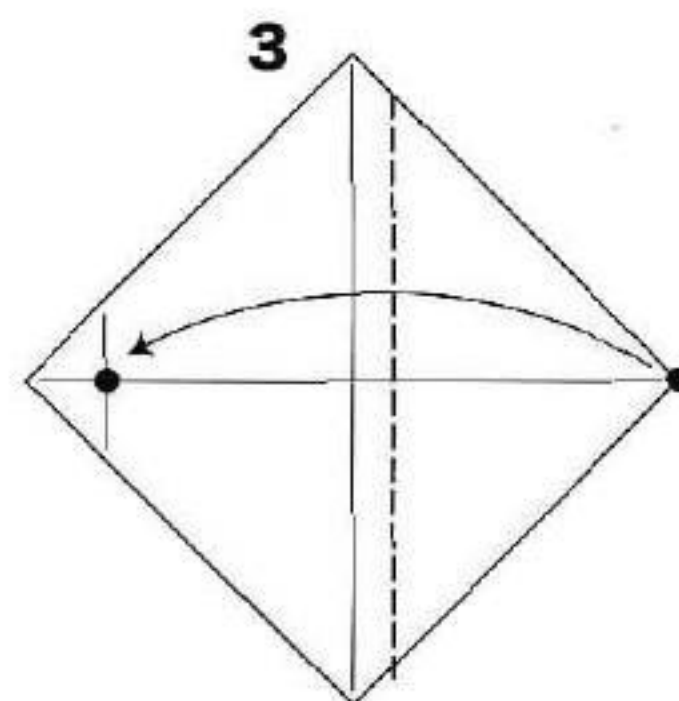
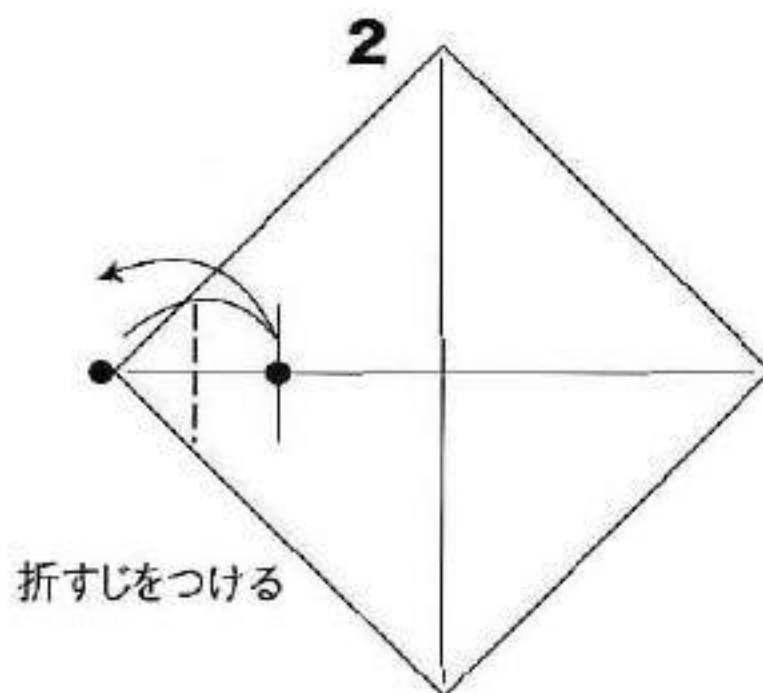
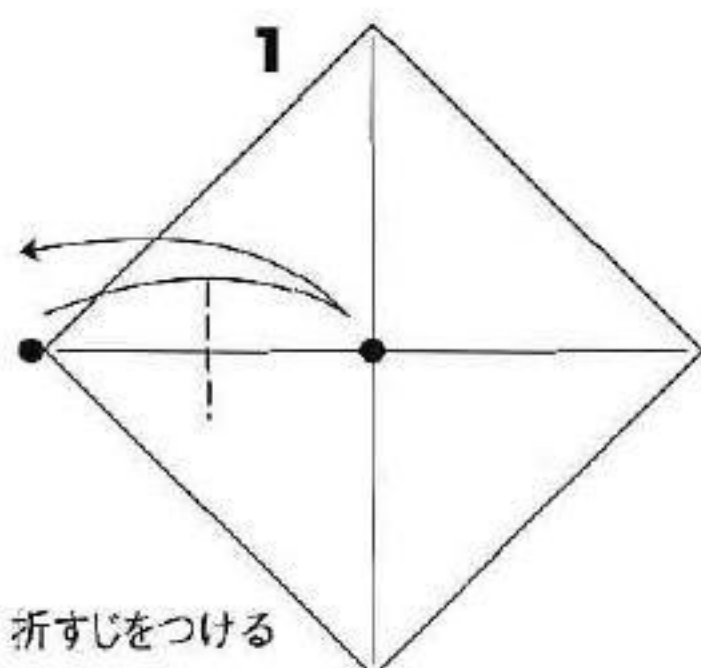
①創作者名および製作者名明記での作品使用（展示、譲渡、Web掲載等）

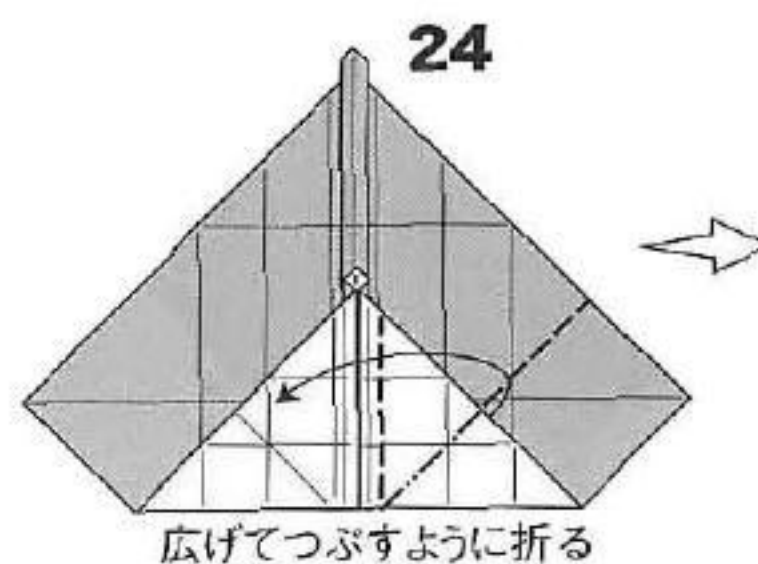
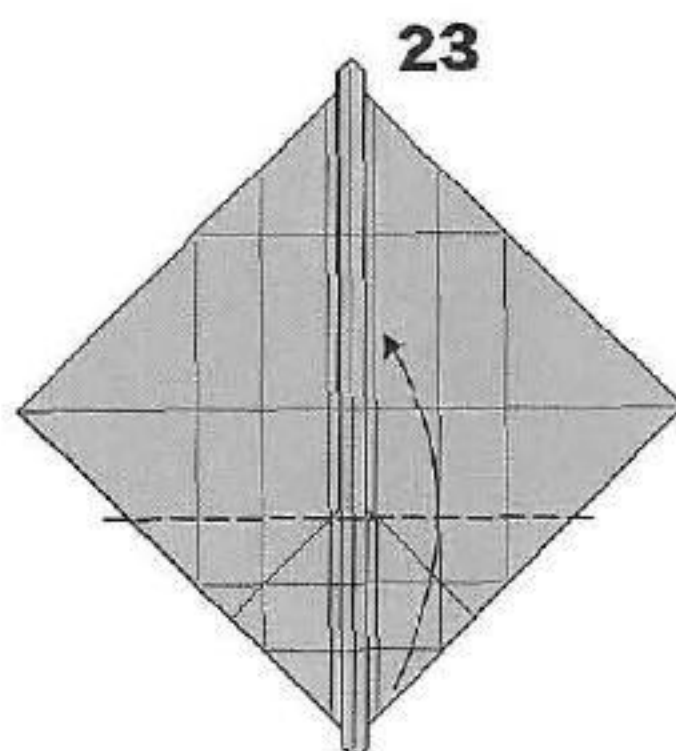
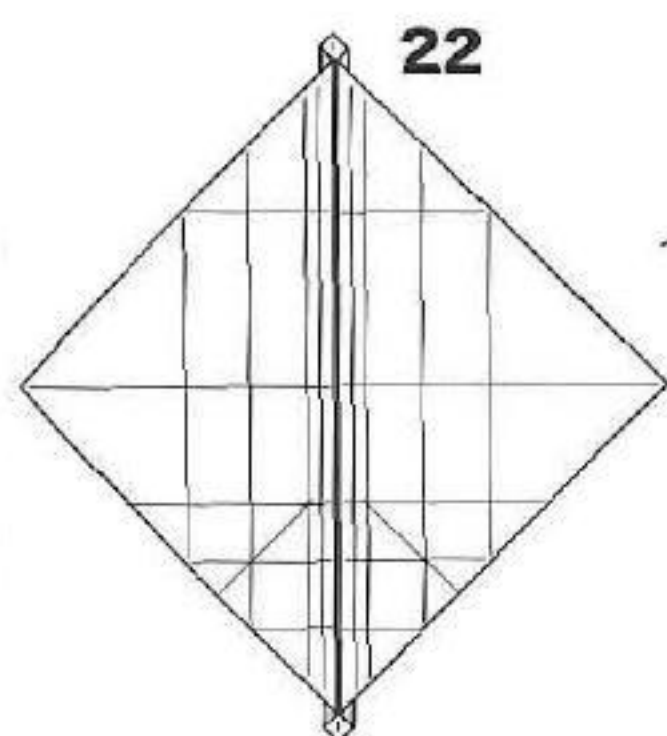
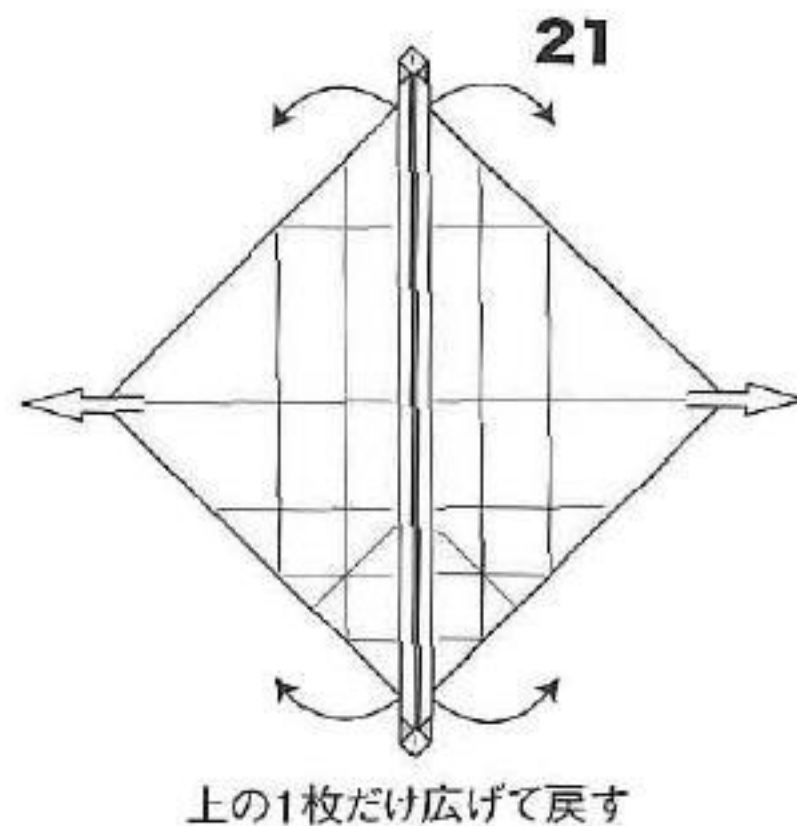
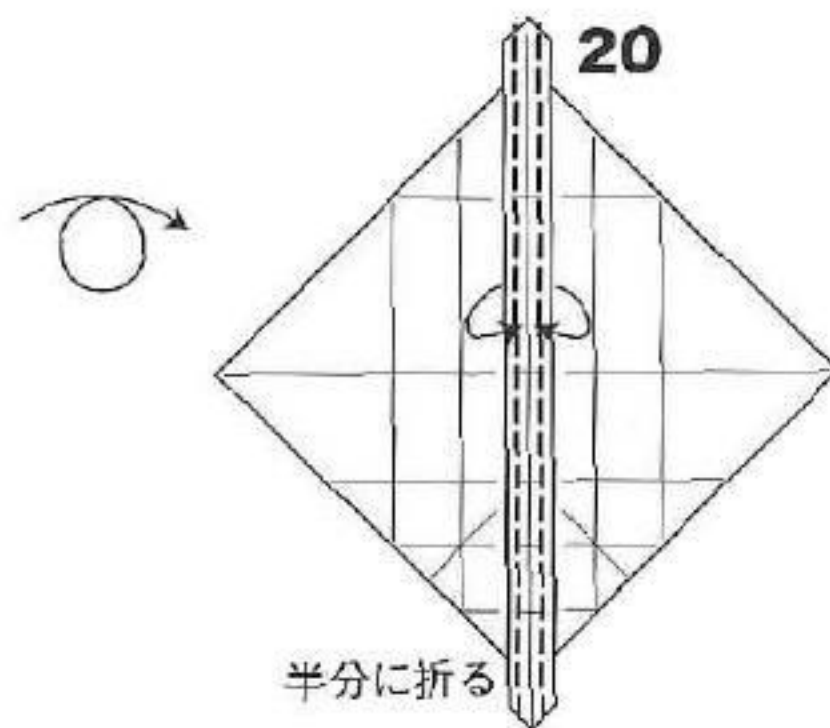
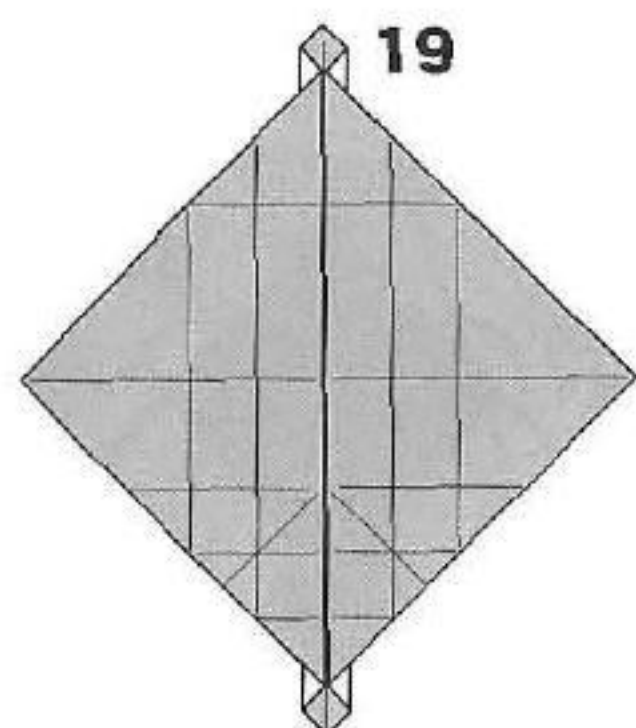
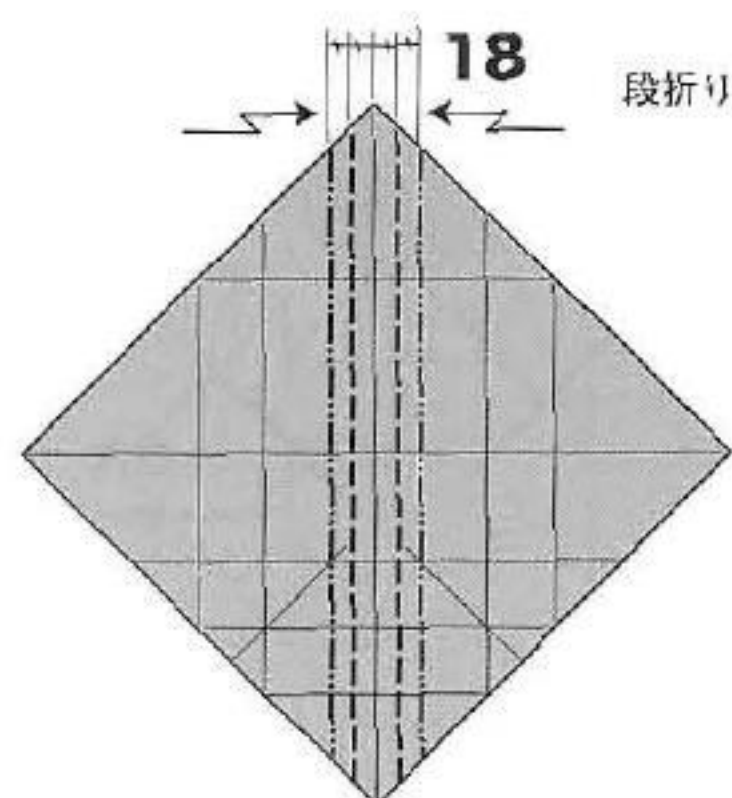
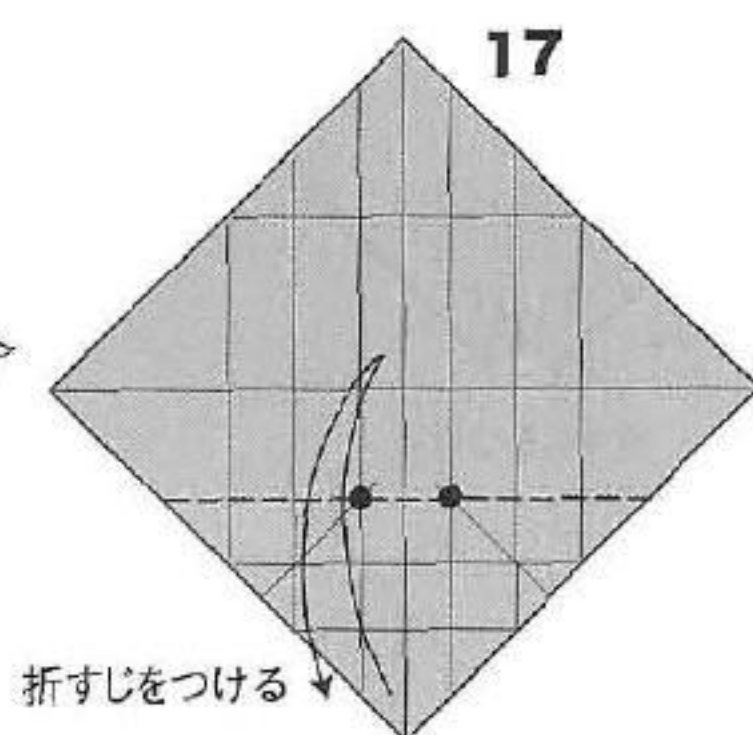
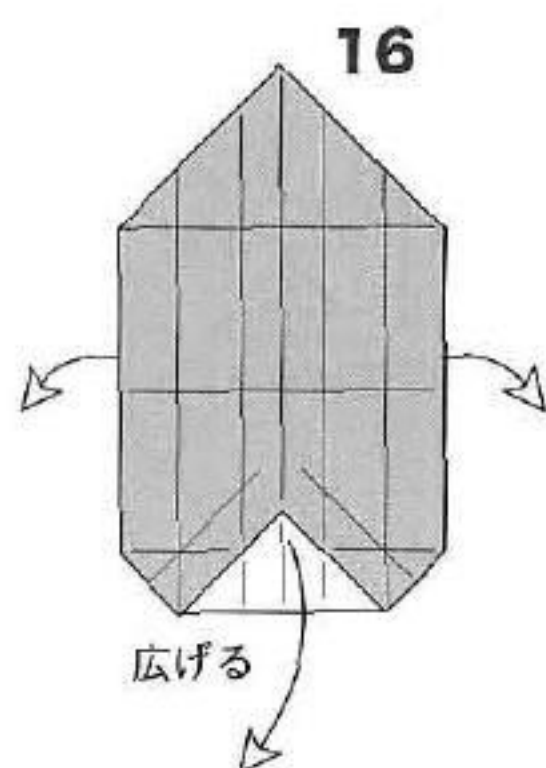
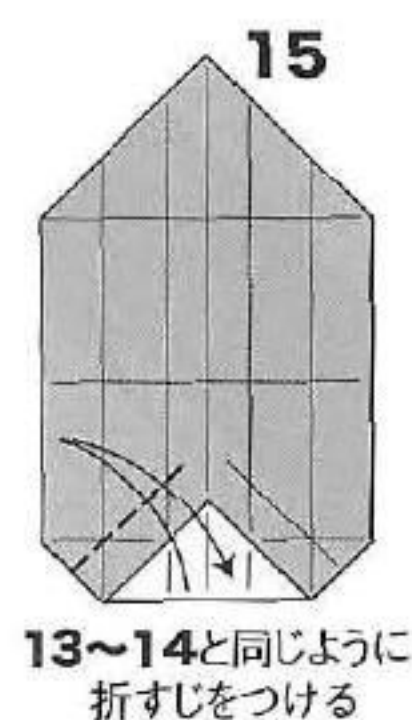
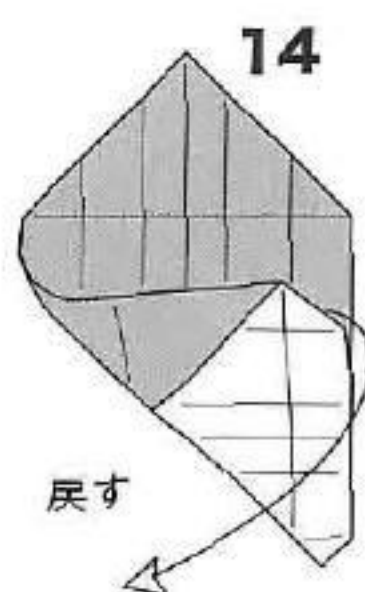
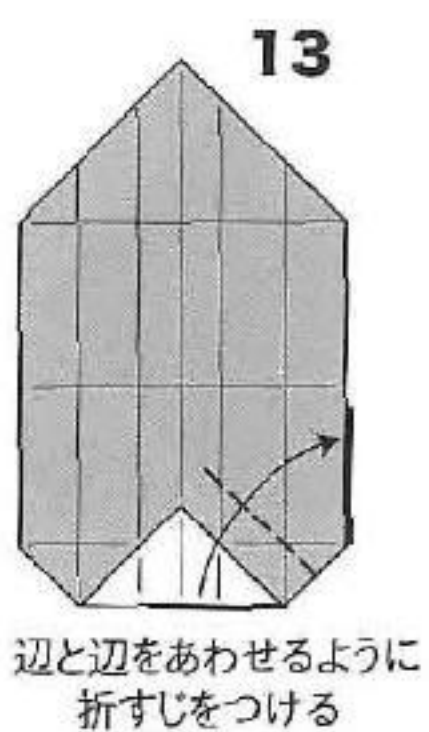
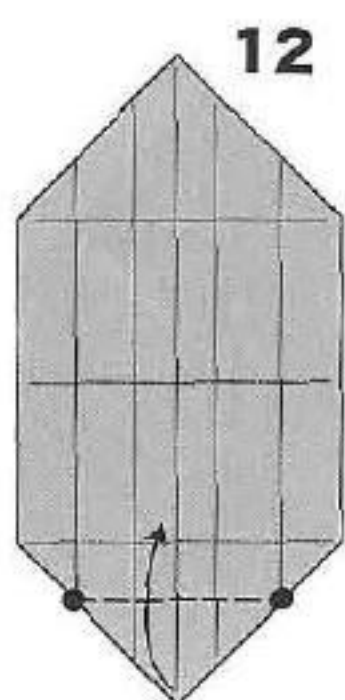
②創作者名を明確にした講習での使用。

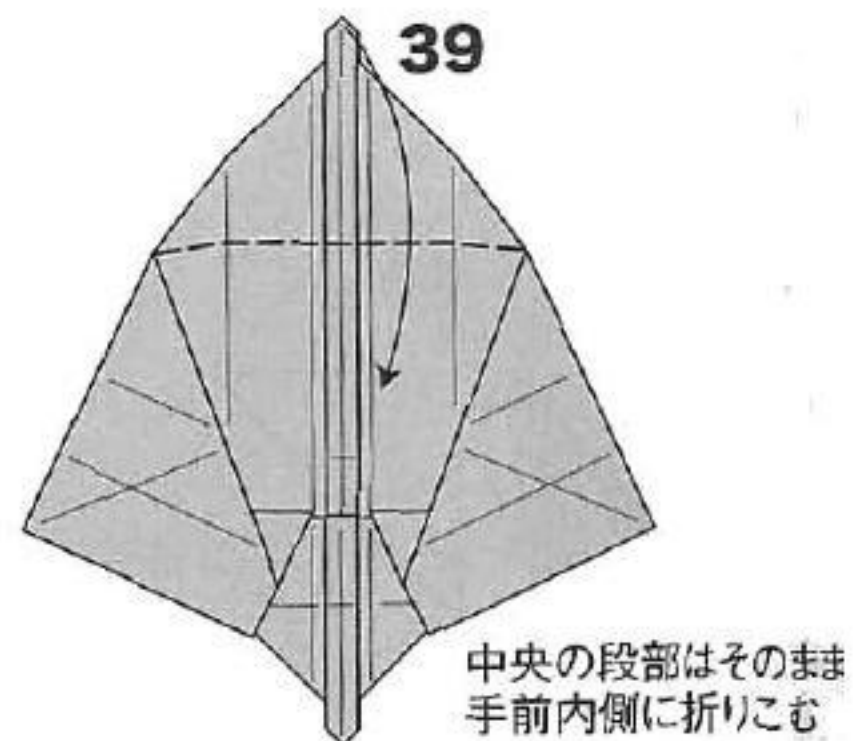
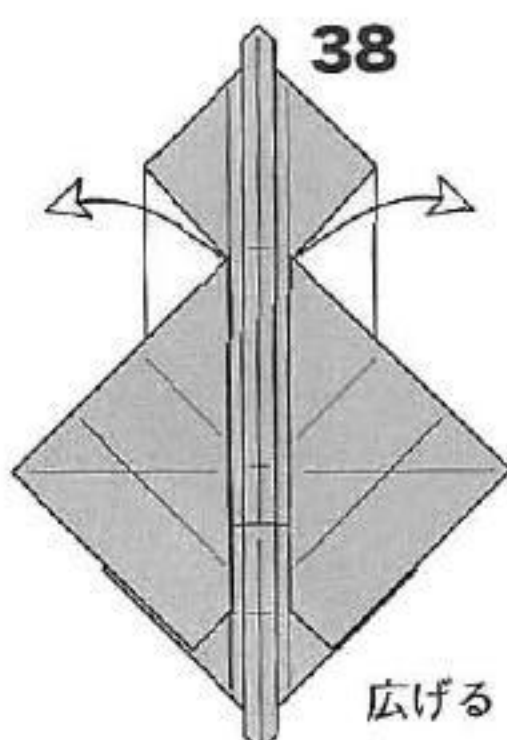
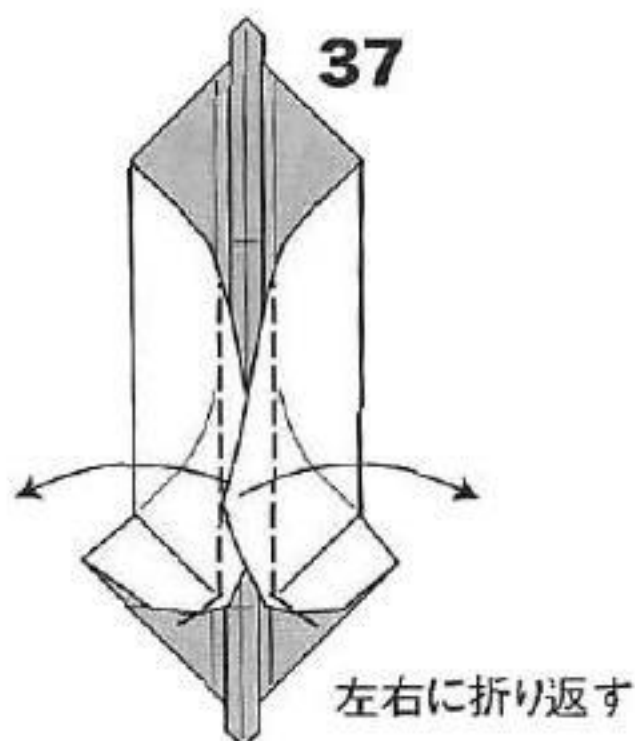
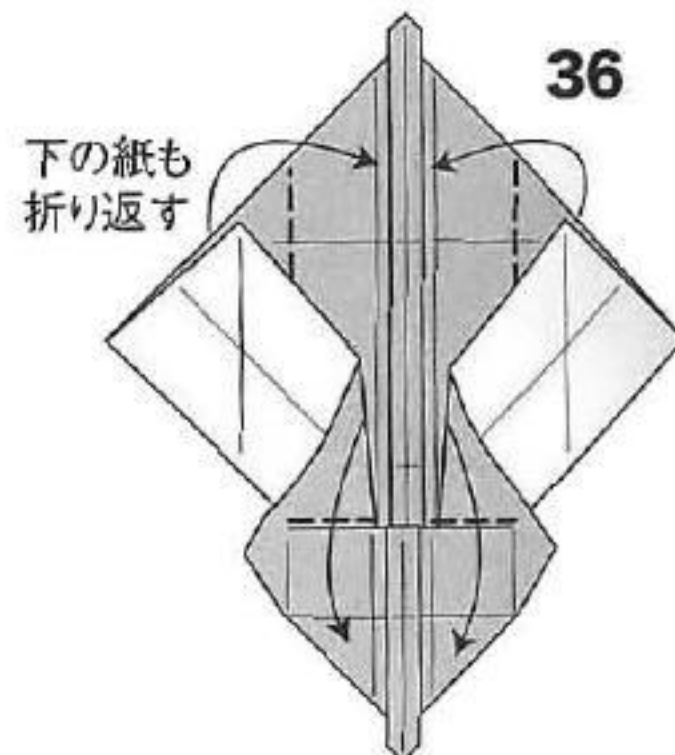
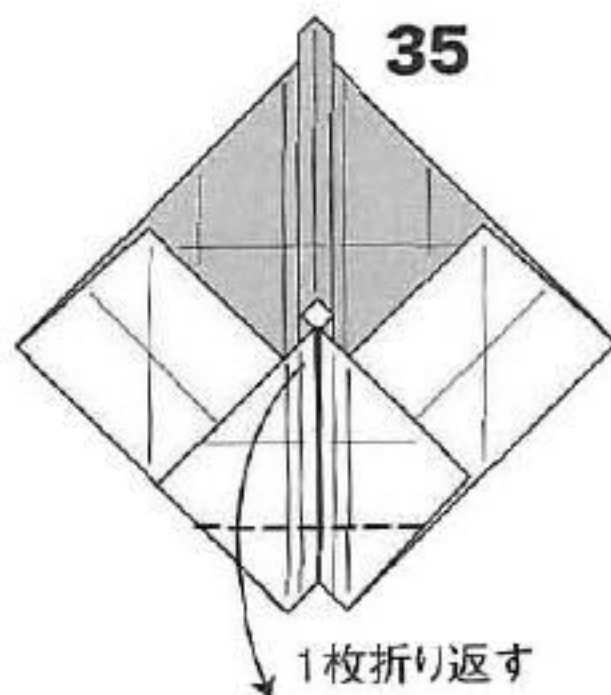
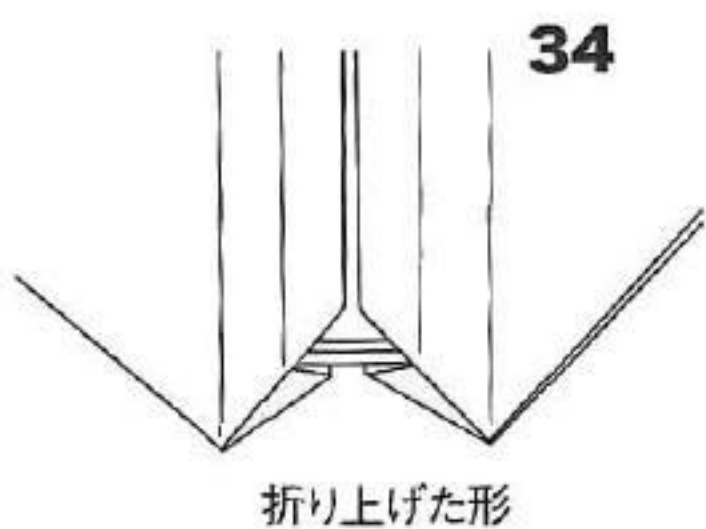
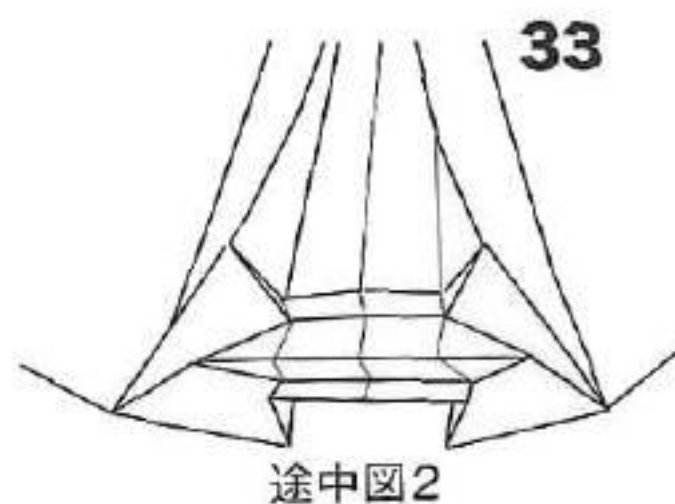
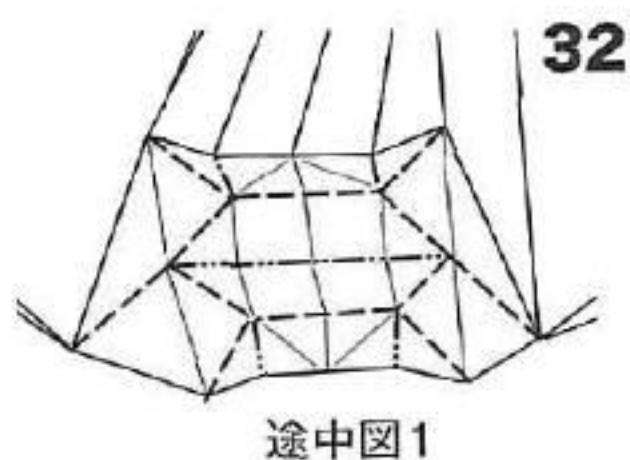
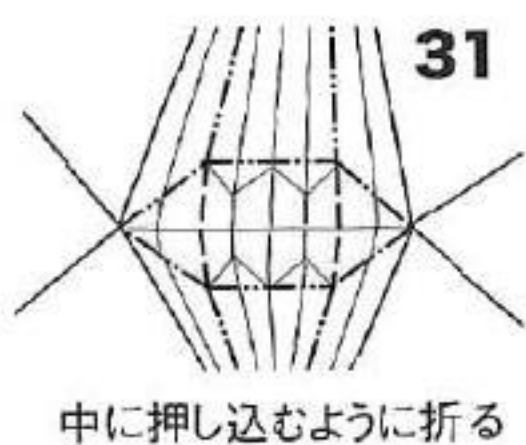
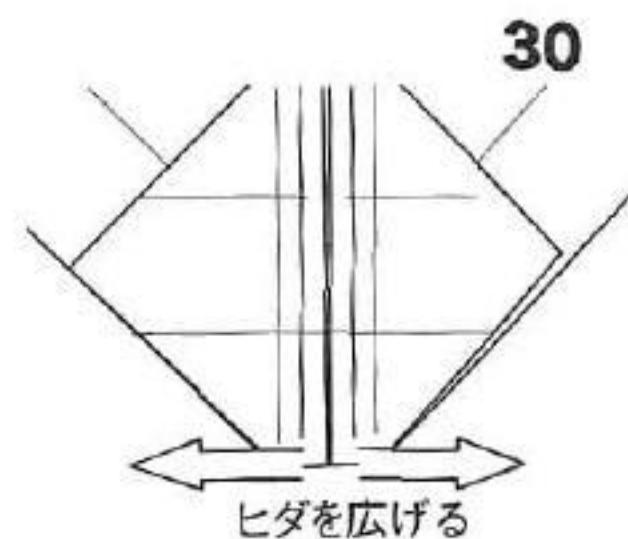
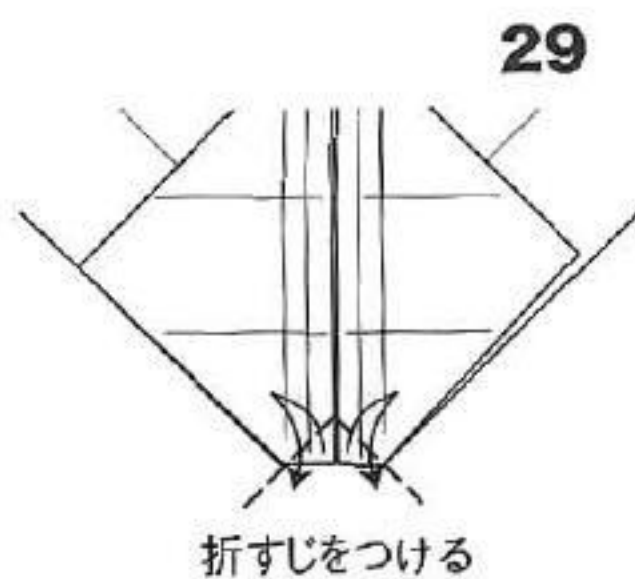
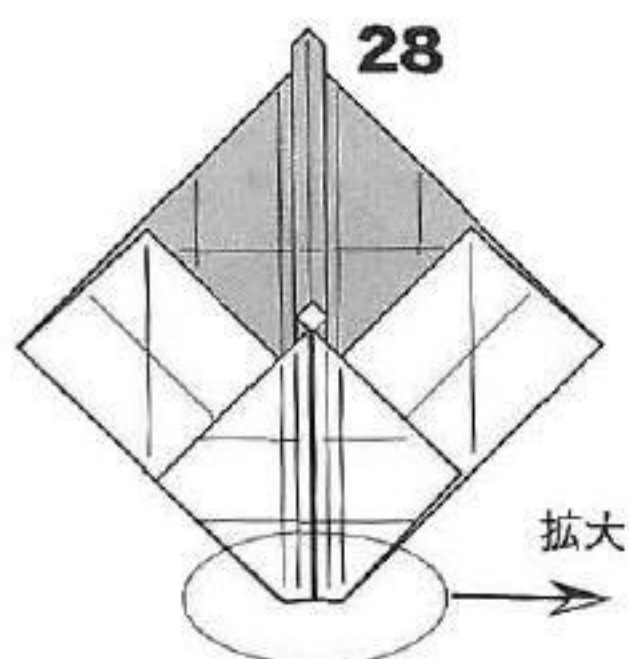
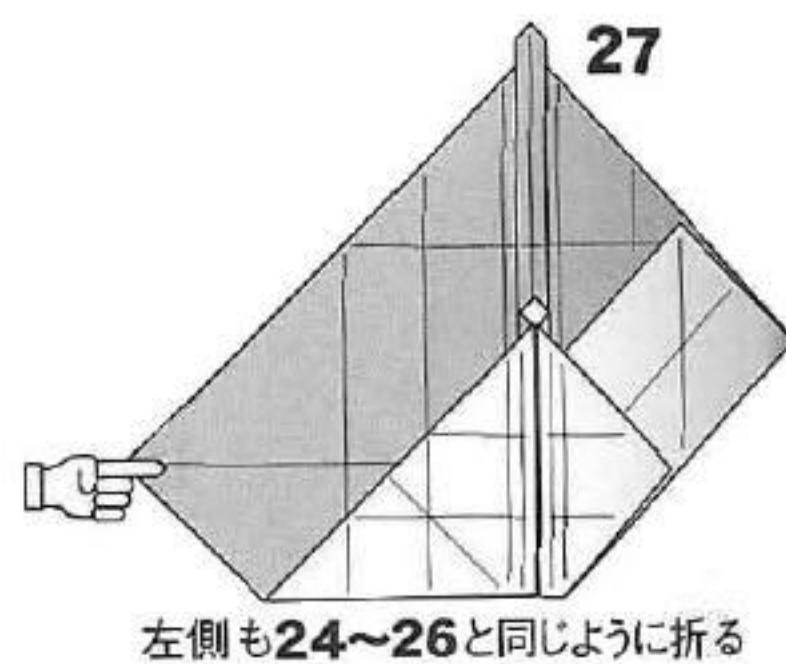
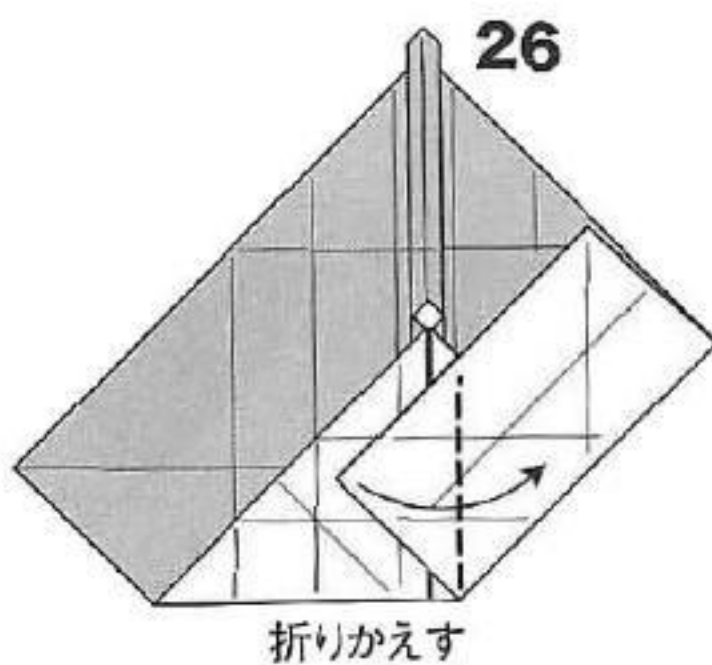
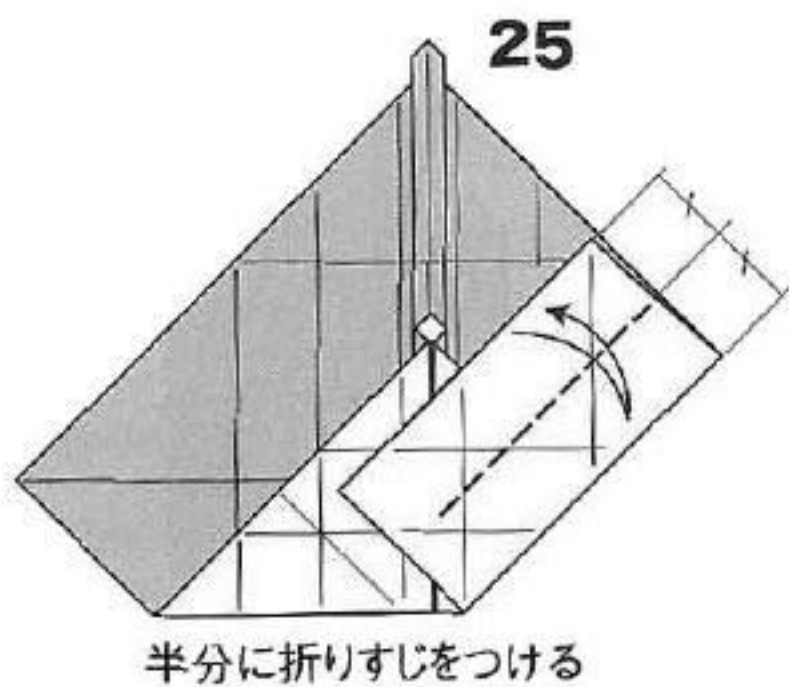
川畑文昭

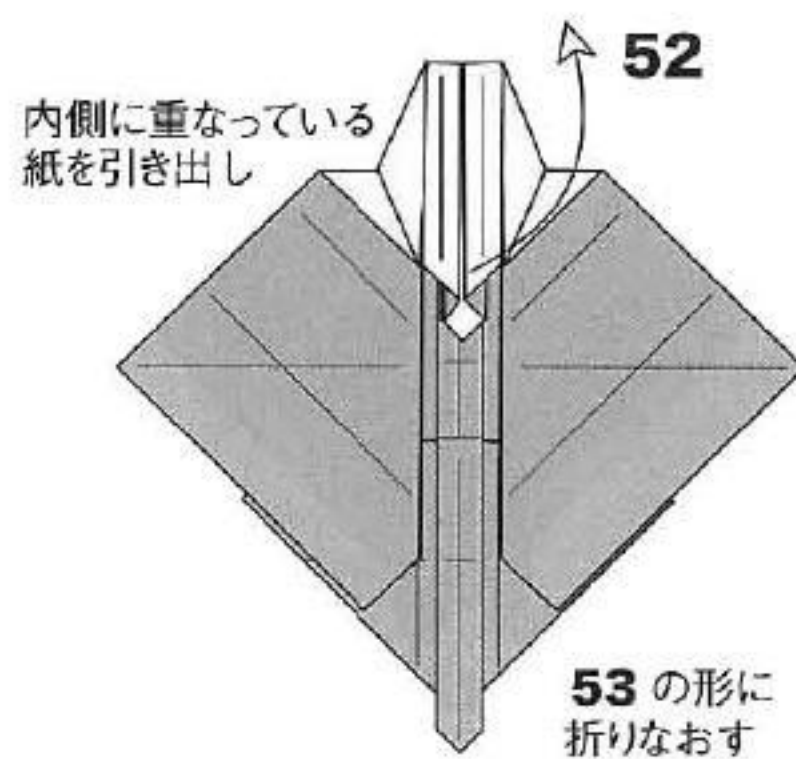
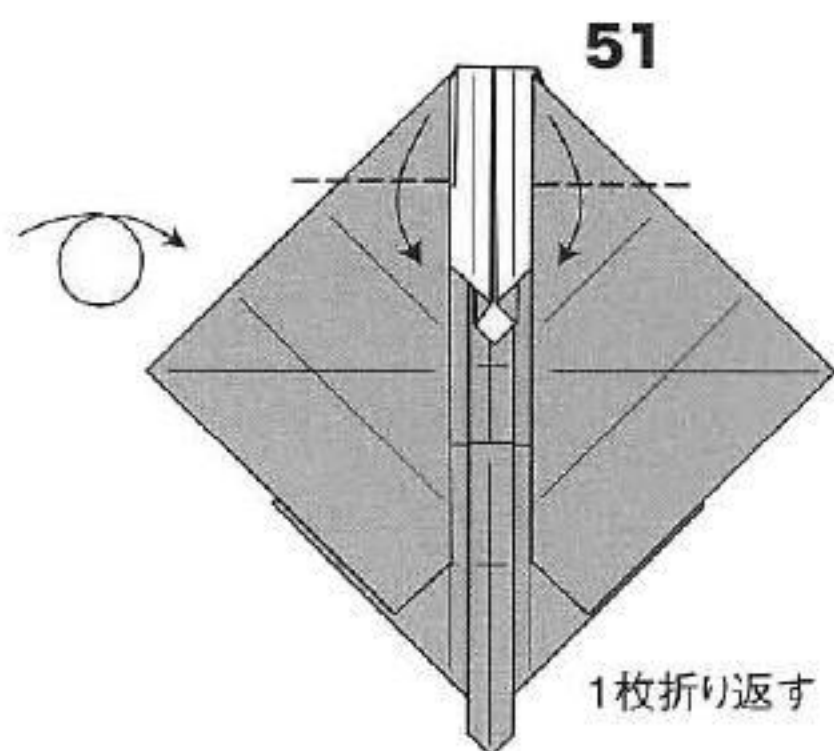
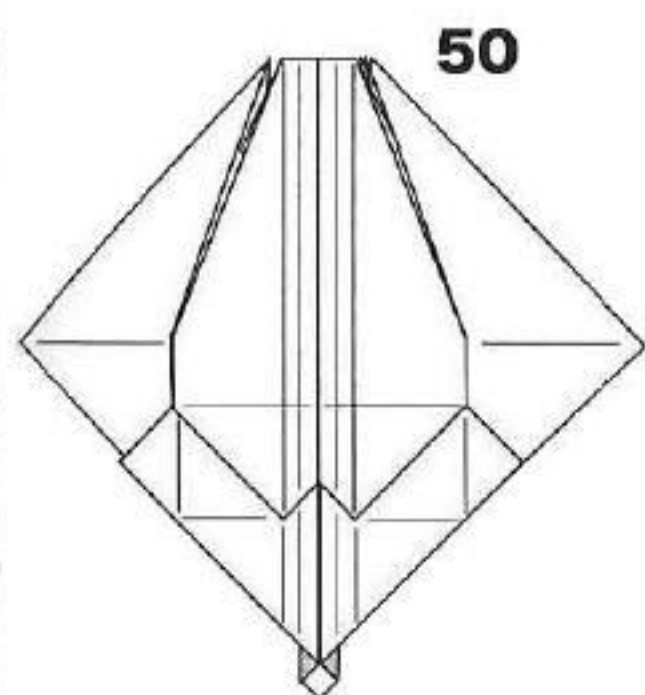
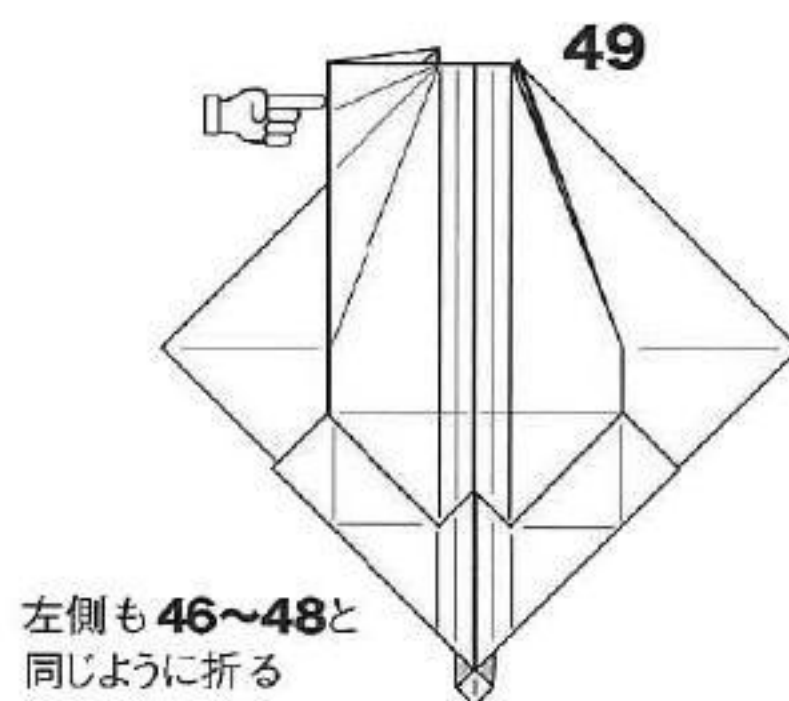
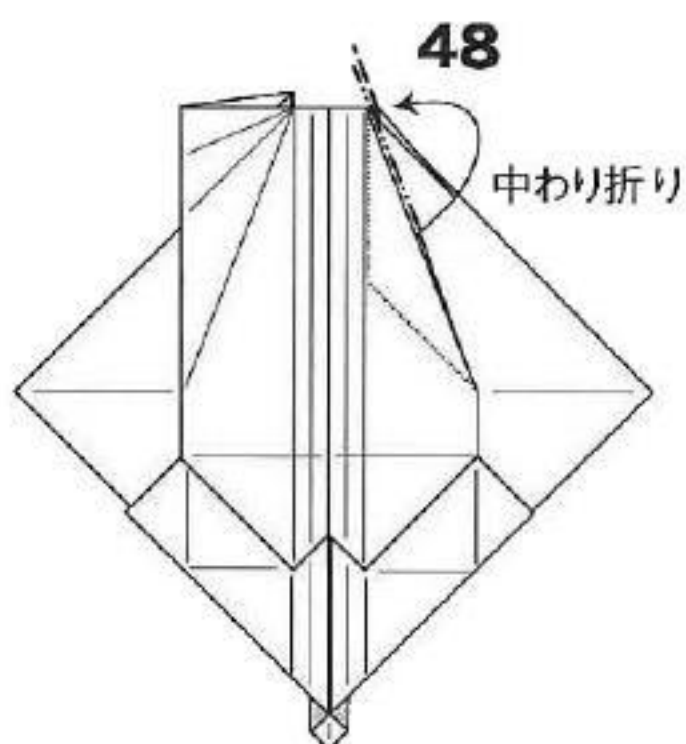
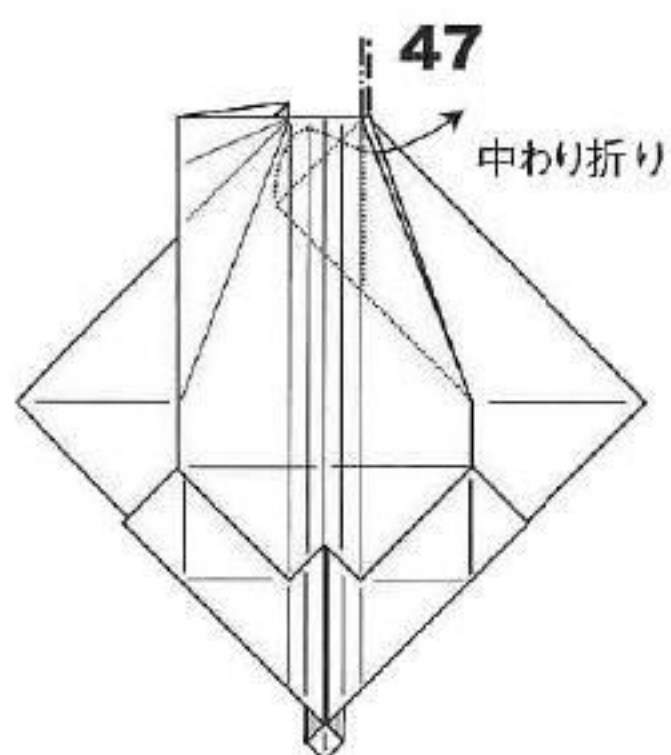
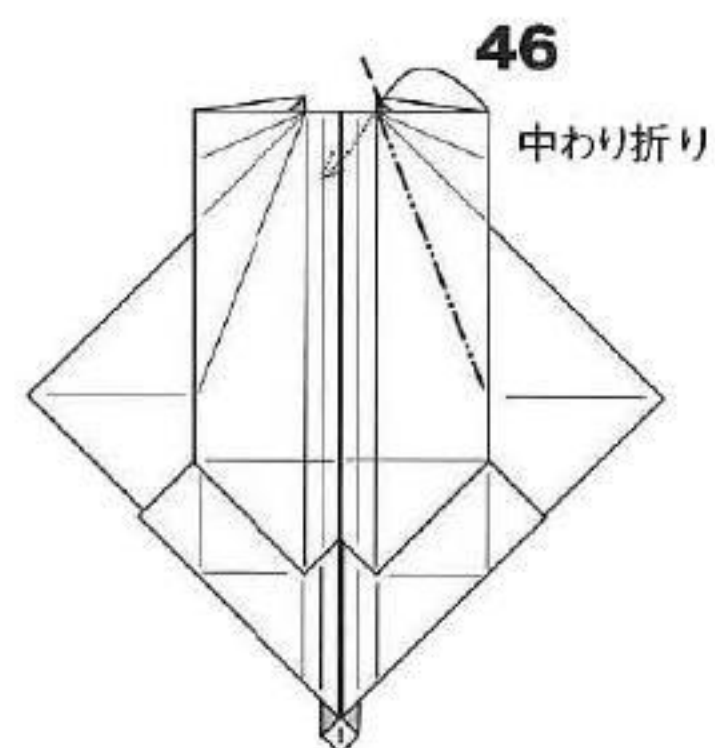
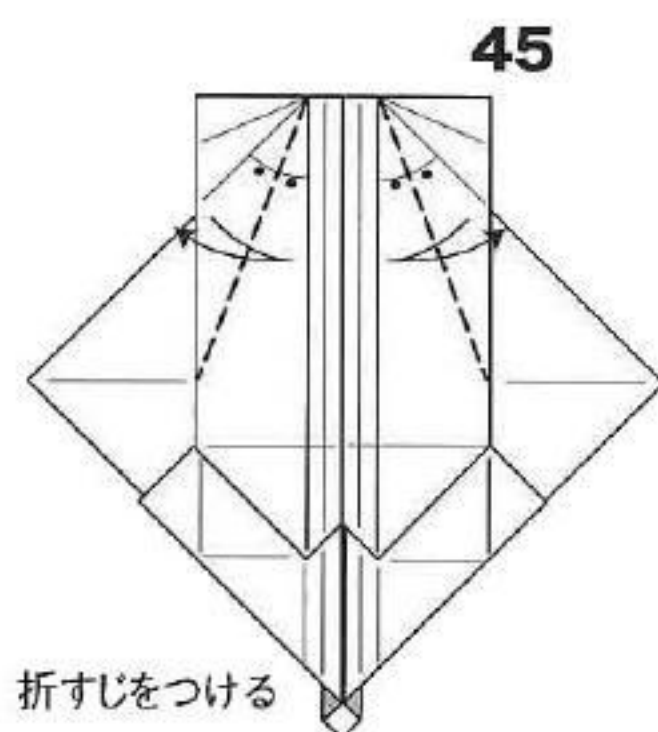
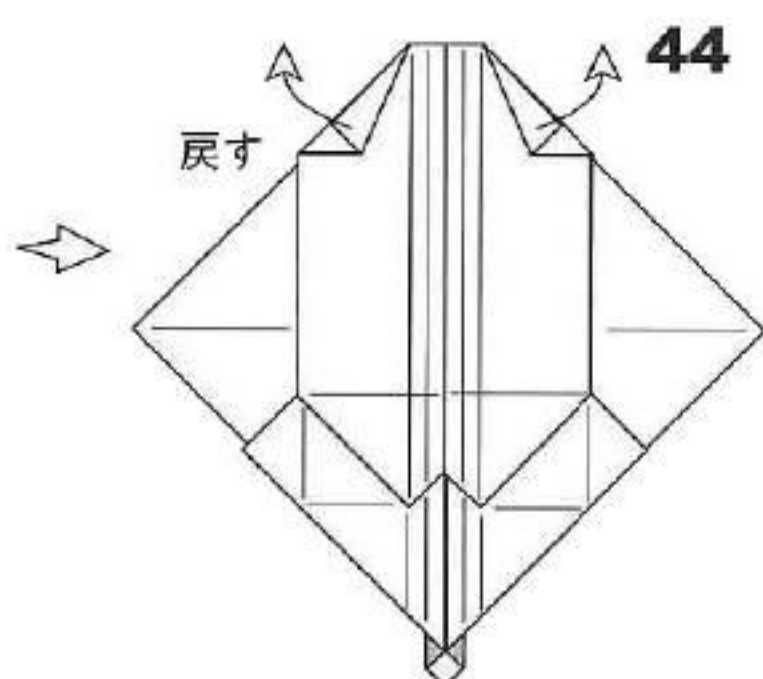
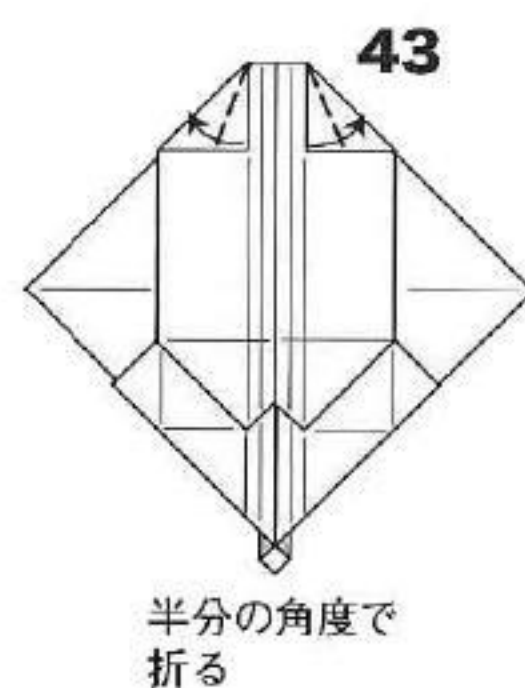
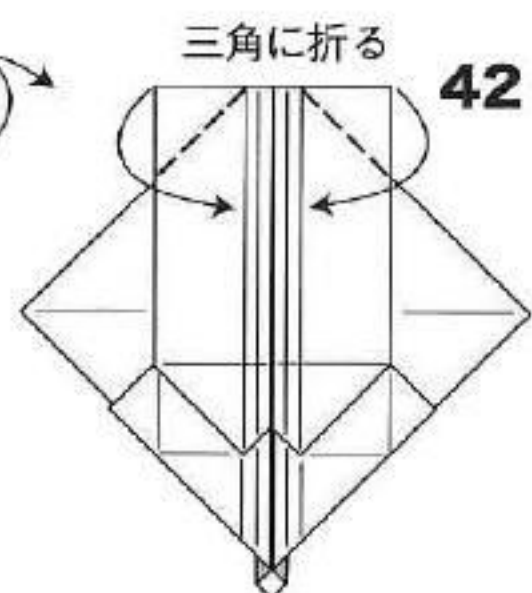
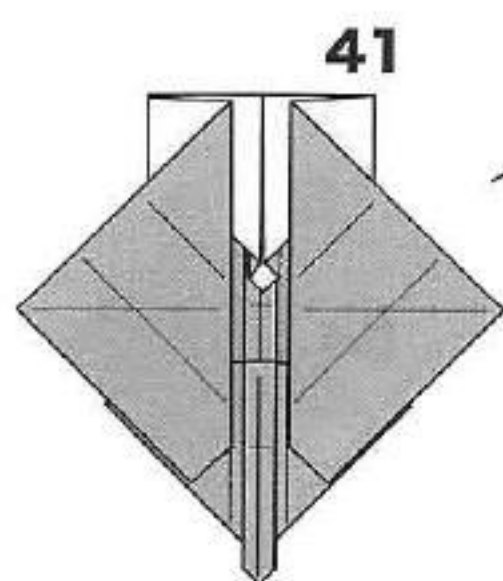
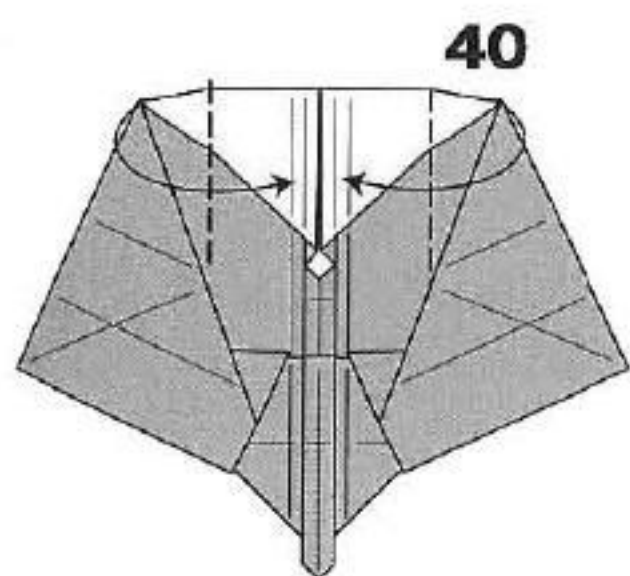


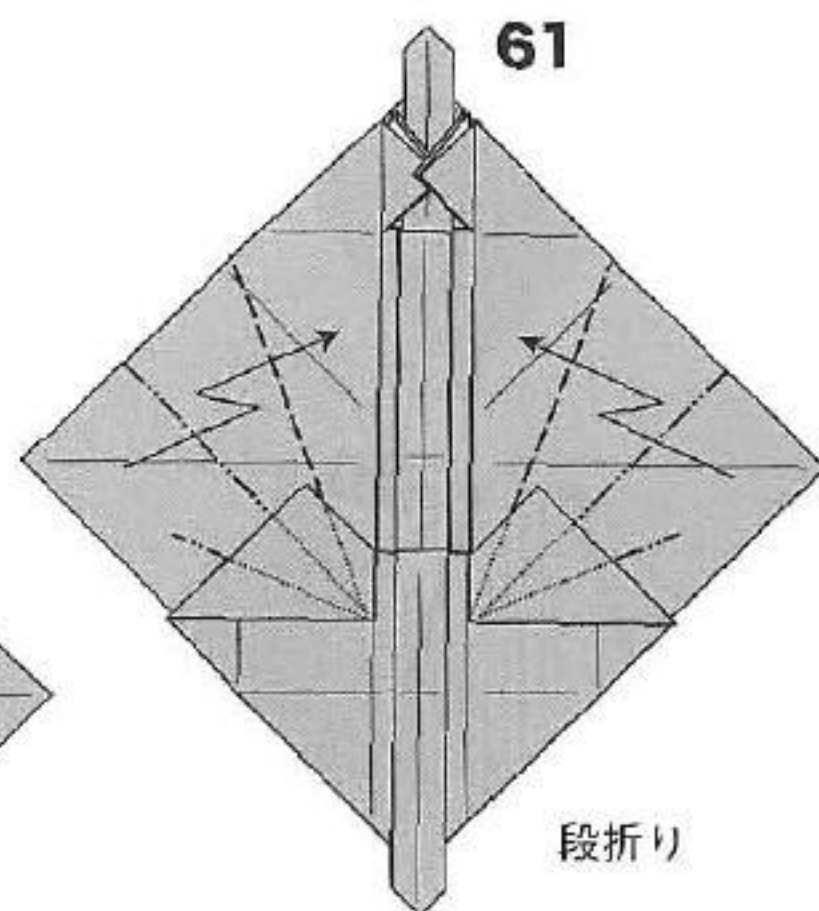
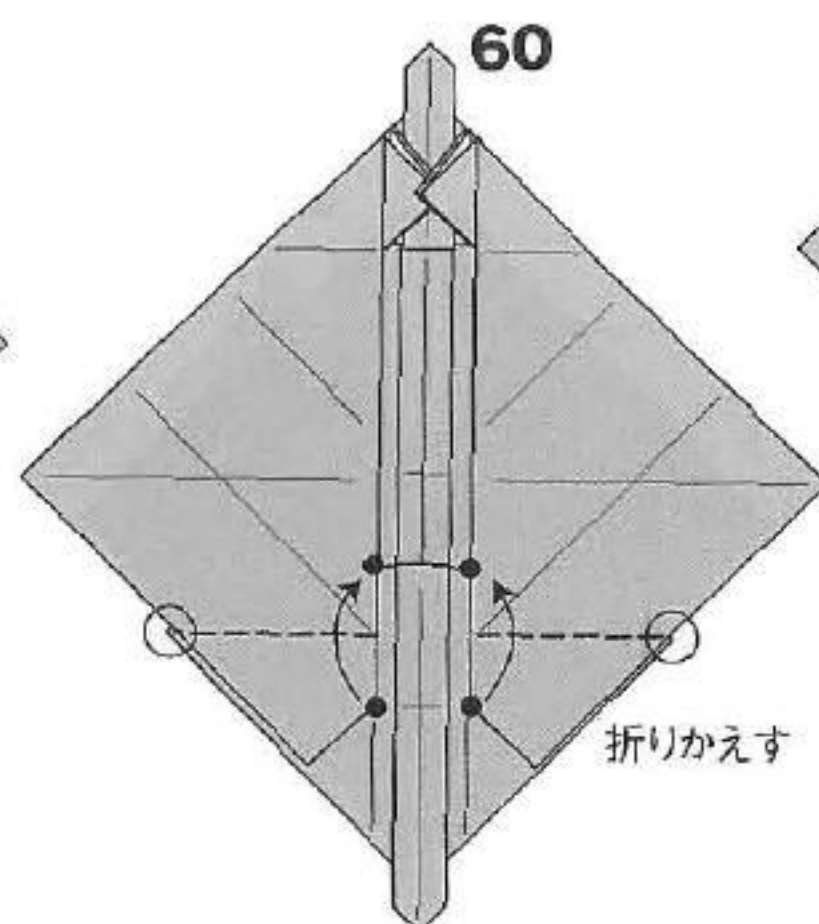
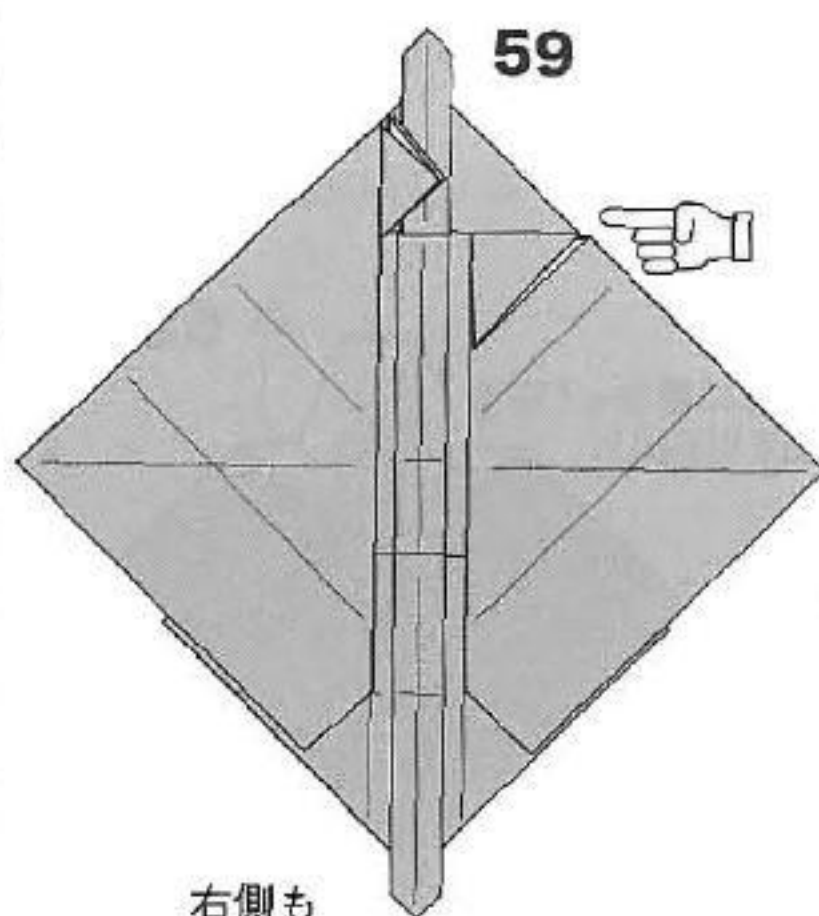
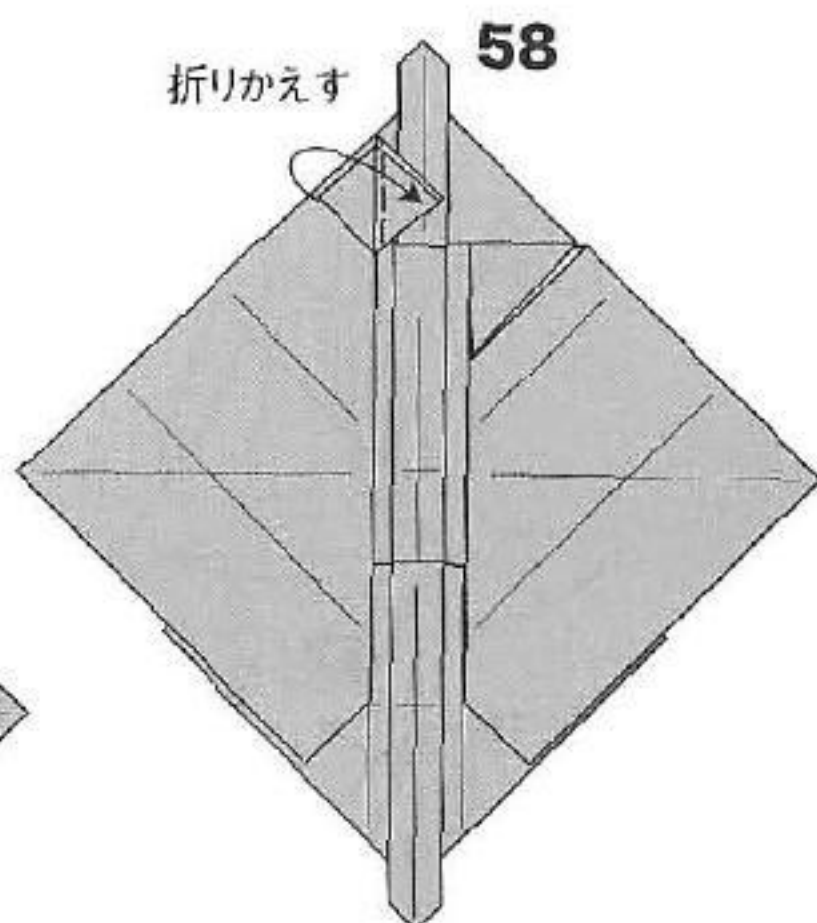
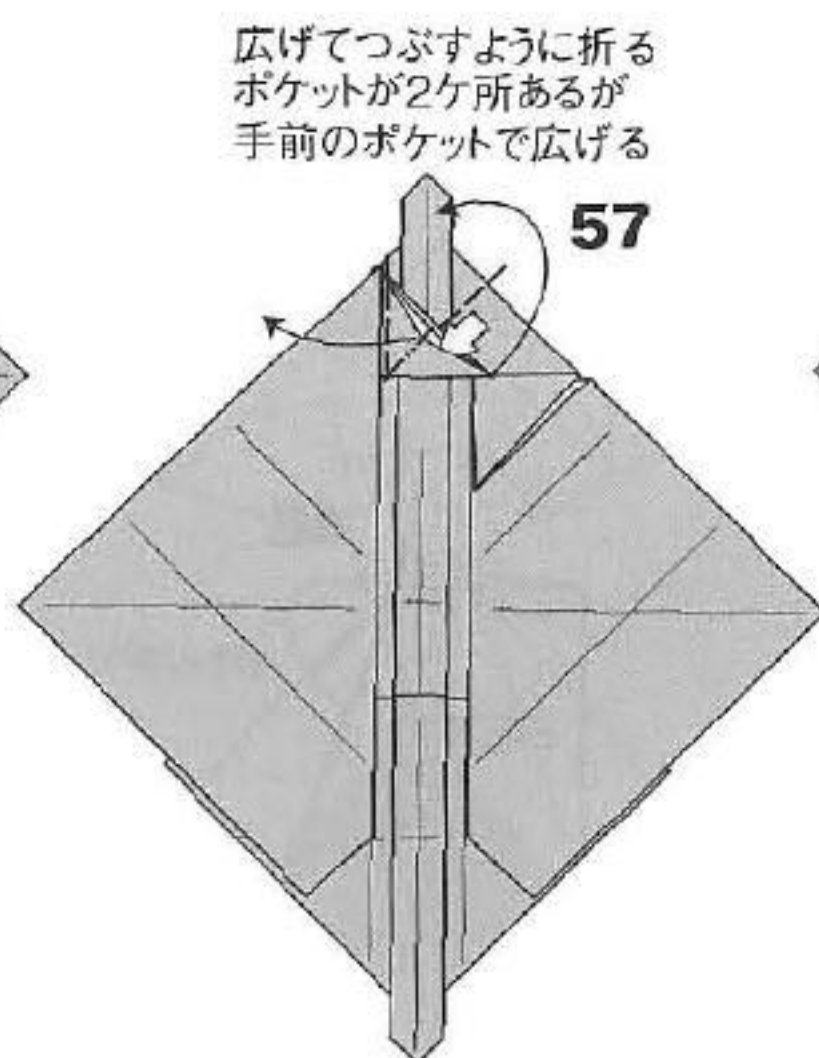
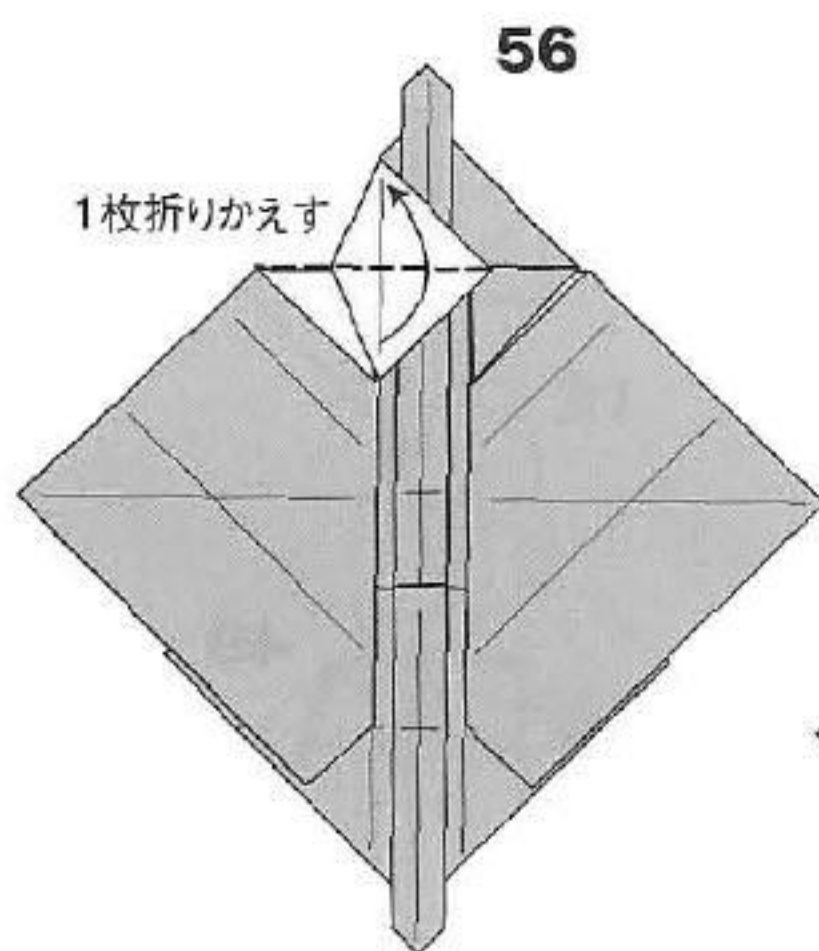
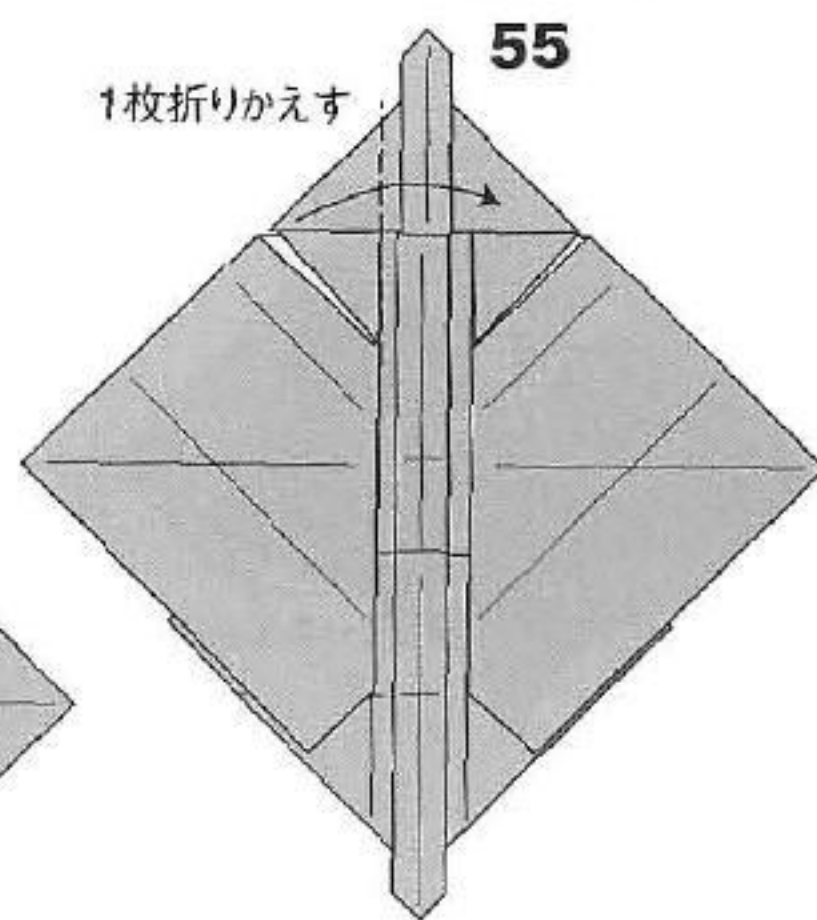
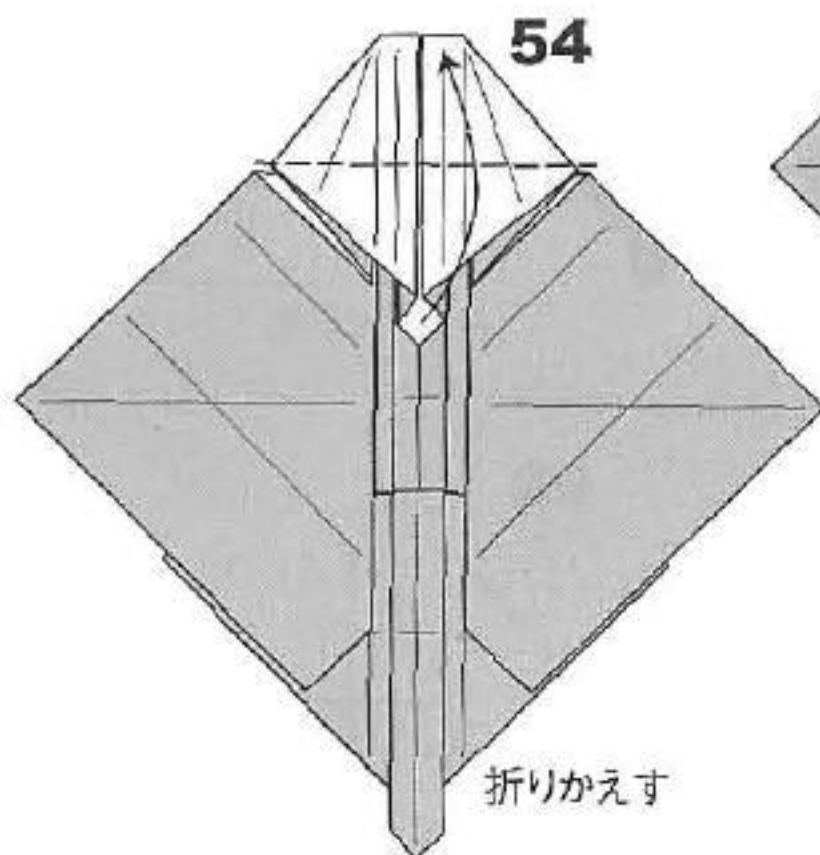
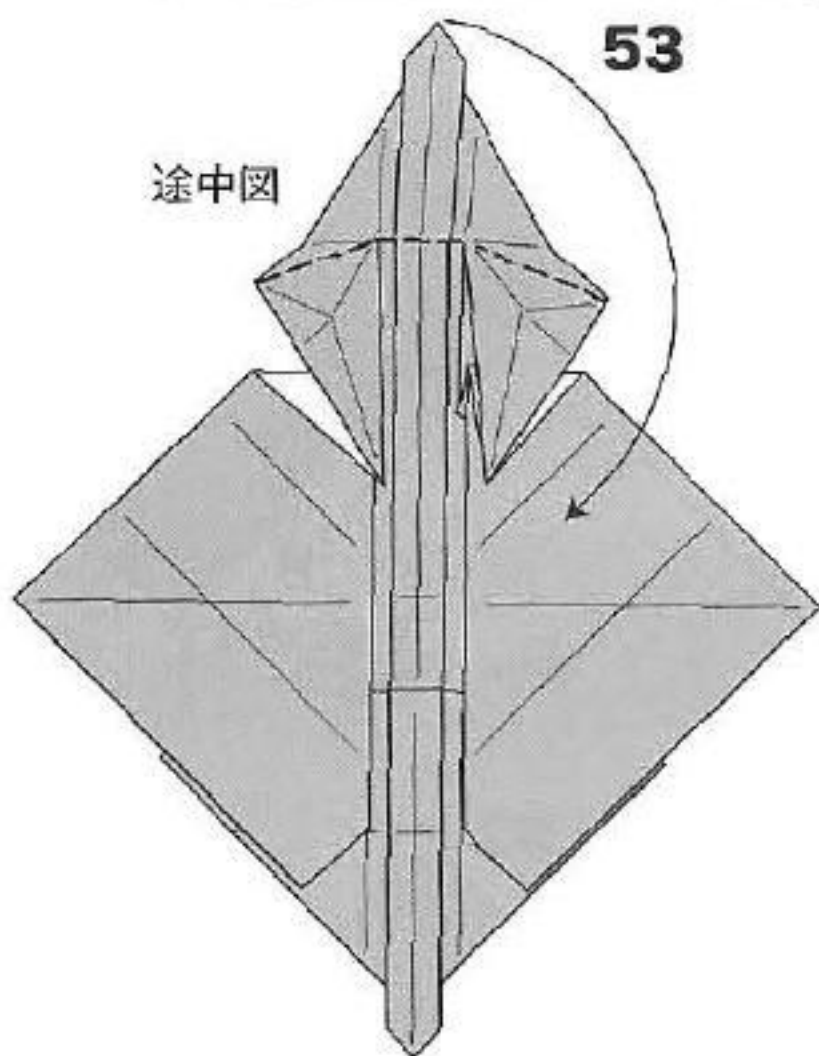
許可無くコピー転載禁止

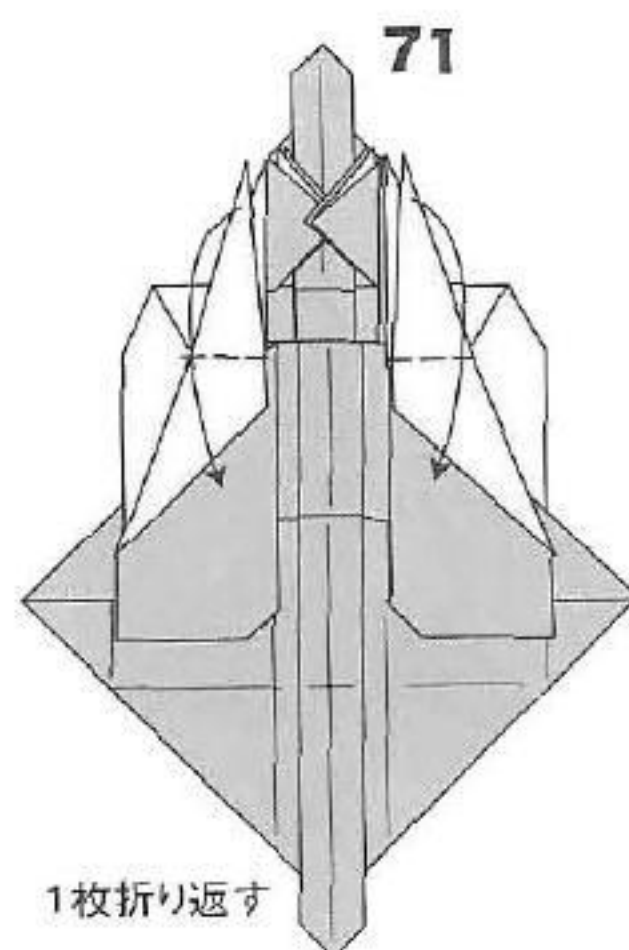
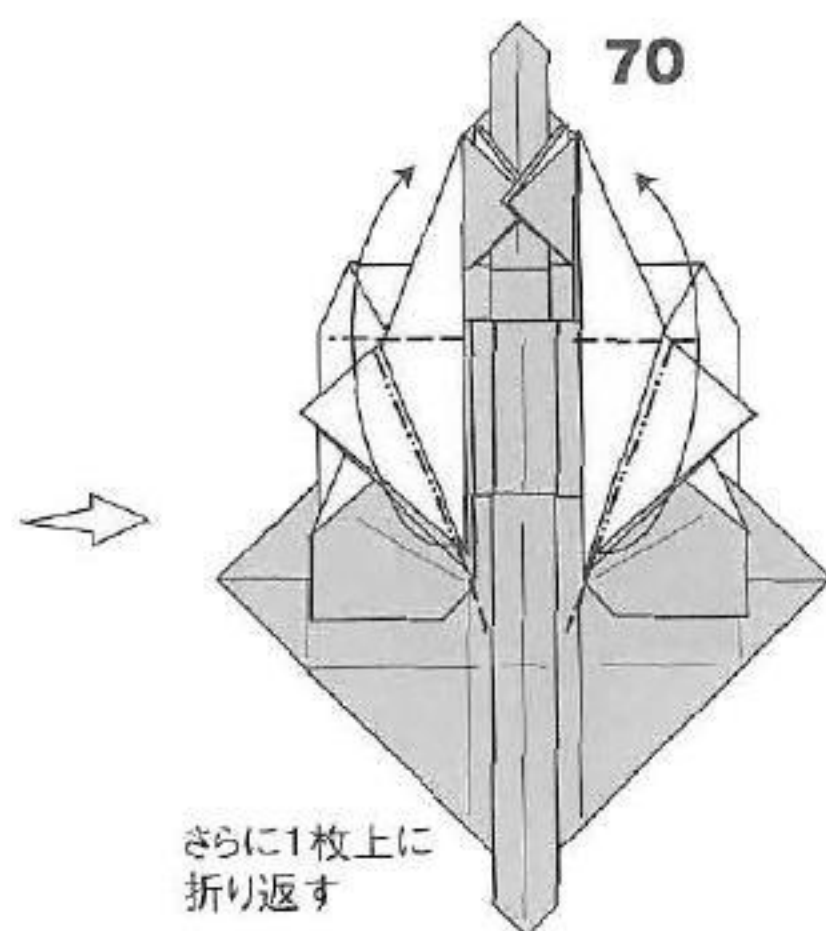
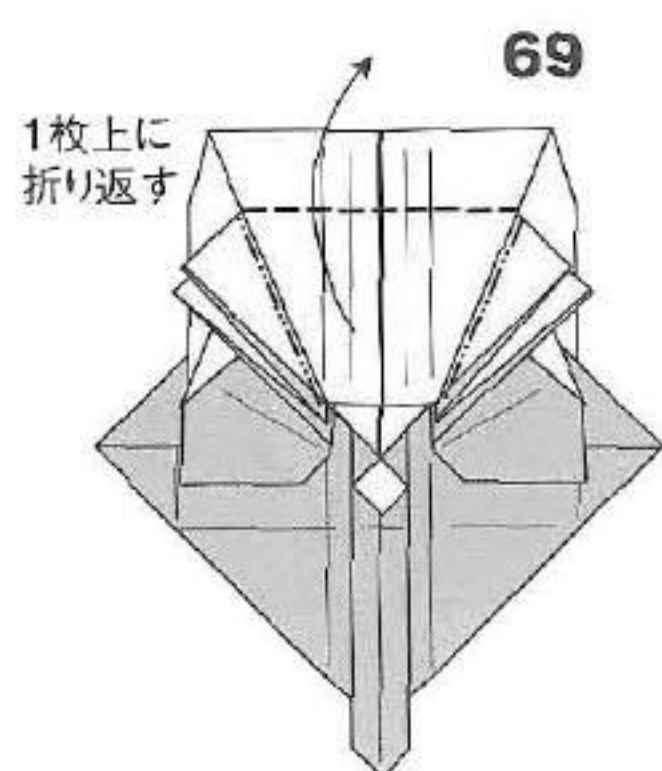
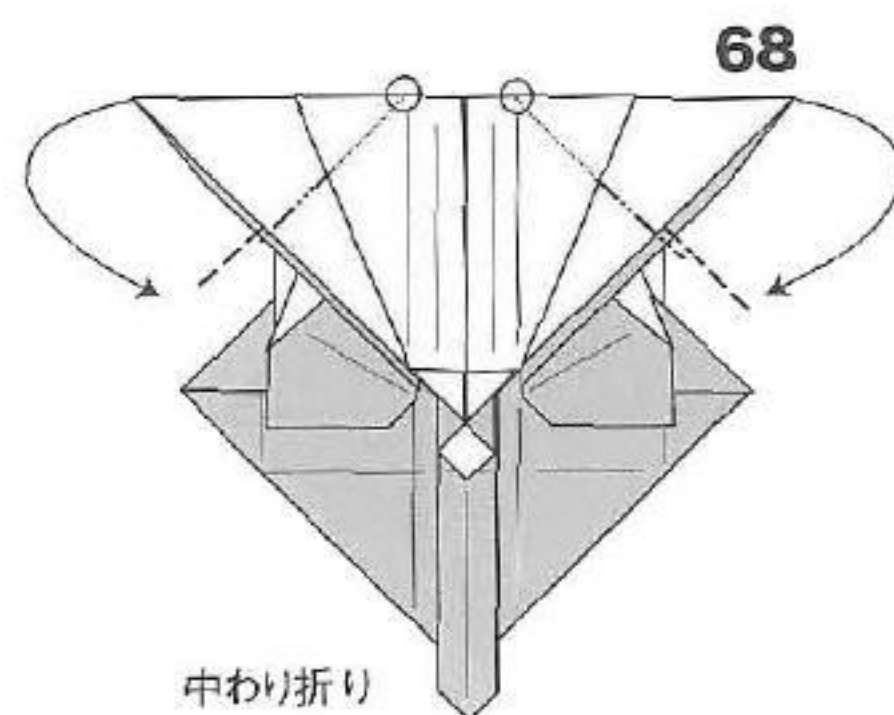
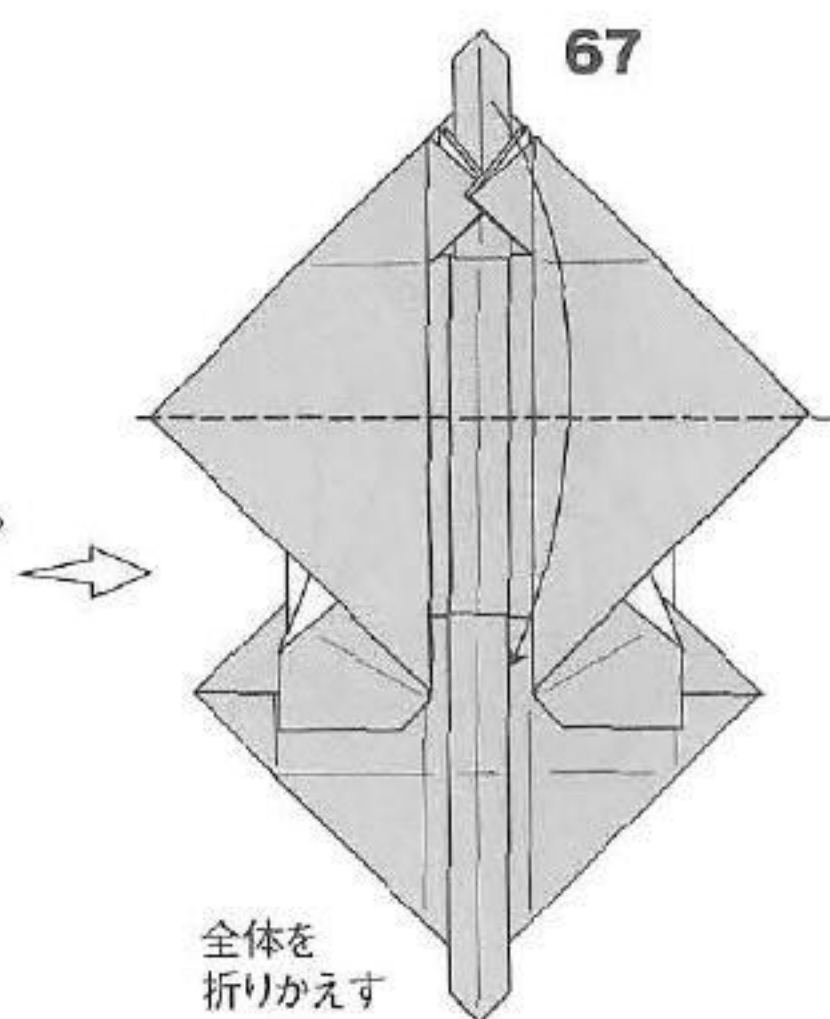
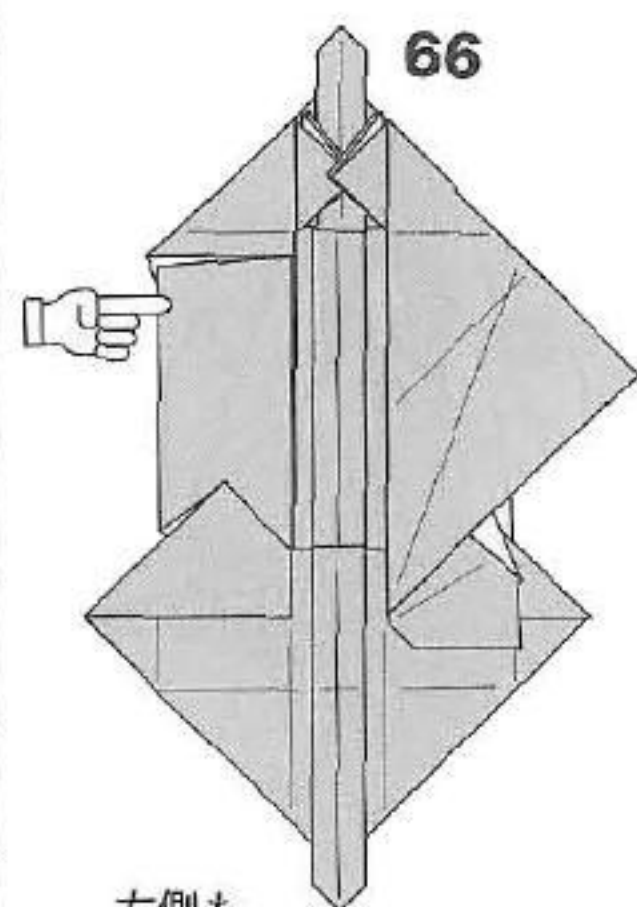
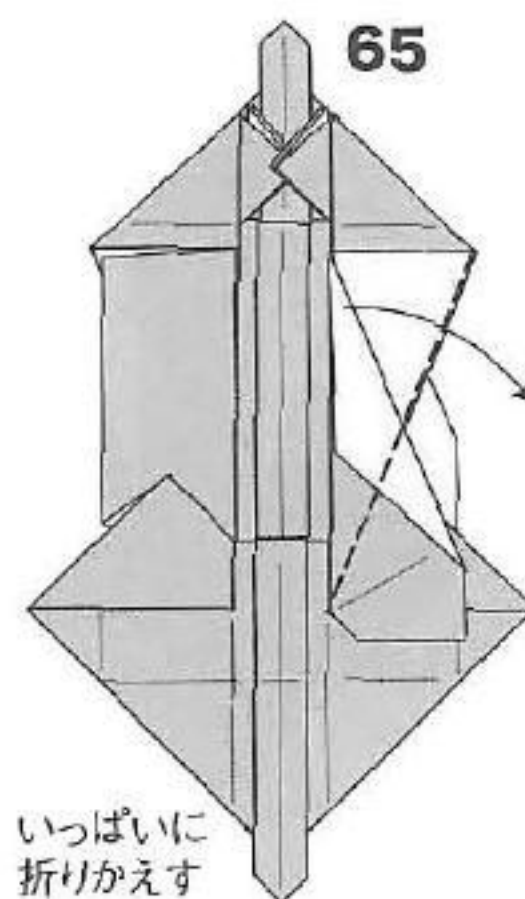
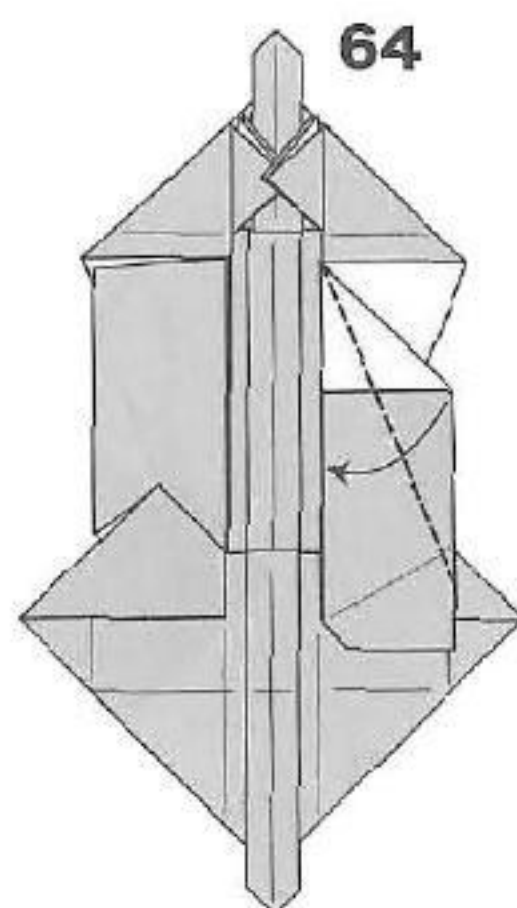
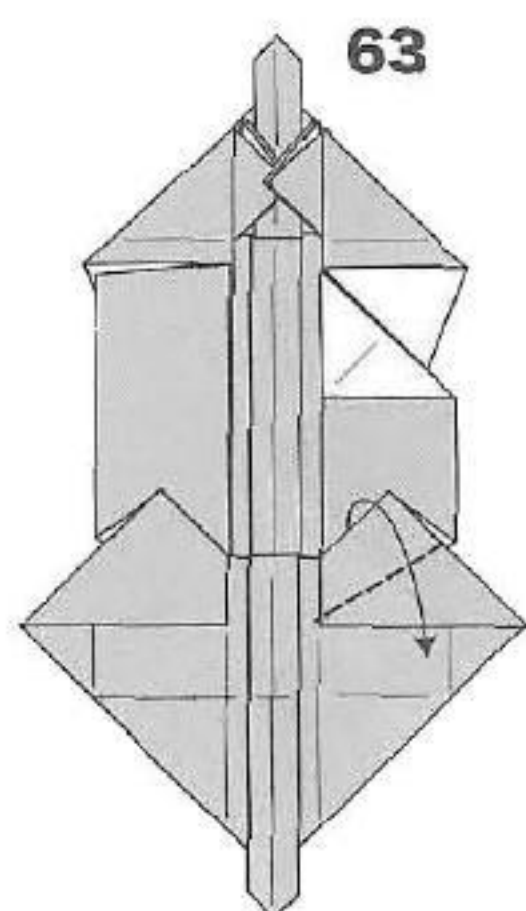
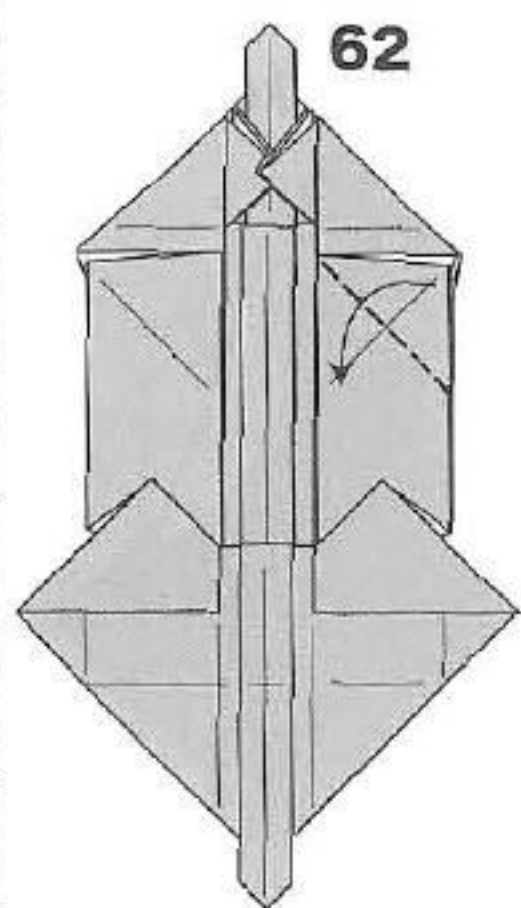


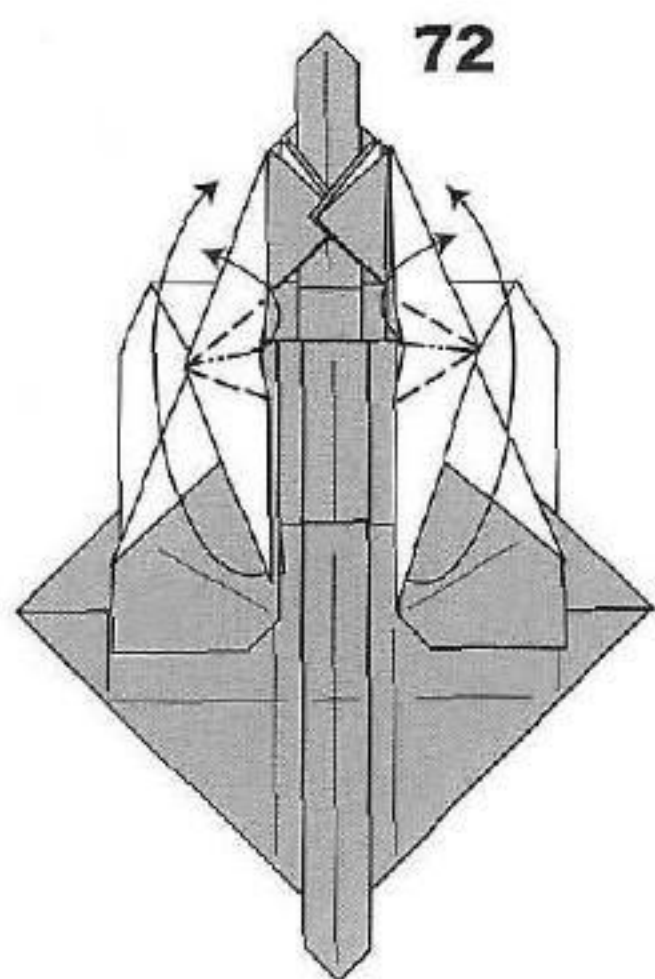




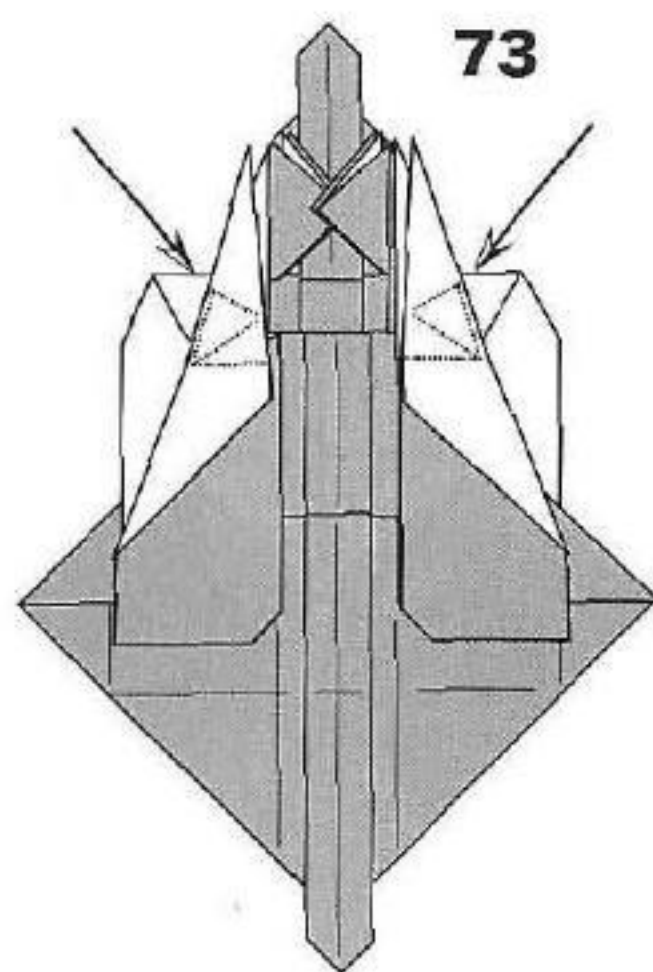




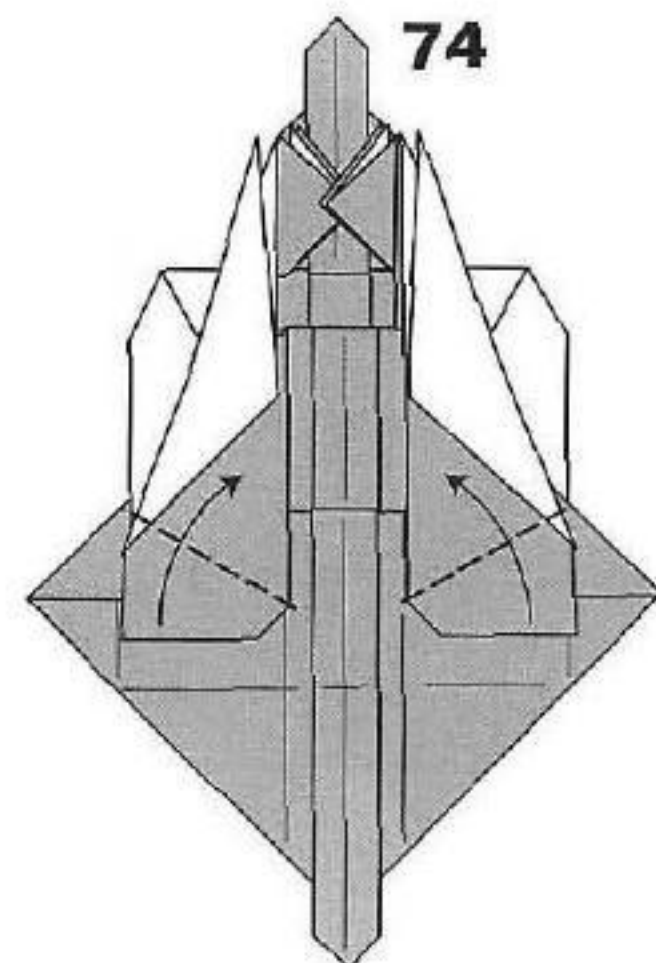




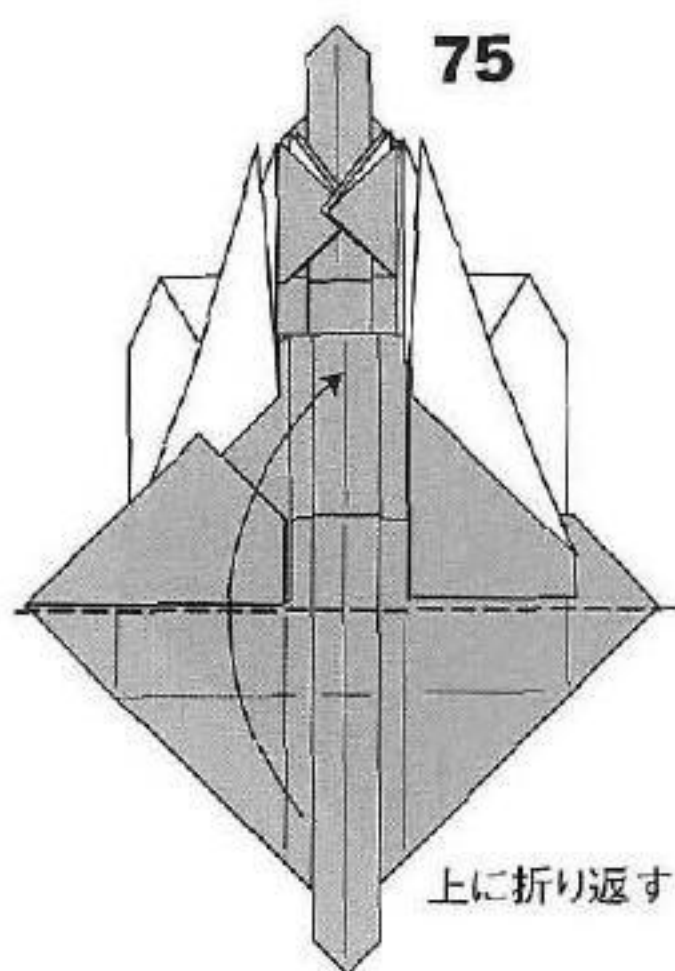
上の1枚を中わり折りして
再び71の形に戻す



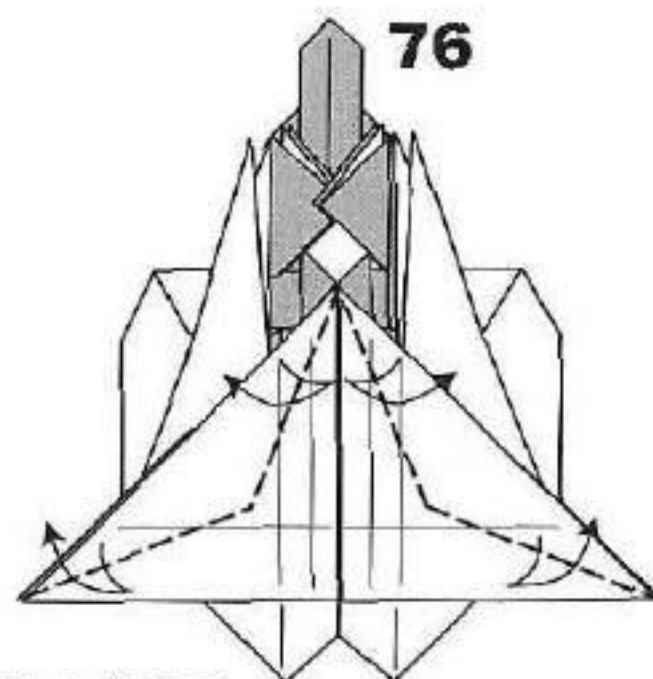
72で折った内側の位置



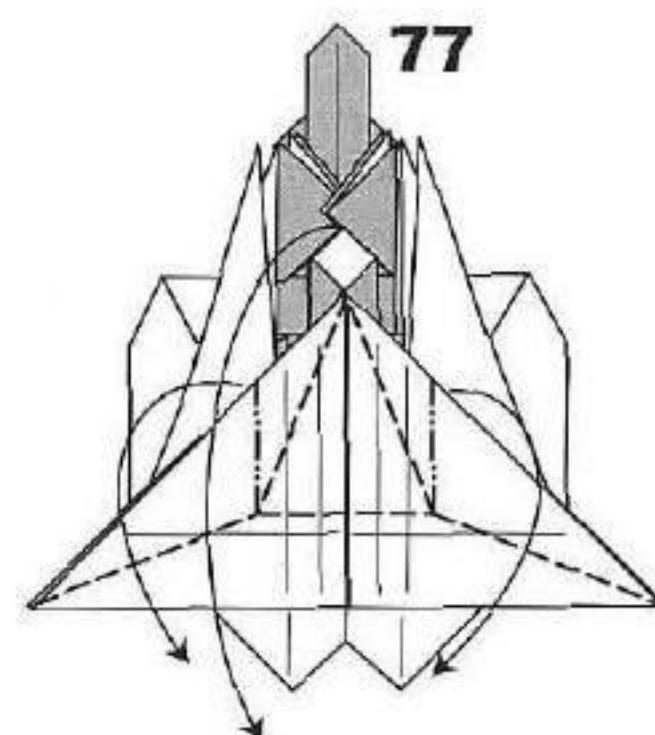
いっばいに折り返す



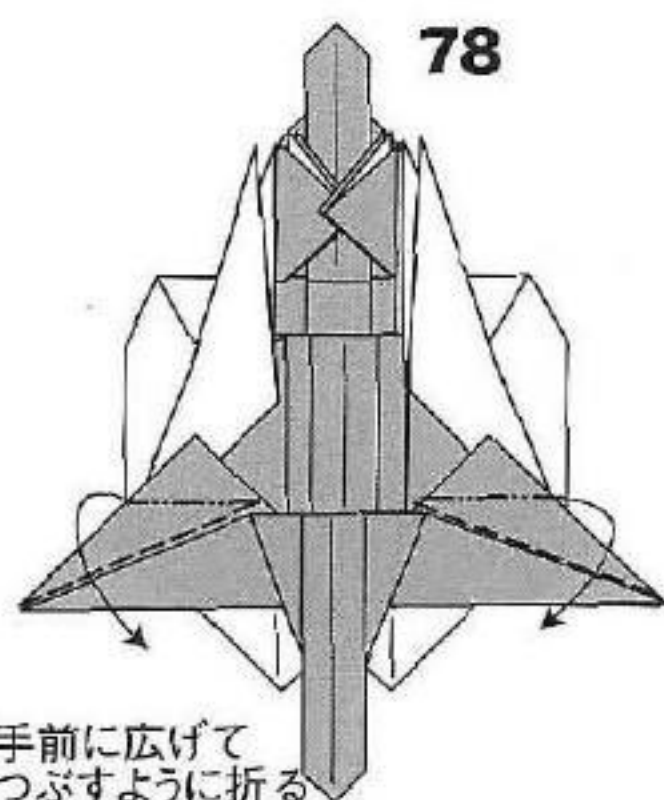
上に折り返す



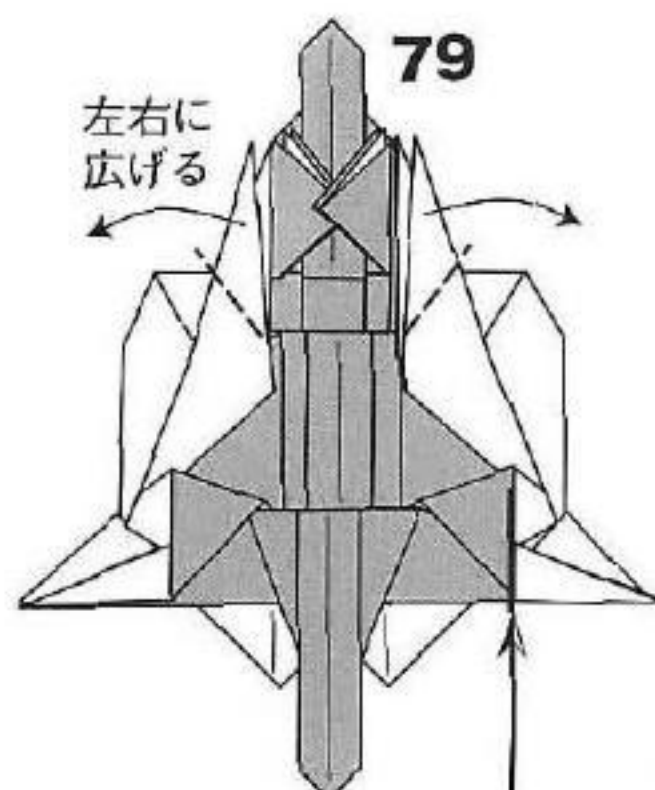
半分の角度で
折りすじをつける



76でつけた折りすじを
使って折る

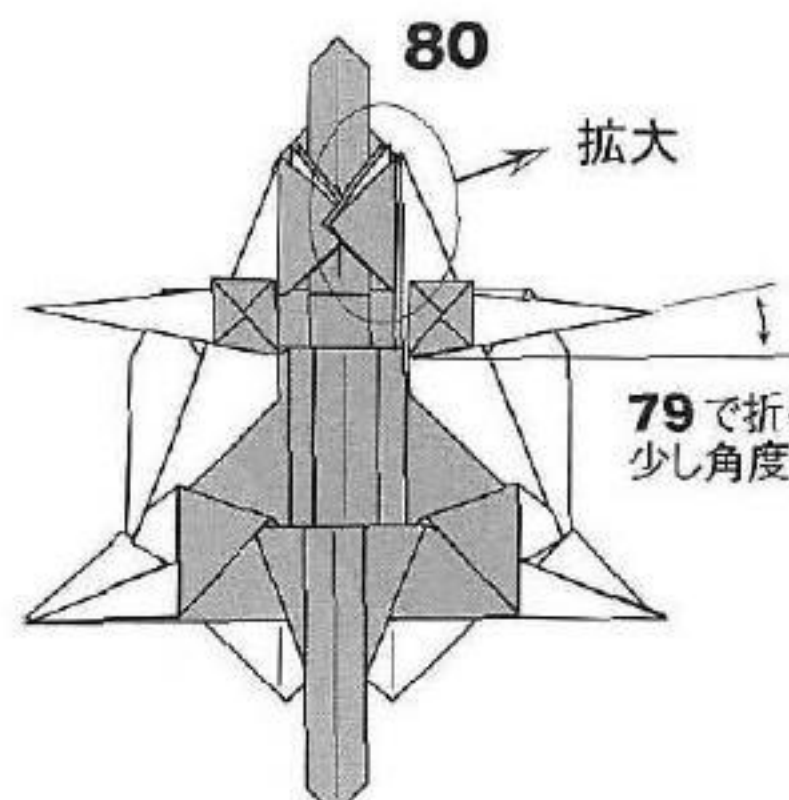


手前に広げて
つぶすように折る



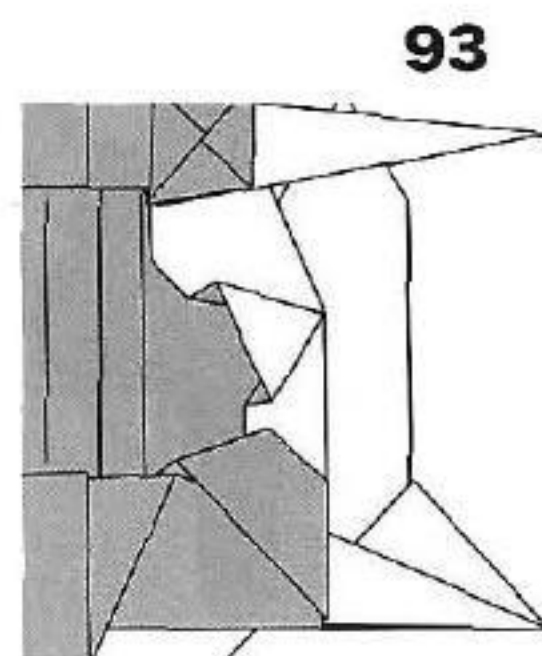
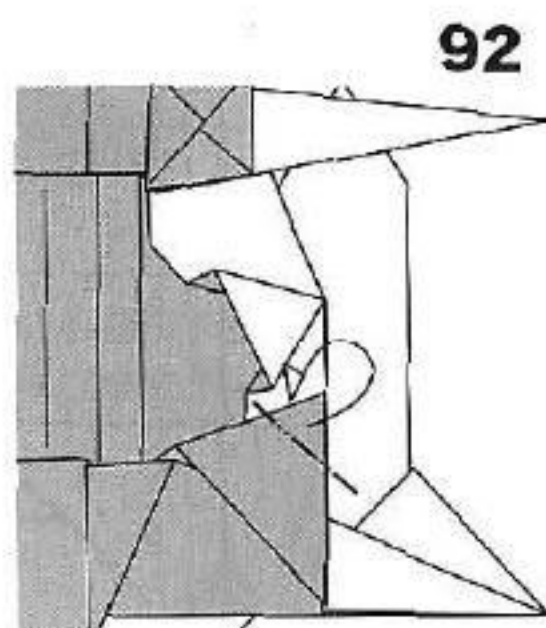
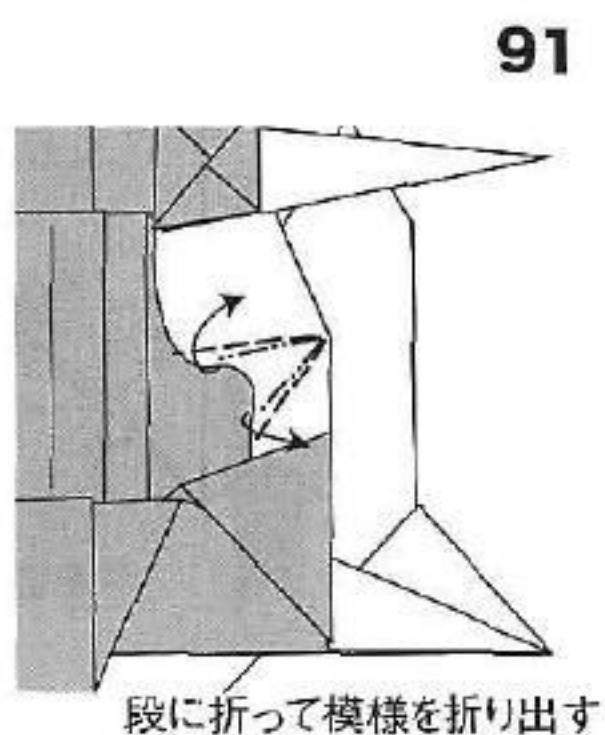
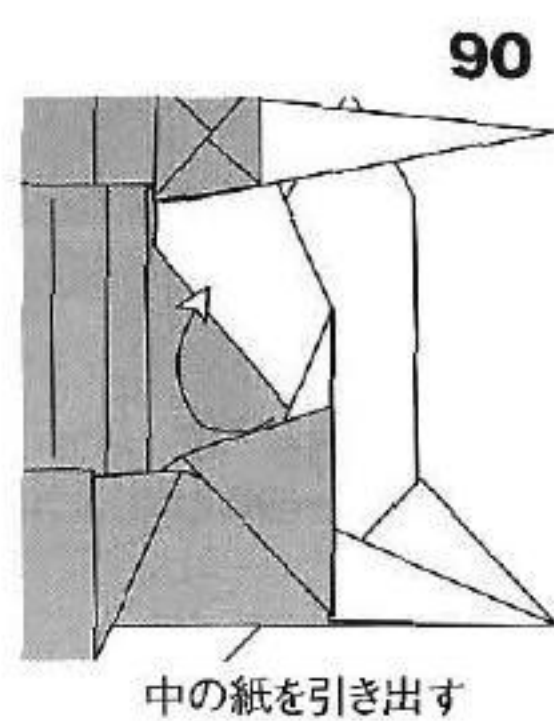
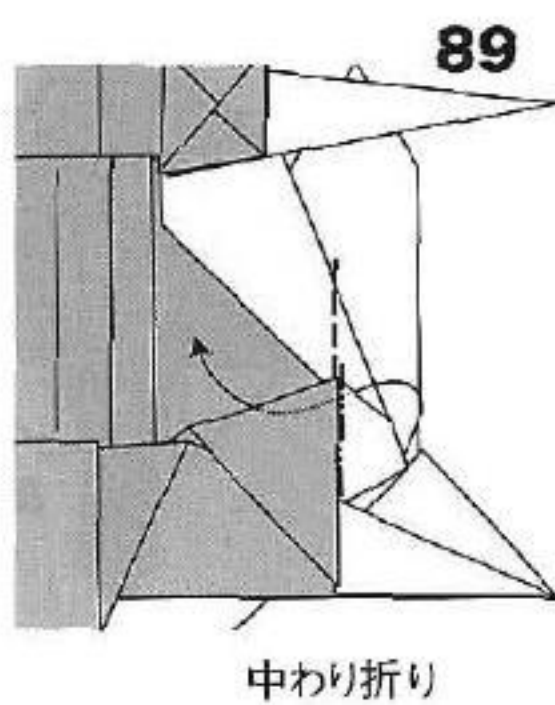
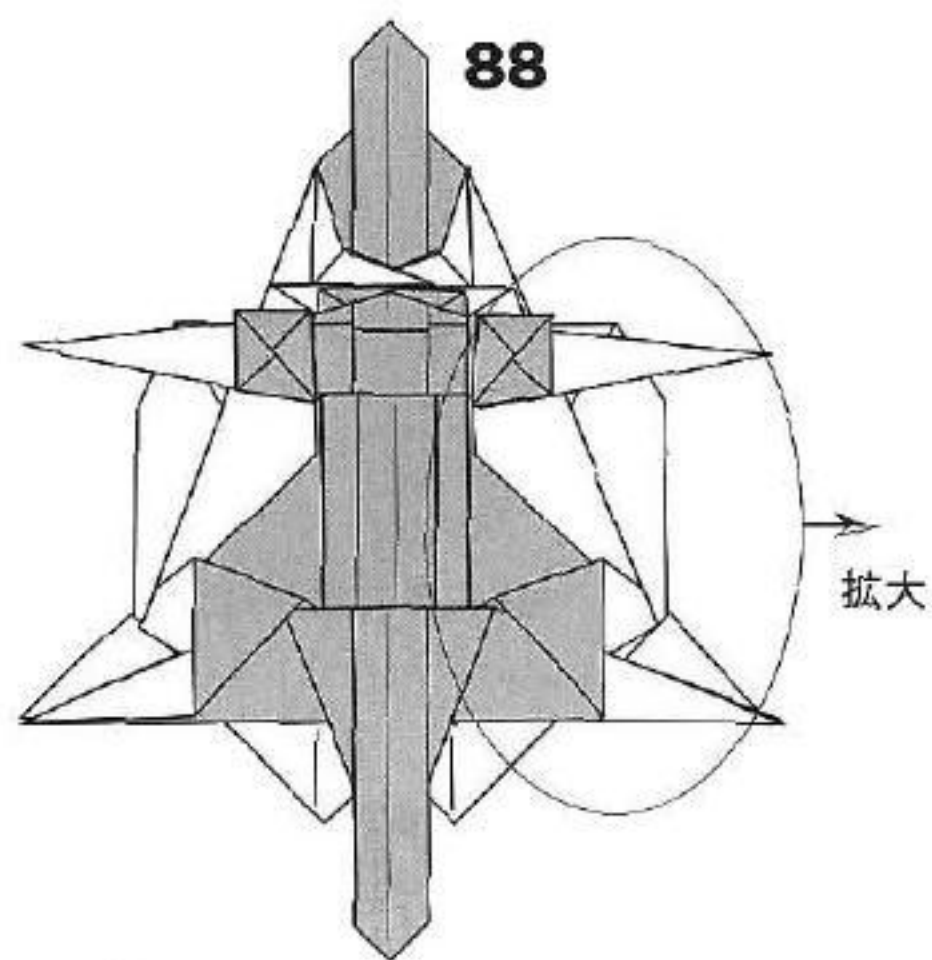
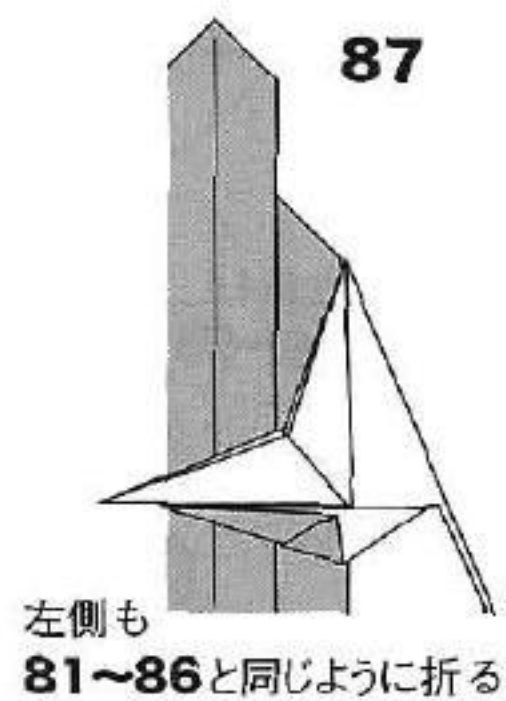
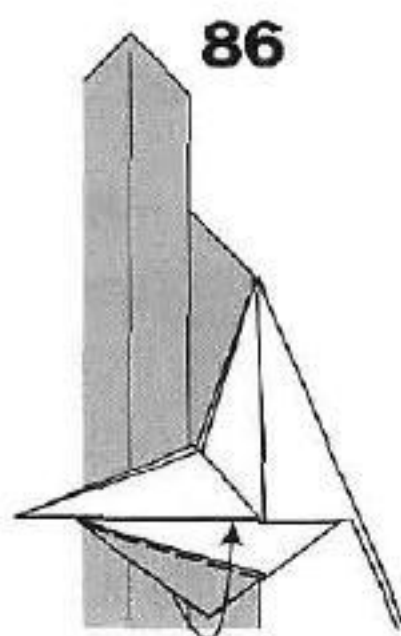
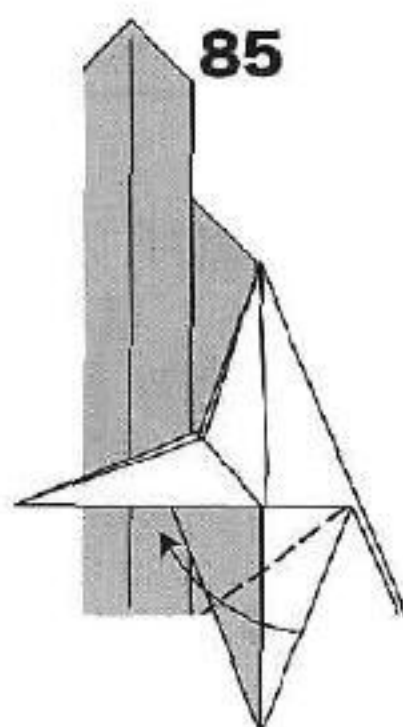
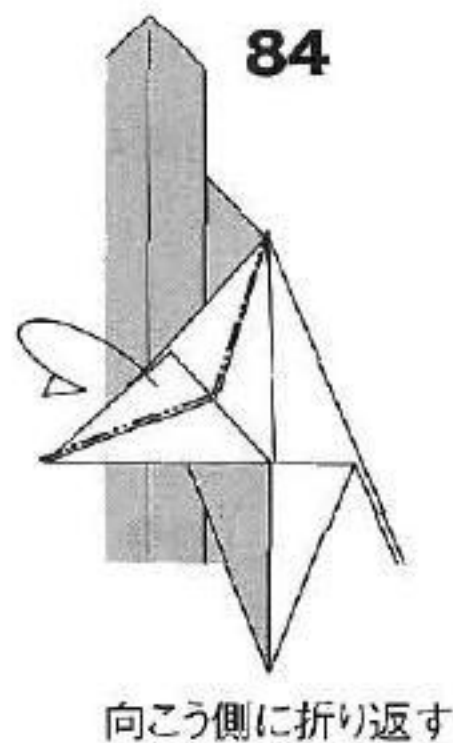
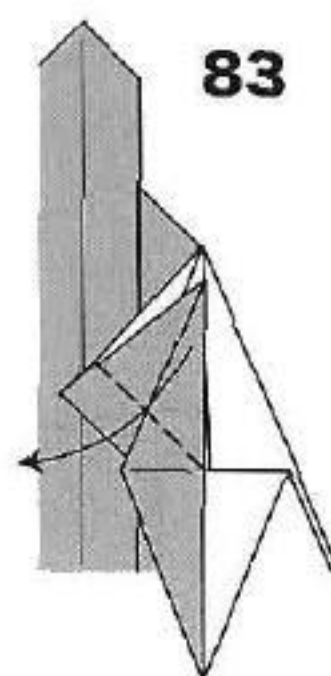
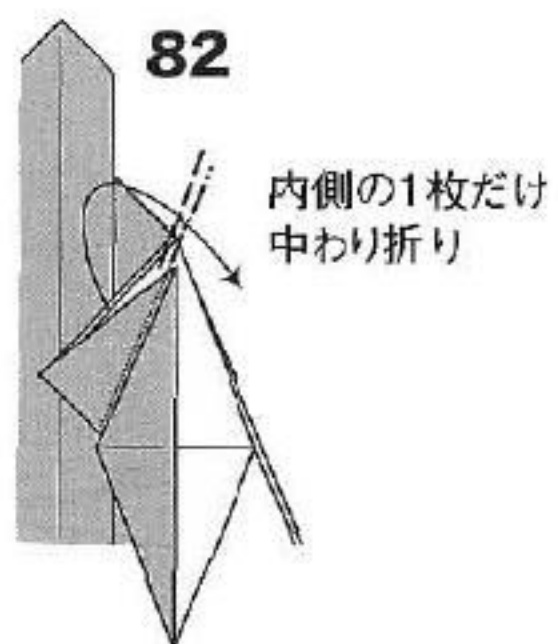
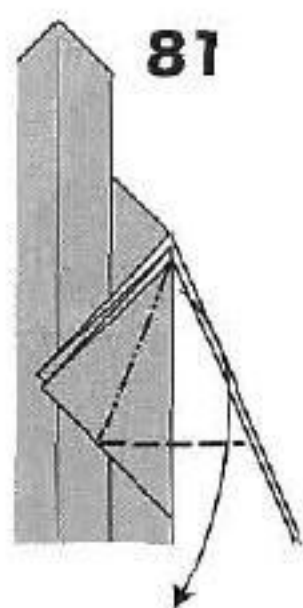
左右に
広げる

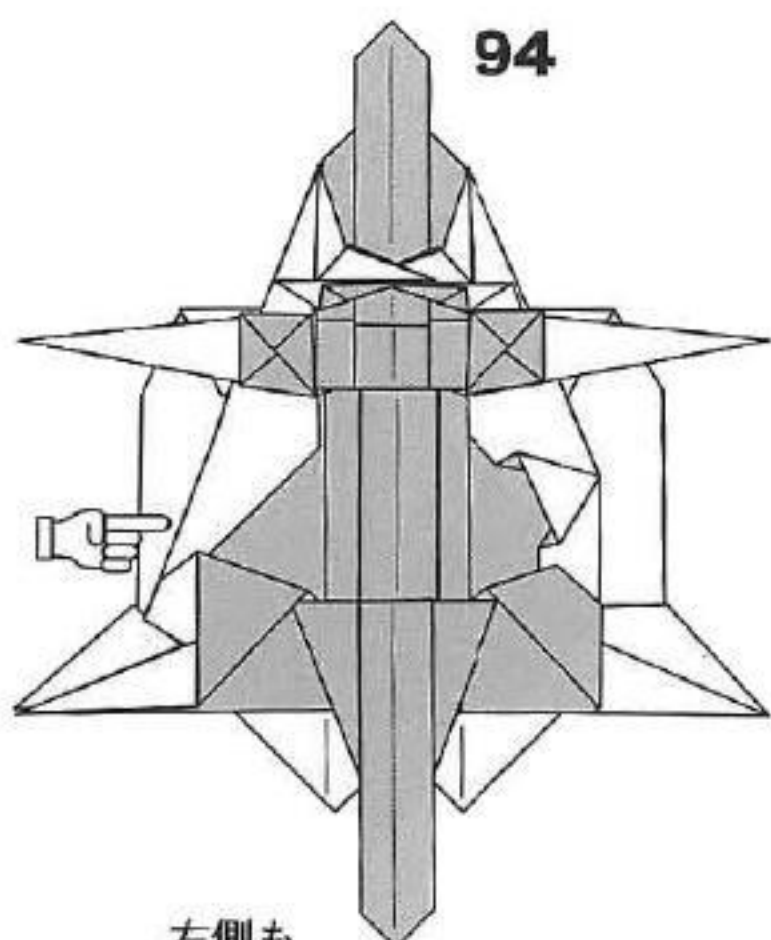
78の折りでは
この向きになるように



拡大

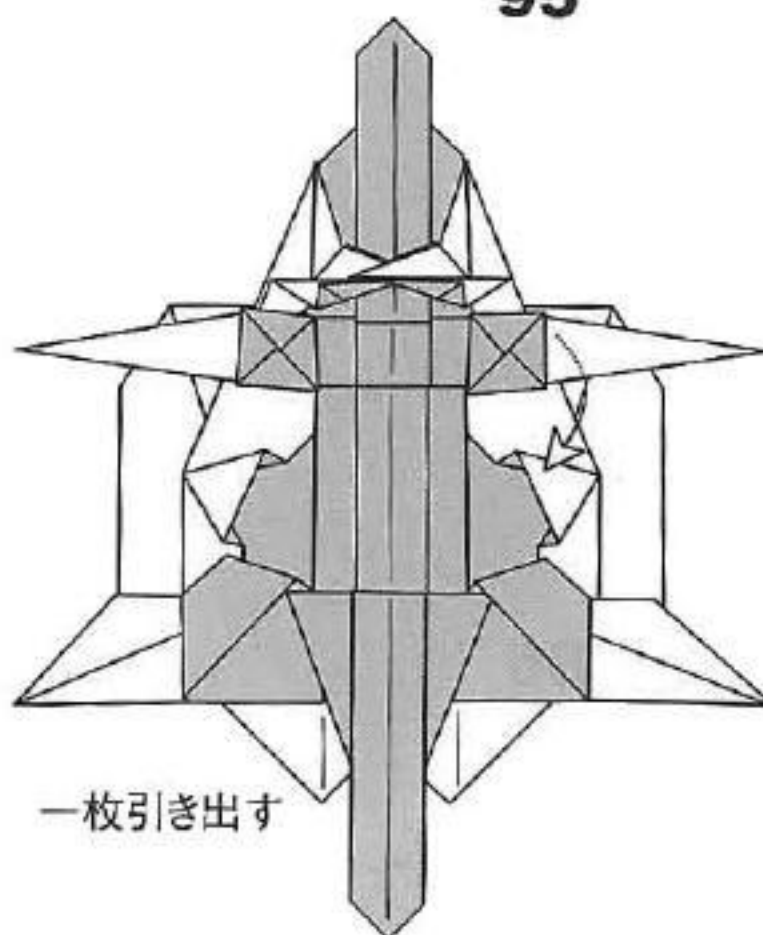
79で折る角度は
少し角度をつける





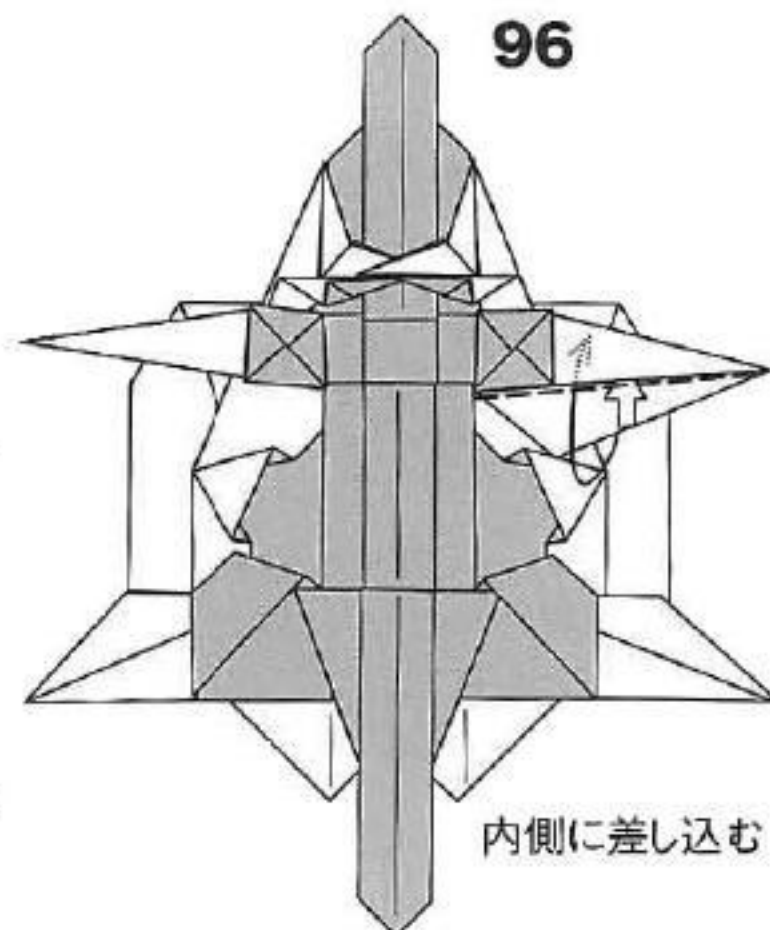
94

左側も
89~93と同じように折る



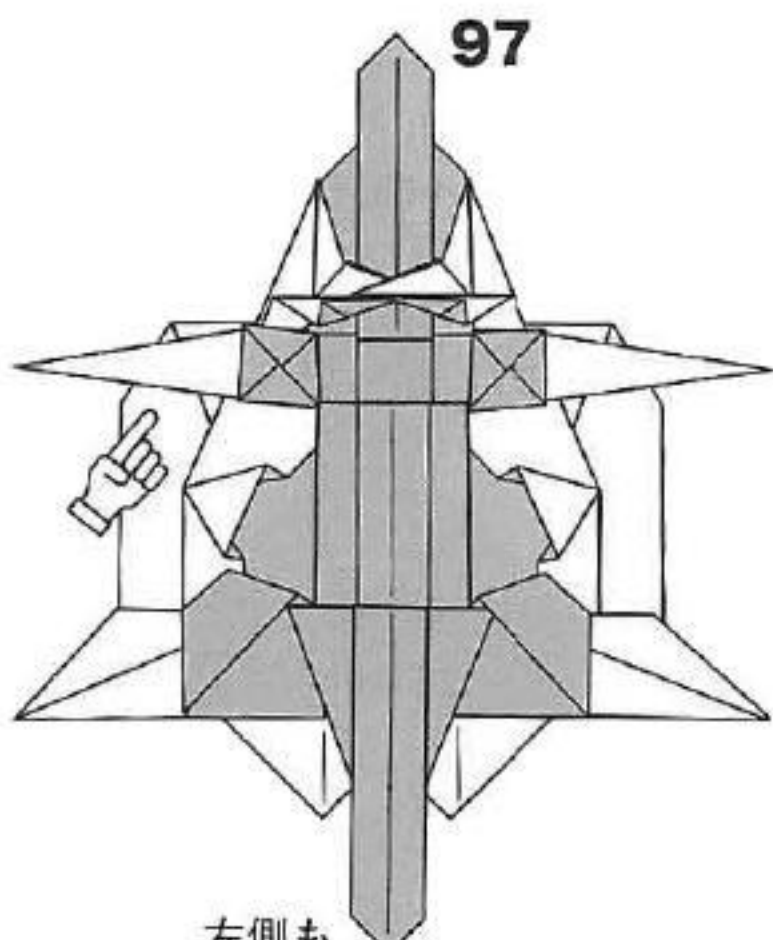
95

一枚引き出す



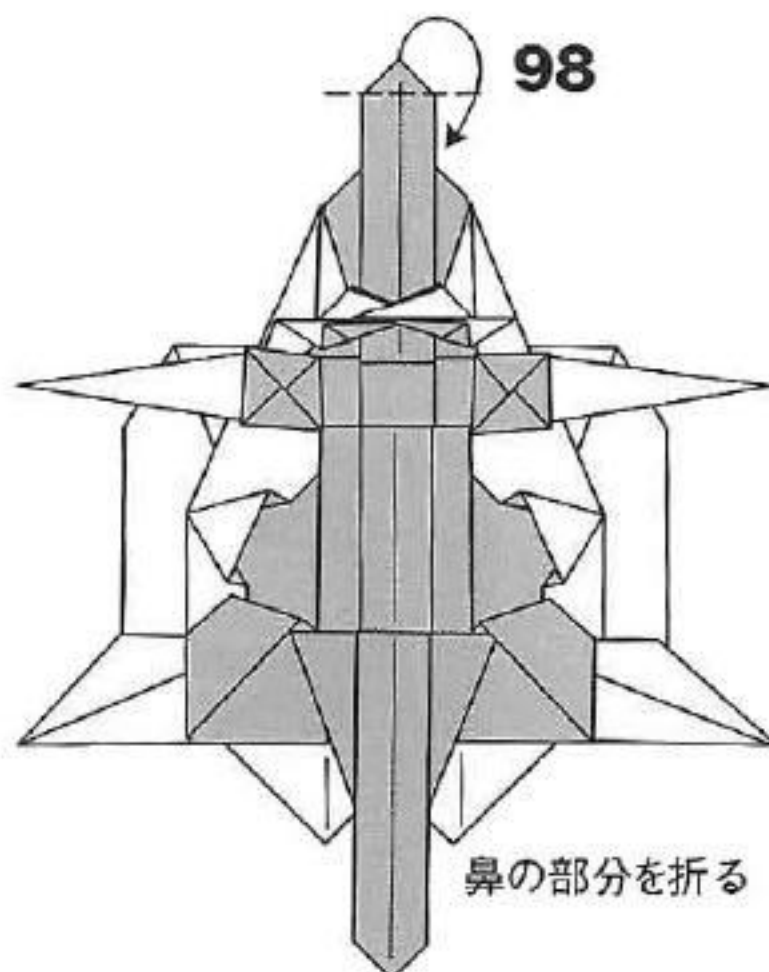
96

内側に差し込む



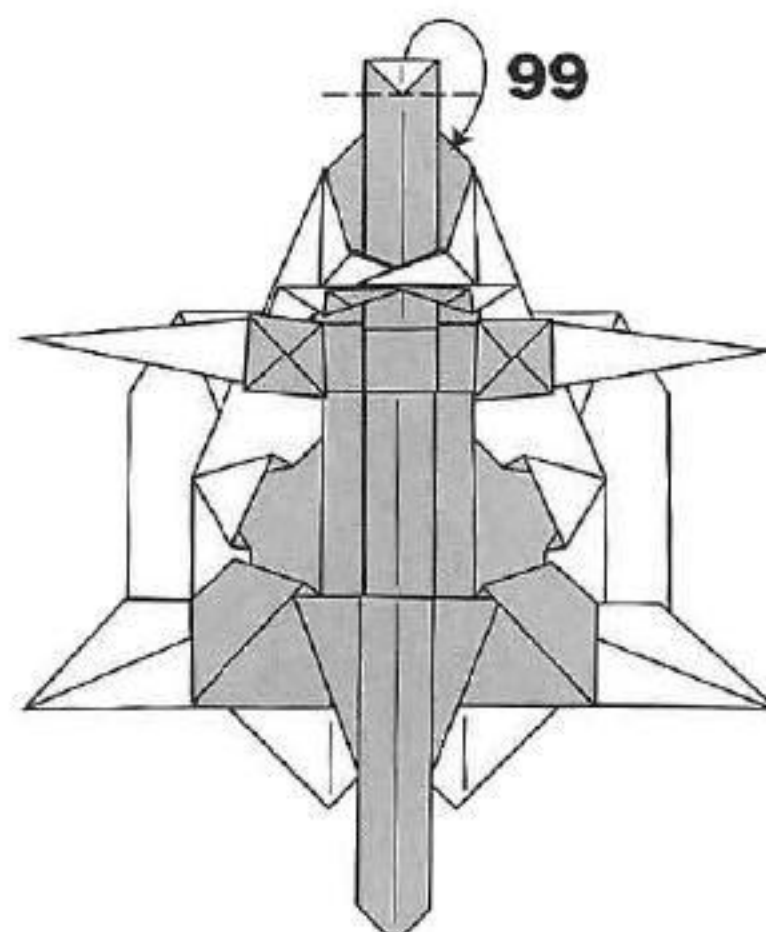
97

左側も
95~96と同じように折る



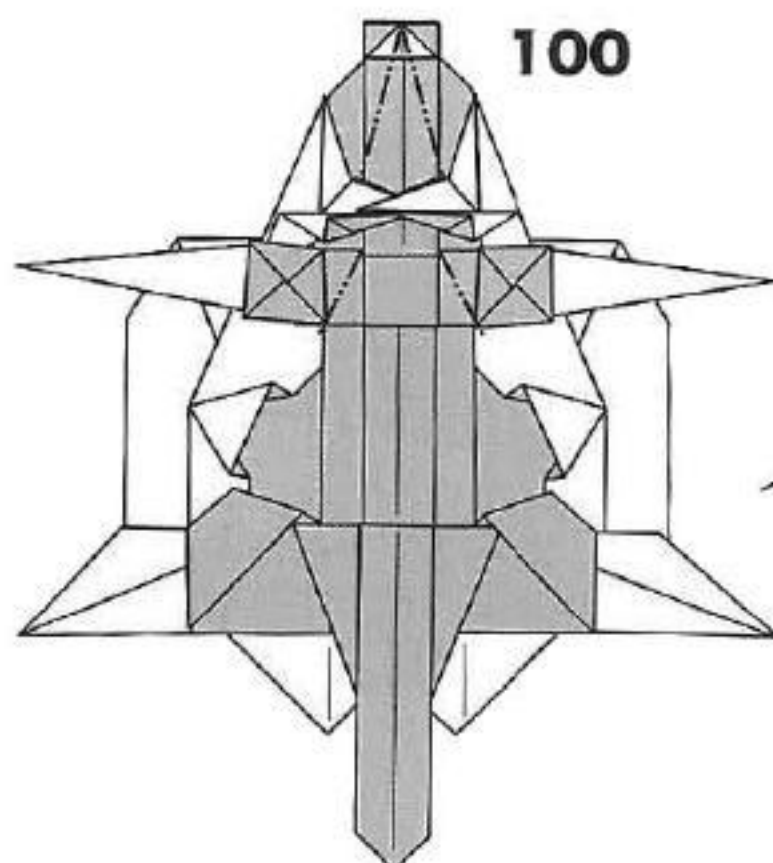
98

鼻の部分を折る



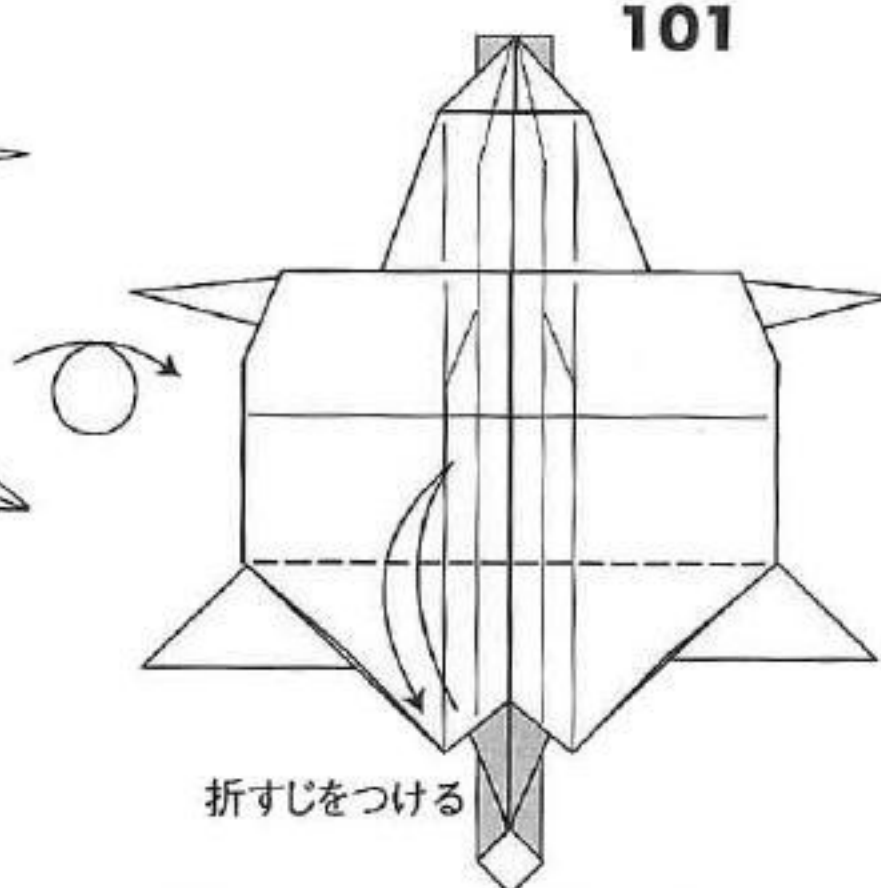
99

さらに鼻の部分を折る



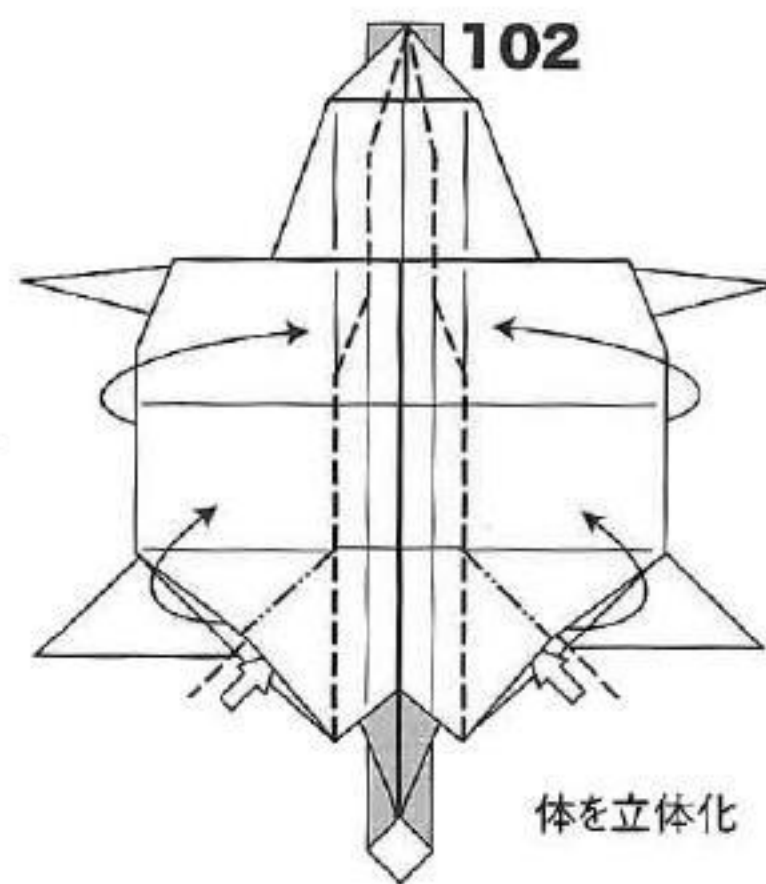
100

折りすじをつける



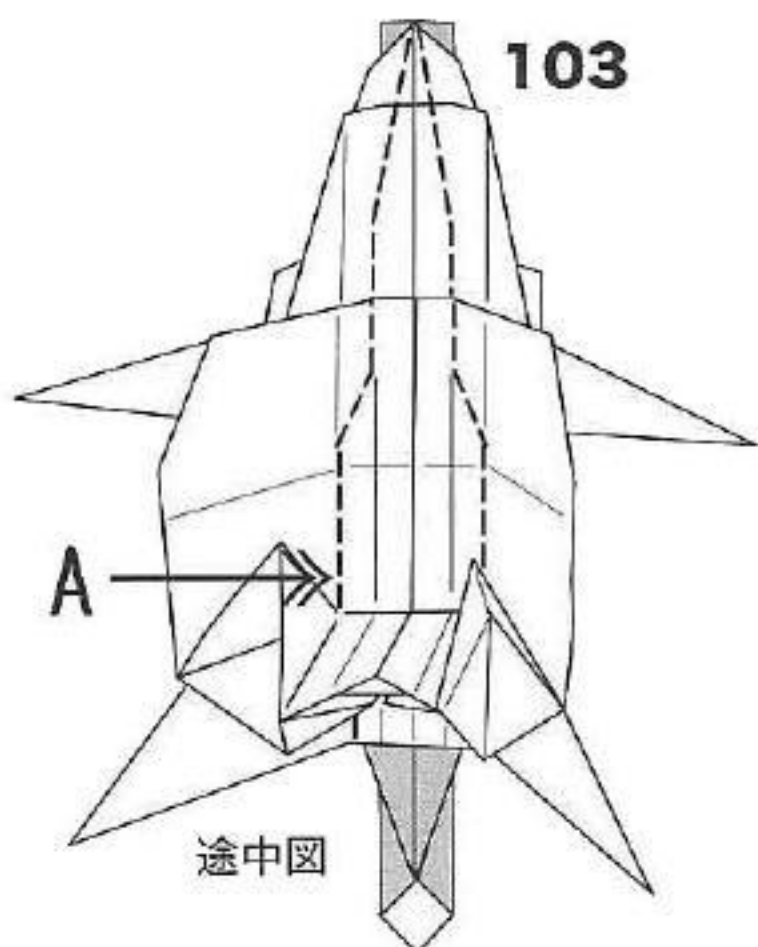
101

折りすじをつける



102

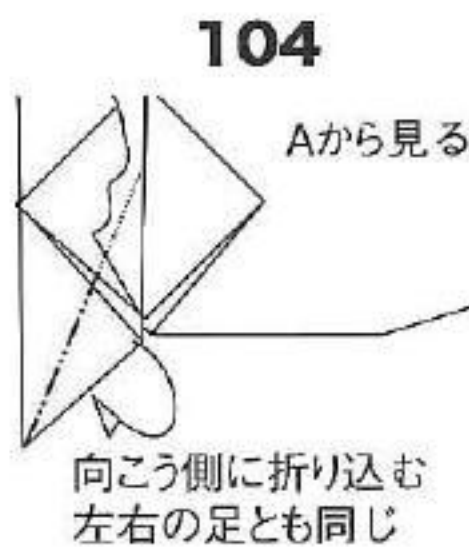
体を立体化



103

A

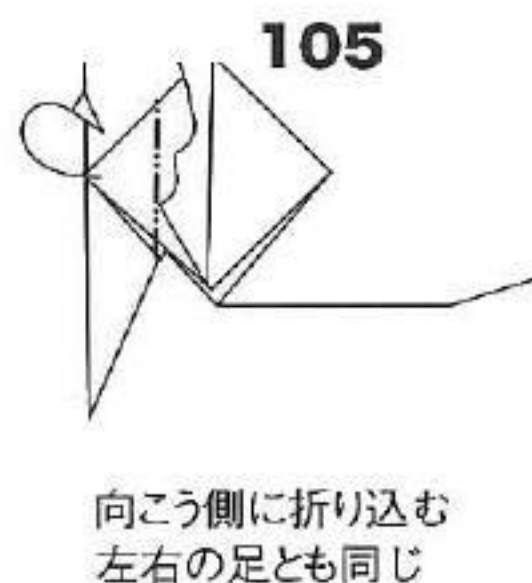
途中図



104

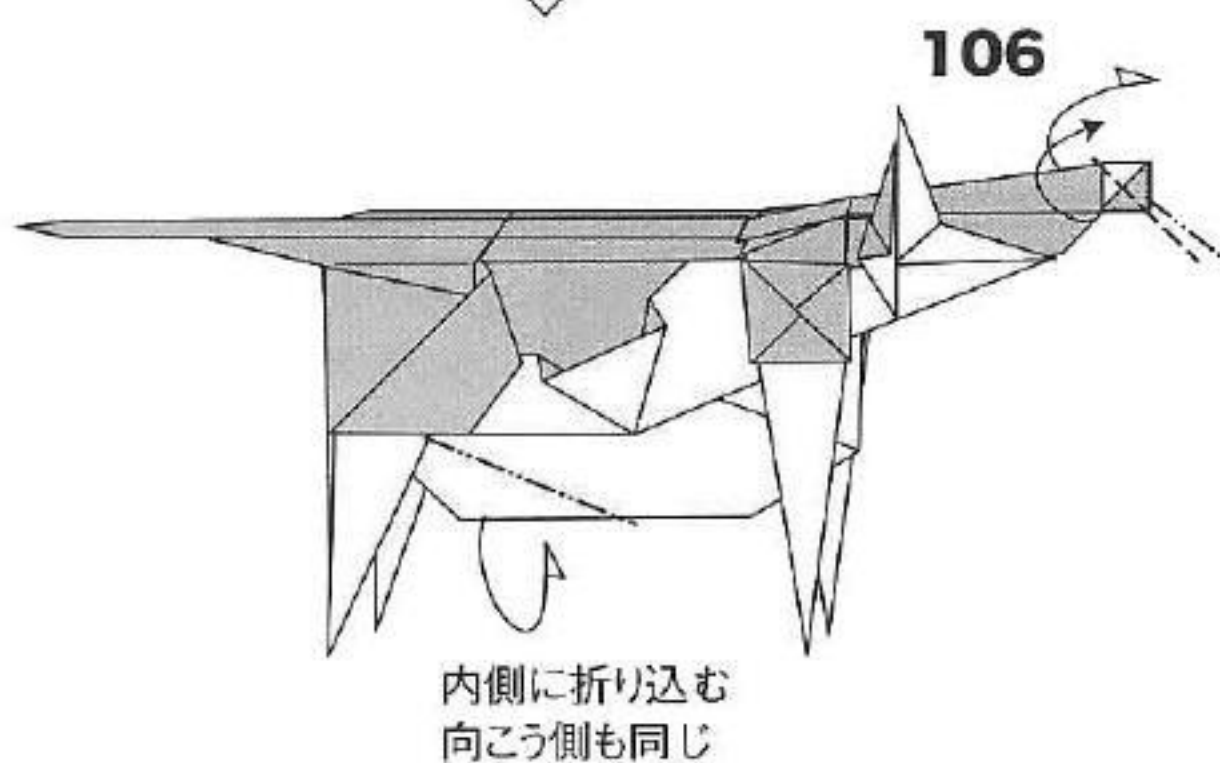
Aから見る

向こう側に折り込む
左右の足とも同じ



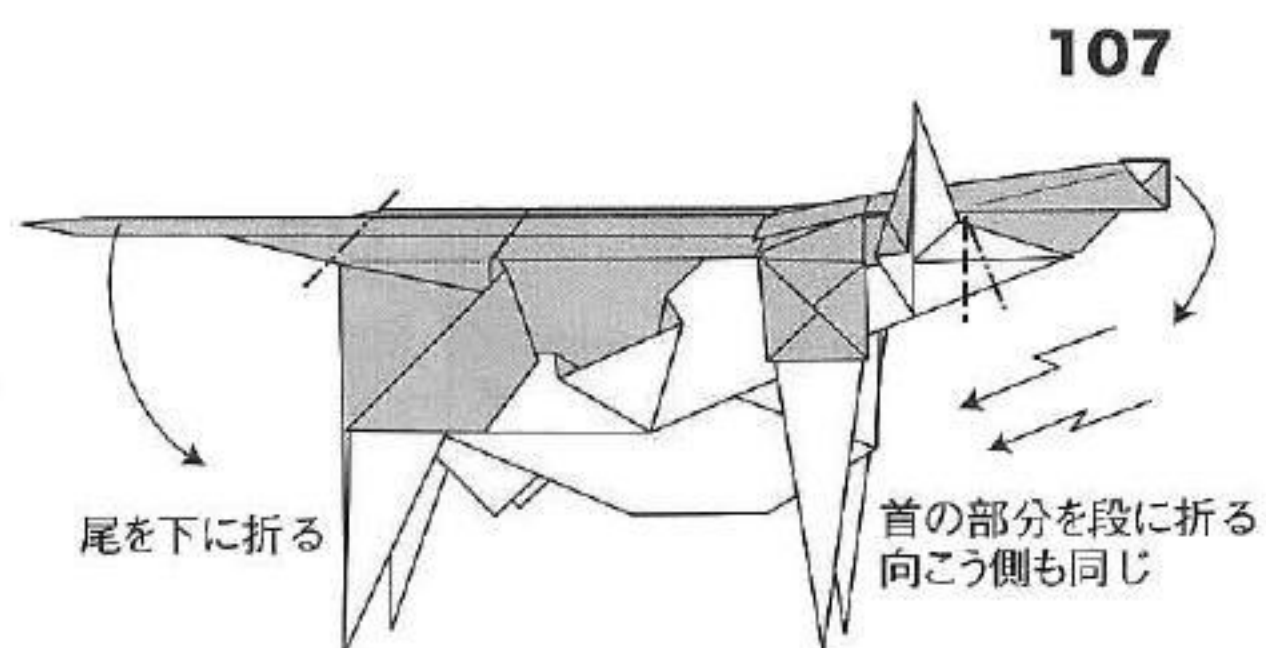
105

向こう側に折り込む
左右の足とも同じ



106

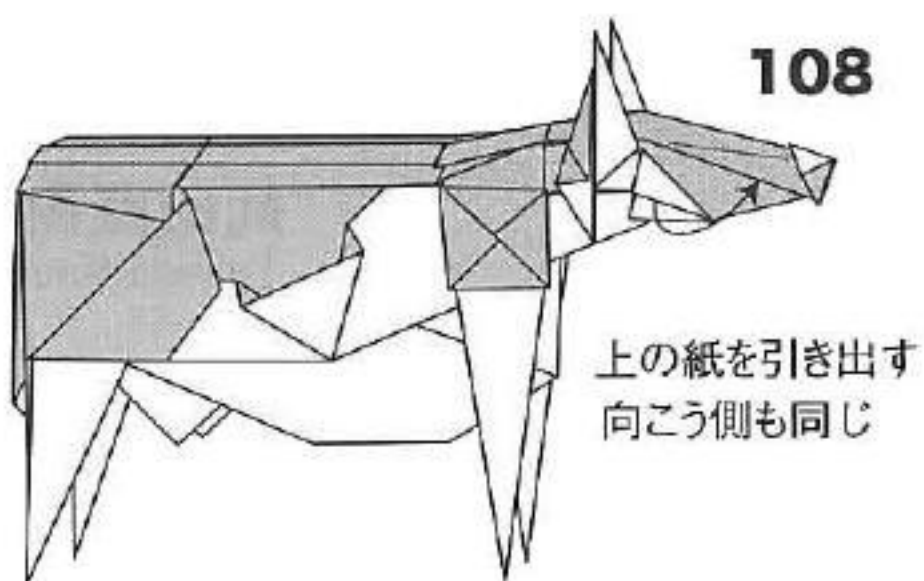
内側に折り込む
向こう側も同じ



107

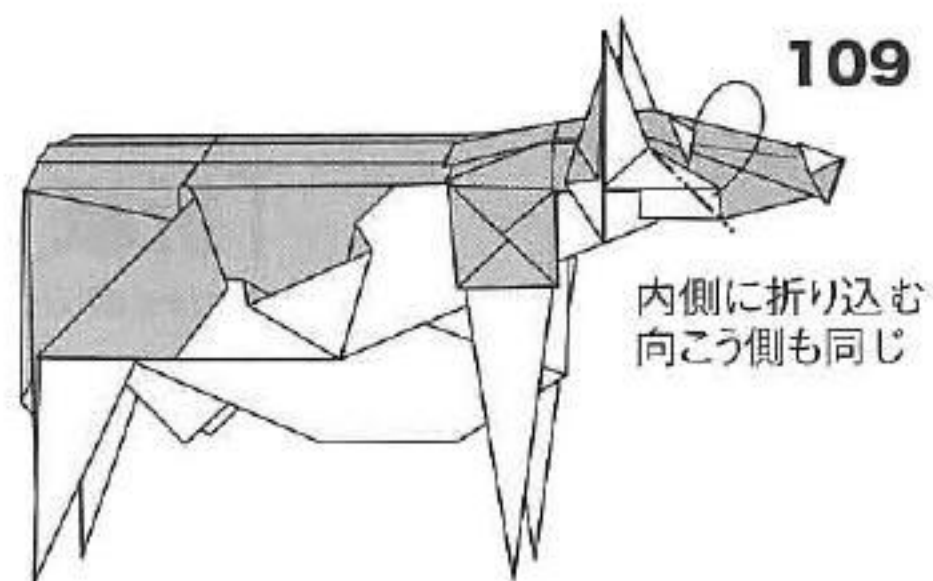
尾を下に折る

首の部分を段に折る
向こう側も同じ



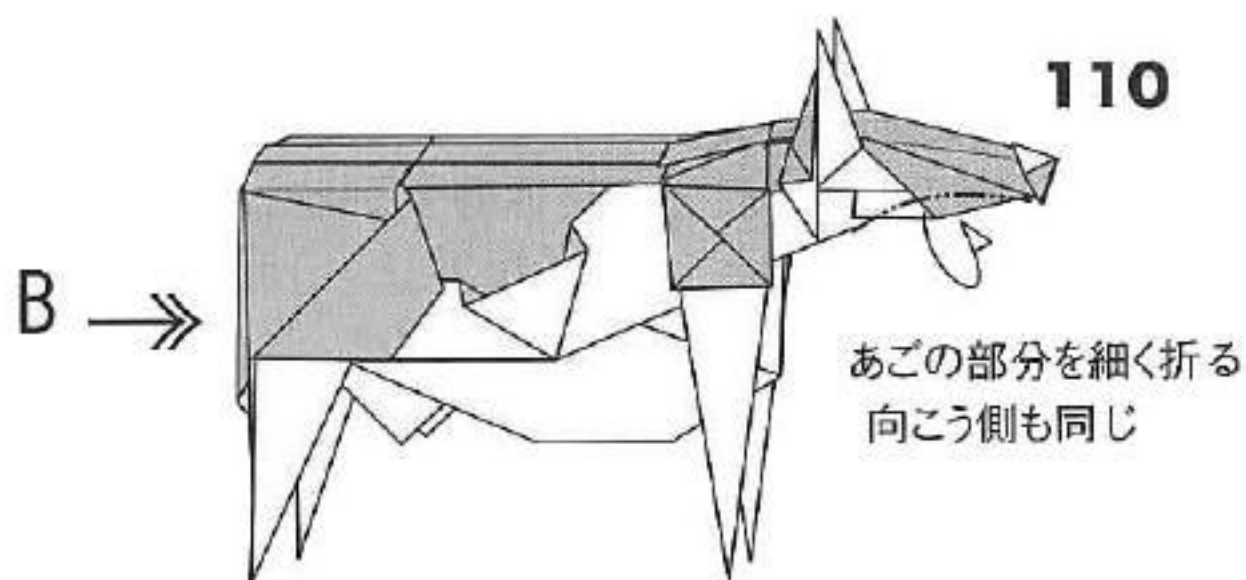
108

上の紙を引き出す
向こう側も同じ



109

内側に折り込む
向こう側も同じ



110

あごの部分を細く折る
向こう側も同じ

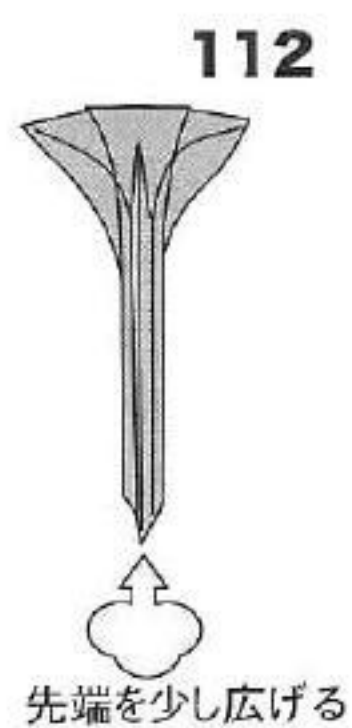
B →



111

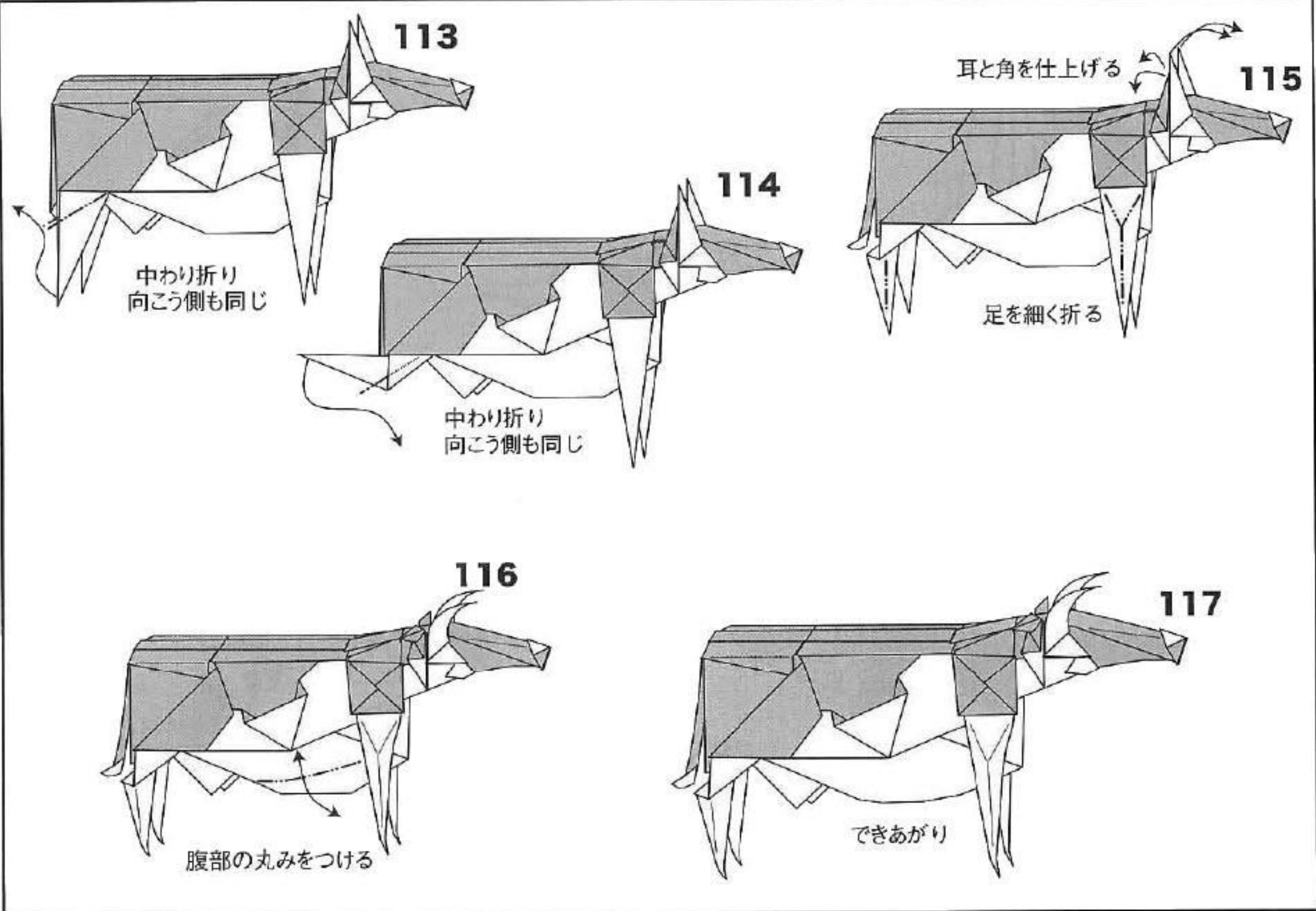
Bから見る

尾を細く折る



112

先端を少し広げる



Orisuzi ("Fold-Creases")

「折紙」の魅力

Sense of Doing Origami

武田直樹

Takeda Naoki

私が創作を始めたのは、4年前、中学3年生のころだった。ごく初期は様々な系統の作品をかじって楽しんでいて、いつしか専ら蛇腹作品を扱うようになっていた。それはその簡便性によるのかもしれないし、私の主な創作対象である虫・人物系作品の蛇腹との親和性の高さという点も大きいように思う。

そして蛇腹に慣れてゆくにつれて、蛇腹の数も次第に増え、時に「ホイル潰し」と揶揄されるような作品の創作に手をかけるようになった。私は特に折りが雑なので、完成品は(少なくとも主観的には)汚らしい印象を持つのが常であった。

そのような作品には、しばしばネガ

ティブな響きを伴う「これが折紙?」といった言葉を投げかけられた。しかし私は、好きでやっているのだから、と開き直って聞く耳を持たず、「折紙が好きなんじゃない、好きなものがこれなんだ」という幼稚な決め台詞(?)まで用意していた(結局使う機会は訪れなかった)。

しかしその後、その心境に変化が現れた。蛇腹以外、特に所謂22.5°系の創作願望が非常に強くなってきたのである。蛇腹に食傷した? 飽き性な私のことだ、それもあるかもしれない。しかし、何かもっと深い所にこの衝動の源があるように思えてならなかった。

そして今年の春、進学に伴って上京し、それまで交流がWeb上に限られていた折紙仲間たちと直接触れ合えるよ

うになって、ようやく私はその理由を悟った。私はもっと、同志たちと交わりたいのだ。一分野、それも時に風当たりの強いようなものに固執しては、どうしたって交流の幅は限られてくる。より間口の広い分野を開拓し、より多くの折人達と絡みたい。ただ独り紙と向き合うのではなく、他の愛好家達と切磋琢磨する刺激、そして暖かさを含めた「折紙」という世界に、いつしか惹かれていたのだ。

そうして現在、手探りながら22.5°系の自己流創作プロセスを確立しようと試行錯誤する今日この頃である。

折紙と出会って10数年。ようやく私は「折紙」の魅力に気づけたのかもしれない。

展開図折りに挑戦

Crease Pattern
Challenge!

第56回

シーラカンス

Coelacanth

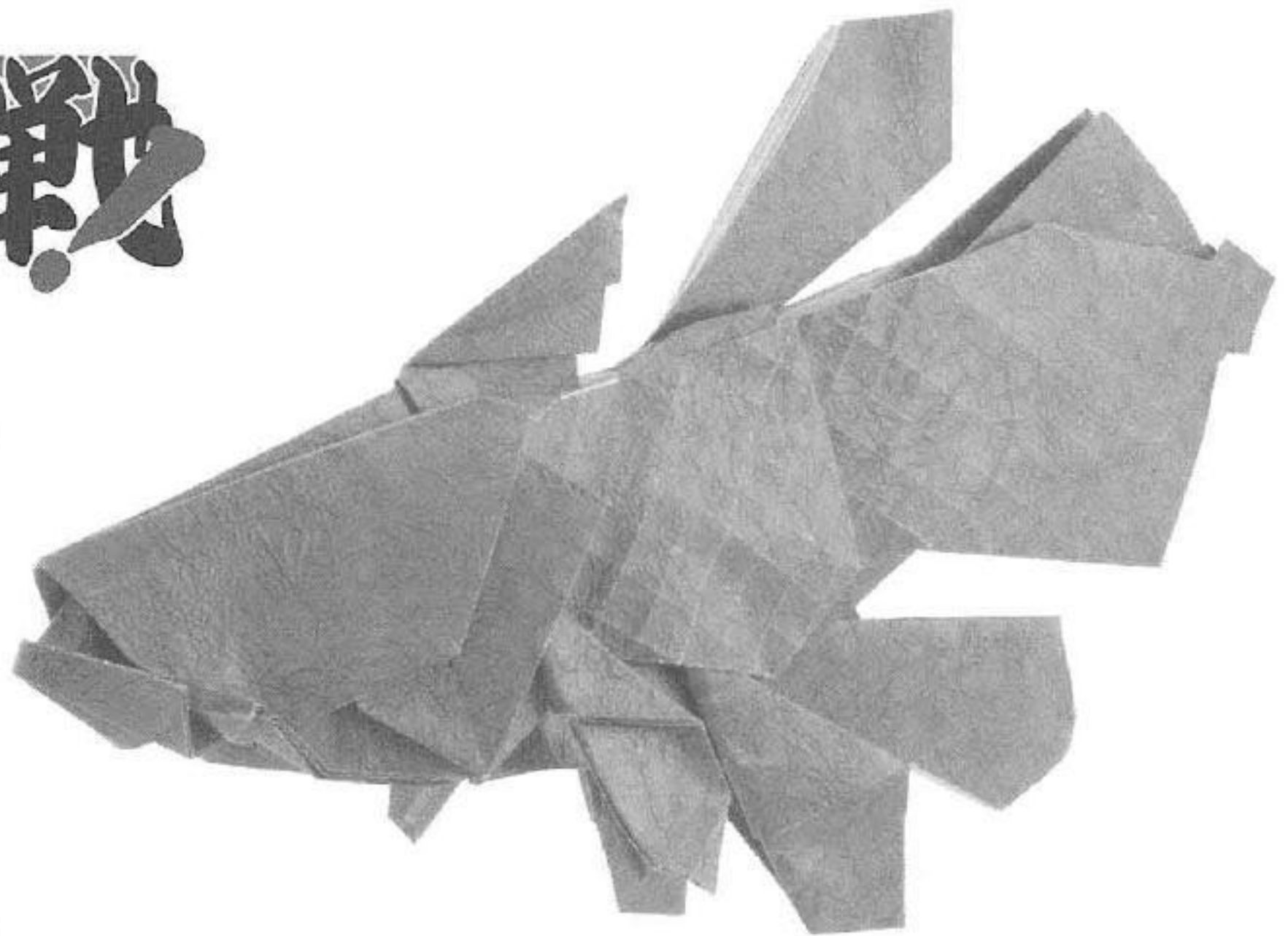
各務 均

Kakami Hitoshi

Created : 2008.1

Paper Size : 70x70cm

Length : 32cm



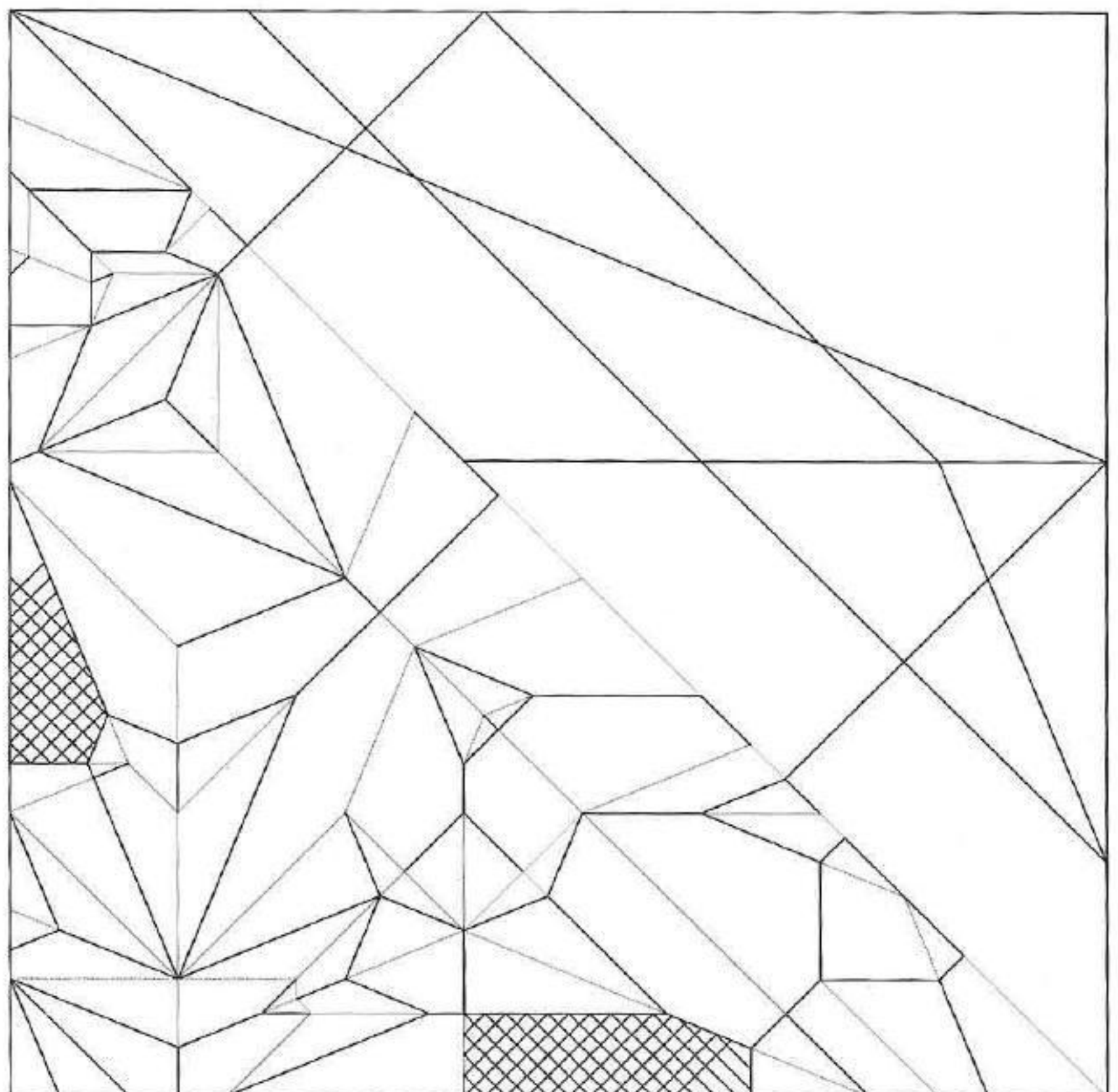
魚の中でも屈指のかっこよさを誇るその外見から、いつか折りたいと思っていたのですが、そんなときにシーラカンスの本を読んだことが実際にこれを折るきっかけになりました。ちょうど年末年始のころで、毎日シーラカンスのことばかり考えていた記憶があります。幸いにも少し魚を折ったことがあったのでその勘を頼りに適当に紙を折っていきました。

シーラカンスといえば生きた化石として有名ですが、名前だけが広まっていた肝心の魚についてはあまり知られていないように思います。この魚を折るにあたっては特徴的な要素をしっかり折ることを目標にしました。特に第三背鰭、尾鰭、第二尻鰭によってひとつの大きな尾鰭のようになっているところにこだわっています。本物に比べると第二背鰭と第一尻鰭が大きくなっていますが、折り紙的にはせっかく長い角を出せているのでこのままとしました。なんとかそれっぽくまとまりましたが、胴体の起伏や鰭の形、出し方など、まだまだ多くの課題が残っているのが現状です。

さて、作品の展開図ですが、たたむ前にうろこを表現する線をつけておきましょう。紙の中央の腹鰭となる部分からまとめていくと良いと思います。右上と左下にある角は胴体の上下に強引にもっていきます。うまく折れば下側の3つの鰭で自立しますが、頭を下にした状態であることがよくあるそうなので、逆立ちさせて飾るのがお勧めです。

実はこの作品、本来は「ゴンベッサ」と「インドネシアシーラカンス」という、2種類の作品であり、「シーラカンス」という作品が存在するわけではありません。ここでは便宜的にまとめてそう呼んでいます。「ゴンベッサ」は一般にシーラカンスといわれる *Latimeria chalumnae* のことで、生息する地域での呼び名です。初めに

折ったのがこの魚でした。また「インドネシアシーラカンス」はインドネシアの方で見つかった *Latimeria menadoensis* のことで、OrigamiUSAのコンベンションのために折ったものです。この2匹は体色が違うだけのようなので青っぽい紙でゴンベッサを、茶色っぽい紙でインドネシアシーラカンスを表現しています。



File-31

ブライアン・チャン

Brian Chan

今回紹介するブライアン・チャンさんをご存じの方も多いと思う。今年は折紙探偵団コンベンションに2回目の参加。コンテストでJOAS賞とおりがみはうす賞の2冠に輝いたことは記憶に新しい。そんな彼にいろいろと尋ねてみた。

■誰でも聞くようなことだが折紙紙を始めたきっかけは？

折紙紙を始めたのは7歳のとき、ジョン・モントロールさんやロバート・ハービンさんの本に出会ったのがきっかけです。載っていた作品を何度も折りました。高校生の頃、ガールフレンドに川崎ローズを折ってプレゼントした事もあります。

■のめり込むようになったのはいつ頃から？

MIT(マサチューセッツ工科大学)に入った頃に折紙紙を再発見し、目黒俊幸さんや田中将司さんのデザインが気になりだし、創作に興味を持ちました。目黒さんのウェブページで、田中さん、目黒さんらの展開図などを見て勉強し、複雑な昆虫など(特にロバート・ラングさんや目黒さんの作品)に挑戦しました。

24歳の時(4年前)、大学でラングさんの『Origami Design Secrets』の講演を聞いて、本格的に創作を始めました。特にサークルパッキング理論はとても参考になり、創作のきっかけになりました。

■大学を休学すると聞きましたが本当？

これまでの4年間で創作した作品の折り図を描くことに集中するためです。また、学校に疲れてきたので(笑)休憩の意味もあります。日本の作家などの優秀な人は時間がかからないのかもしれませんが、私が良い作品を創ったり折り図を描いたりする

には時間が必要なのです。

■日本人ではそんなことをする人は誰もいないと思うのですが……

折り図に1年間を集中したいので、休学は必須だと思っています。

■折り図はおりがみはうすの本用？

可能ならば、ぜひ本をはうすから出してほしいですね。

■若い人(作家)の本を出すのは私も嬉しい。しかし、市場規模が限られているので売れにくいと思う。ニーズに応えるような作品選びが必要だと思うが、今考えている作品の候補は？

カラス、トカゲ、WALL-E、ネコバスなどの折り図を描きたいと考えています。カゲロウなどの昆虫も折り図化を進めたいですね。他にもポピュラーカルチャーや昆虫、植物など、なるべく幅広い題材を含めたいと考えています。

■おりがみはうすでは個人名の作品集を出しているの、『ブライアン・チャン作品集』がいいね。ただ、著作権物は掲載が難しいかもしれないね。

著作権物は少し後回しにしましょうか。もしかしたら、折った物を版元にプレゼントしたら許可が出るかもしれないので、そういう手段も考えてみます。

■折紙紙をやっている良いところ・悪いところは？

折紙紙には工学技術(理論的なアプローチ)と芸術性が必要で、この二つが切り離せないというところにおもしろさを感じています。あまり費用がかからないのも良いところですね。例えば写真では高級なカメラやレンズが、絵を描くにはキャンバスや絵の具が必要になります。それに比べると折紙紙は、紙さえあれば始めることができます。それから、コンベンションの雰囲気がとても好きですね。現状ではまだ、折紙紙は金銭を稼ぐ面については未発達ですが、逆にそのおかげで創作を競い合っているときも友人でいられるわけです。

■JOASも互いに刺激を与え合うことでみんなが成長してきた。でも、金銭的に結びつきにくいことは、同時に良くないところで

ブライアン・チャン(Brian Chan)=1980年生まれの中国系アメリカ人。ボストンのMITに在学中。専門は機械工学。第12回折紙探偵団コンベンションの吉野一生基金招待者。



もあると思うね。

やはり、それが折紙紙で一番残念なところ。世間の人々は折紙紙の事をほとんど知らず、画家や音楽家に比べると、なかなか価値を認められません。芸術というより、クラフトの範疇に見られてしまいます。

我々の世代がすべきことは、折紙紙の価値をより高めて、それを広げていく事ではないかと思うのです。

■JOAS創作折紙紙コンテストについて、感想は？

受賞は予想外だったのでとても嬉しいです。日本の優れた作家が多数応募しているので、どれかのテーマで2位くらいになればいいと思っていたところでした。

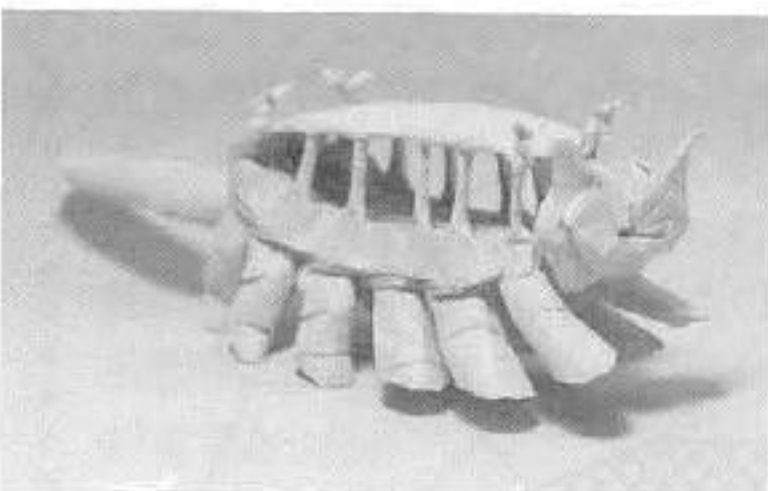
■将来エンジニアとして、折紙紙に関連したアイデアはありますか？

折紙紙とエンジニアリングには似た部分、同じ部分もたくさんあります。たとえば物を3次元で考える事などでしょうか。私はトランスフォーマーが好きなので、夢の一つは実際にトランスフォーマーを作ること。折り畳み自転車や、変形する乗り物などがありますが、そういった物に携わることができれば嬉しいですね。

■そういえばご両親が中国へ行くと聞きました。ということは、一緒に中国に移る？

私は、今住んでいるボストンにいます。残念ながら私は漢字があまり得意ではないので、中国語はちょっとつらいですね。両親も完全に引っ越してしまうわけではなく、カリフォルニアの家も残しておきます。

■これからの活躍が注目される若手作家の一人。おりがみはうすから出版予定の作品集が非常に楽しみです。



▲ネコバス



▲カゲロウ

Rabbit Ear つまみおり information



▲満員のJOASホールで、熱い意見交換が繰り広げられた

第1回 国際折紙著作権会議レポート 山口 真

おりがみはうす20周年記念事業だと言って、勢いで呼びかけてみたものの、言い出した当の本人が、何から話し合っただいものか、全部で何人集まるのか、実は一番見当がついておらず当日までドキドキしていたと、今だからこそ言える。海外の招待者のみならず、国内の著名な識者が、私のつたない呼びかけに応じて集まってくださったことを、心から感謝したい。今回の成果は、こうやって集まっていた皆さんによるものであり、大きな関心を持って意見交換に取り組み、会を盛り上げてもらえたことを何よりも幸せに感じている。会議の具体的な内容は、西川氏の報告(本誌P11~13)を読んでいただくとして、ここでは、会議の主催者として、私の主観を交えた全体の様子を報告しようと思う。

10月12日(1日目)

前日(11日)のうちに、海外招待者と日本折紙学会評議員の有志で、本番2日間のスケジュールを組み立てておいたこともあり、流れは比較的スムーズだった。この初日で一番感慨深かったのは、吉澤章夫人によって過去の事例の発表をしていただき、また今回の我々の試みに対する期待と評価を頂けたことだった。このことは私たち日本人参加者よりも、海外参加者に大きな驚きと感動を与えていたようだ。改めて吉澤氏の存在の大きさを実感



▲吉澤夫人による発表。「(吉澤章氏を)苦しめてきた(著作権)問題は、今に至るまで何も進歩していません」重い言葉だった。

した。過去からの著作権問題検討の流れを引き継いで、そして発展させてゆくことを故・吉澤章氏に約束したい。

懇親会

乾杯の音頭は三浦公亮氏にお願いした。三浦氏からも、今回の会議の実現をとっても評価している旨のコメントを頂いた。食事をとりながら、今日のディスカッションで話し足りなかったことや、最近の著作権事情などについての会話が弾んでいたようだ。

13日(2日目)

この日は海外招待者の発表が中心で、被害事例の羅列ではなく、発展的事例(アイデア)の提案がメインとなった。それぞれの得意分野を生かした、魅力的でかつ夢のような、それでいて実現できそうな、「著



▲懇親会にて。三浦氏の音頭による乾杯



▲京都から駆けつけてくださった桃谷好英氏



▲日本折紙協会理事長の大橋皓也氏(右)と、通訳として多大な尽力を注いでいただいた立石浩一氏



▲韓国伝統紙工芸協会のオウ・ギョソク氏は、自費での参加

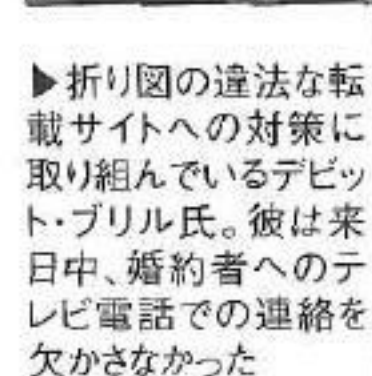


▲マルシオ・ノグチ氏も、頼れる通訳として活躍してくれた

作権を守りながらの折り紙の普及構想」が繰り広げられた。これらは本当に、各個人が考えているだけではアイデアで終わることばかりで、こうして一同に集まることで意見が寄せ合っただけこそ意義を発揮するものだろう。折り紙界はもっともっと発展する。そう確信することができた。



◀OUSAの事務局長的存在であるジャン・ポーリッシュ氏の発表や発言は、とても堂に入っており、頼もしい存在だった



▶折り図の違法な転載サイトへの対策に取り組んでいるデビット・ブリル氏。彼は来日中、婚約者へのテレビ電話での連絡を欠かさなかった

親睦が深まった「お疲れ様旅行」

■日本折紙博物館と宇奈月温泉

会議終了の翌日、海外の招待者と、2泊3日の「お疲れ様旅行」に出発した。

近年は毎年のように、機会があれば石川県の日本折紙博物館へ海外客を連れていく。今回は、ここの展示作品の作者本人が数多くいたので、キャプションの間違いを館の人に指摘したり、25年前の作品を修繕したりと、ちょっと変わった見学となった。

私の企画する旅行は、「3日間でも4日分の密度」というのが海外の友人達の間での定説らしい。しかし今回は「お疲れ様会」なので寄り道をぐっと我慢し、夕暮れ前に旅館へ着い



▲10代の頃の作品を修繕するマーク・カーシェンバウム氏。彼も昔は天才折り紙少年だったのだ!



▲日本折紙博物館にて来場記念撮影

た。日本式の部屋、日本式の食事、そして露天風呂。会議の疲れを癒してもらった。

■黒部峡谷鉄道と長野のおりがみはうす

翌日は、ここ何号かの編集後記で紹介してきた長野の借家に向かうことになっていたが、その前に、宇奈月駅を起点とする黒部峡谷鉄道を見に行ったら、トロッコに乗って一番上まで行くと紅葉を見られたらしいが、「お疲れさま会」なので無理はしないことにした。

長野の家は春から少しずつ修繕したり生活道具を持ち込んだりしているため、かなり居心地は良くなっている。ここにテーブルとイスを並べ、途中のスーパーで買い込んだ食材を使って、私の即席居酒屋料理のフルコースを食べてもらった。食べても食べても次々と出てくる料理に、招待者一同は驚きながらも美味しいと言ってくれた。ストーブを囲んで、日本の秋の夜が更けていった。

■北杜市オオムラサキセンター

最終日。長野の家で昼頃まで過ごしたあと、東京へ戻る途中に北杜市オオムラサキセンターに立ち寄った。国蝶であるオオムラサキの保護と研究を目的とした施設であるが、実は昆虫好きにたまらないサービスがある。お願いすれば、そこで飼育している、生きているカブトムシやクワガタを直に見せてもらえるのだ。メンバーには昆虫好きが沢山いるので、行かない手は無かった。シーズンオフにさしかかっていたため、



▲これが噂(?)の「長野のおりがみはうす」

以前来たときよりも種類は少なかったが、ヘラクレスオオカブトなどの有名な昆虫は健在で、ロバート・ラング氏は勿論、ジョゼフ・フー氏も、ニコラス・テリー氏も大喜



▲怖々と対面するアン・ラヴィン氏

びで記念撮影をしていた。ただ一人昆虫が苦手な都会っ子、マーク・カーシェンバウム氏を除いて…。

まとめ

私は主催者であるが、実際に手がけたのは、海外招待者の選出と招待費の出資、国内の識者への招待状など「場」の提供であった。その場所に、あつと言う間にすごい中身が埋まるという、素晴らしい瞬間に立ち会えた。折り紙の著作権問題は、これからが本番だ。市場が発展するほど、問題は多くなっていく。しかし我々は、それを乗り越えていくことができると信じている。

◆PRO (Pacific Rim Origami Group) ミーティングレポート

神谷哲史

11月1日-2日、アメリカ西海岸サンフランシスコにて、PRO (Pacific Rim Origami Group=環太平洋折り紙の会)の会合が行われた。この会は、山口真氏の「西海岸独自のグループを作ってはい」という一言から始まり、これを聞いたジューン・サカモト氏とビッキー・ミハラ氏が、帰国後バーニー・ペイトン氏ら西海岸のメンバーにこのアイデアを伝えて話が盛り上がり、今回の開催に至ったものである。アメリカのみならず、日本や東南アジア、オセアニア、ハワイ、中南米を含めた環太平洋を巻き込む集まりとなった。

参加者は、地元アメリカ、日本、カナダ、コロンビア、フランスから合計30名弱、創作者や会の中心人物などPRO-プロの名に恥じない国際的かつ異様に濃いメンバーが集まった。お互いに名前や作品は知ってはいても、実際に会う機会は意外と少ないため、私としても初対面の人が多く、この日を楽しみにしていた。

1日目はサンフランシスコ郊外パークレー市の閑静な住宅街に位置する、バーニー・ペイトン氏の所属する地元のクラブの所有するクラブハウスにて行われた。

簡単な朝食と自己紹介の後、まずはロ

バート・ラング氏による設計論の講義が行われた。内容は基礎のおさらいから各手法の利点、欠点、またラング氏が最近取り組んでいる30°での蛇腹折り「Hex Pleats (ヘックスプリーツ)」の紹介等である。なお氏の設計論については近年中にクローズアップに掲載される予定である。期待している。

続いてはブライアン・チャン氏による複雑な模様のインサイドアウト作品の創作法の提案で、アニメキャラクターを事例として紹介しながら、氏が実際どのようにして作品を考え創作したのかを紹介した。

ピーター・エンゲル氏が最近の作品を紹



▲今回の世話役、バーニー・ペイトン氏



▶PROの発起人、ビッキー・ミハラ氏

介(意外な事にシンプルな作品が多かった)、その後エンゲル氏を中心として創作についてのディスカッションが行われた。創作方法から折り紙に対する思想まで、幅広い意見が飛び交う内容の濃い議論が展開された。個人的には「創作時に自分以



◀1日目の夜、レセプションの会場で、ブライアン・チャン氏に第2回JOAS創作折り紙コンテストの楯二つが授与された

外の折り手の事を考えるか?」というテーマについて、参加者によって考え方が全く違うのが非常に面白く感じた。

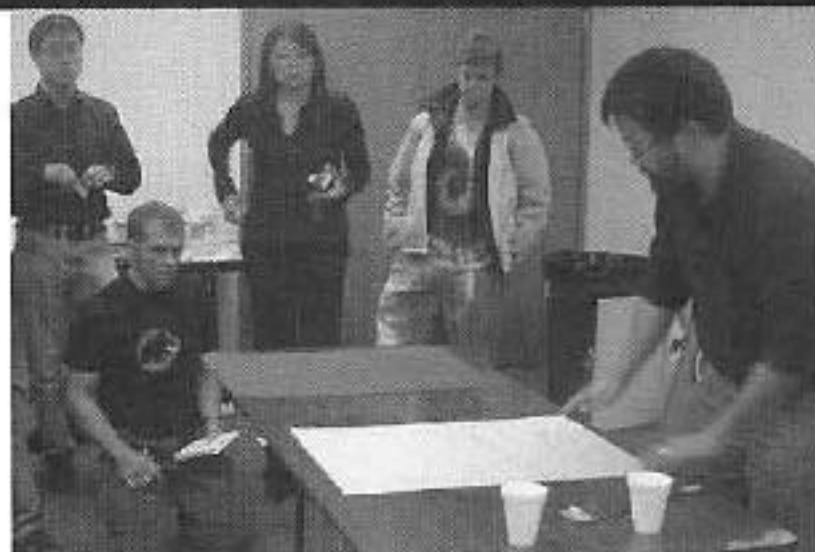
その後は雑談や意見交換する人、ひたすら折り続ける人など、まるでコンベンションで一段落ついた後のけだるい午後のような感じで進む。通常のコンベンションでは運営や講習などで忙しそうに動いている人も多いため、こういった機会は意外と少ないのかもしれない。

ちなみに神谷はロマン・ディアス氏と22.5度系や小松スタイルの作品について話し込む。蛇腹や設計理論等で複雑な作品ができるようになった現在でも、こういった作品は人間ならではの作品。

2日目の午前中はサンフランシスコ中心部のジャパントウンに場所を移し、グループの運営方針や次回開催地などが議論された。結果、次回は対岸に場所を移し、2年後にシンガポールもしくは日本で開催予定ということになった。

その後、ジョセフ・ウー氏を中心にして紙の裏打ち法等の技術交換が行われた。紙の貼り合わせは自己流で行っている人も多く、伝統的な方法から紙筒などの道具を使った方法も紹介された。

午後は、サンフランシスコ図書館と日系移民歴史センターにて行われ



▲ジョセフ・ウー氏による紙の裏打ち法講座



◀図書館での会合参加者による作品展示の様子

ている、会合参加者による作品展示「TRANSFORMING KAMI - the Art of ORIGAMI-」を見学。図書館では簡単なレセプションが、日本移民歴史センターでは、ラング氏とチャン氏によるパネルディスカッションが行われた。

会合の翌日はラング氏のスタジオを訪問。しっかり整頓された折り図や作品管理に感心しつつ、最近導入したというレーザーカッターについての説明を聞く。レーザーで展開図を印刷(?)するという方法で、手で折り筋をつけると気が狂いそうな幾何学的なパターンも一発だそう。ただし問題は紙の質や厚みに合わせたレーザーの調整をしなければいけなくて、それに非常に手間がかかるのだとか。

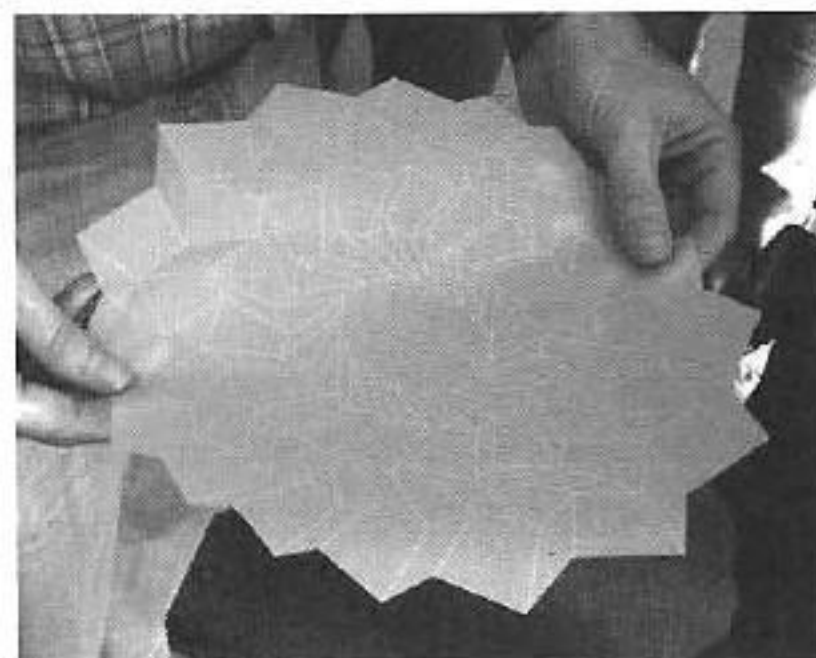
またラング氏が創作を始めた頃の作品や、14歳から現在に至るまでの折り図を年



▲ロバート・J・ラング氏のスタジオにて。手にしているのは幼少の頃の創作作品



▲ロバート・J・ラング氏のスタジオに設置されているレーザーカッター



▲レーザーカッターでつけた折り筋。紙を切らない程度に「筋」をつける為に、紙の質に合わせた微妙な調節が必要

代順にファイルした、几帳面さを伺わせる資料も見せていただいた。古いものの中には、簡単な基本形から折られた作品や、書き込みが入った作品もある。あのラング氏も昔は折り紙少年だったのだ。

翌日は地元参加者の案内でいくつかのグループに分かれ美術館、水族館やケーブルカー見学などを楽しんだ。このような事ができるのも折り紙を通じた深い交流があればこそ。大切にしなければならぬと強く感じた。

「講習のないコンベンション」とも言える今回の会合。かなり特殊ではあるが、個人的には非常に充実した会合であった。さて次回は2年後、今から楽しみである。



▲サンフランシスコ名物のケーブルカー。ビッキー・ミハラ氏の計らいで、普段は見られないところまで見学させてもらった



▲日系移民歴史センターで行われた、ロバート・J・ラング氏とブライアン・チャン氏による、折り紙の創作に関するパネルディスカッション。この様子は一般市民にも公開された

第5回折り紙の科学・数学・教育研究集会のお知らせ

一昨年12月の第1回の会から数えて、第5回目となる表題の会を、下記要項で行います。折り紙の科学・数学・教育に関する研究者の、最新研究の発表が行われます。どなたでも聴講ができますので、興味のあるかたはぜひご参加ください。

日時: 12月14日(日)

10:00~16:00(昼食は各自)

会場: JOASホール(東京都文京区白山

1-33-8 朝日白山マンション2F)

参加費: 500円

参加資格: なし。当日会場にお越し下さい。

詳細: ウェブで発表します。

13th Yoshino Issei Fund Invitation

Yoshino Issei Fund invites foreign origamists to our conventions.

Yoshino Issei Fund, named in commemoration of the talented origami designer, aims at exchanges of ideas with the world's origamists, supported by contributions from Tanteidan members, and we have invited foreign origamists to our conventions.

This time, we would like to invite two foreign origamists to the 15th convention in August 2009.

We are accepting candidates until the end of the April. We accept both recommendations and direct applications. The selection committee will decide who we invite and announce the conclusion the May in the magazine, our web site and directly to the winners. The members of the committee are Kawasaki Toshikazu,

好評開催中「日常の喜び」展

水戸芸術館現代美術ギャラリー

前号でも少し紹介した、現代美術の展覧会が10月25日より始まった。神谷氏の作品は、10×3.6mのスペースに、代表作の龍神3.5をはじめ、新作ミノタウルス、ウマを含めた23点が展示されている。

また2009年1月10日には、1階エントランスホールで、本誌100号に折り方が掲載された「アジアゾウ」を、3m四方の紙で折るという公開制作が予定されている。見学予約や入場制限などは無いが、見学のベストポジションを確保するなら、早めの来館をおすすめしたい。

■公開制作「大きな紙でゾウを折る!」

日時: 2009年1月10日(土) 13:30~

HP <http://www.arttowermito.or.jp/art/>

Kawahata Fumiaki, Kawamura Miyuki, Tateishi Koichi, Tsuda Yoshio, Nishikawa Seiji, Hatori Koshiro, Hojyo Takashi, Maekawa Jun, and Yamaguchi Makoto.

The selected guests must attend the 15th convention and instruct some models.

They must also supervise an exhibition at convention.

Yoshino Issei Fund offers each of them up to 200,000 yen for traveling and staying expenses. We also advise on their stay.

Send us your application with the candidate's name, age, address, telephone number, fax number, e-mail address, and some works (photographs of the model, diagrams, or books).

Yoshino Issei Fund

c/o Gallery Origami House

1-33-8-216, Hakusan, Bunkyo-ku, Tokyo, 113-0001, JAPAN

Email: webman@origami.gr.jp

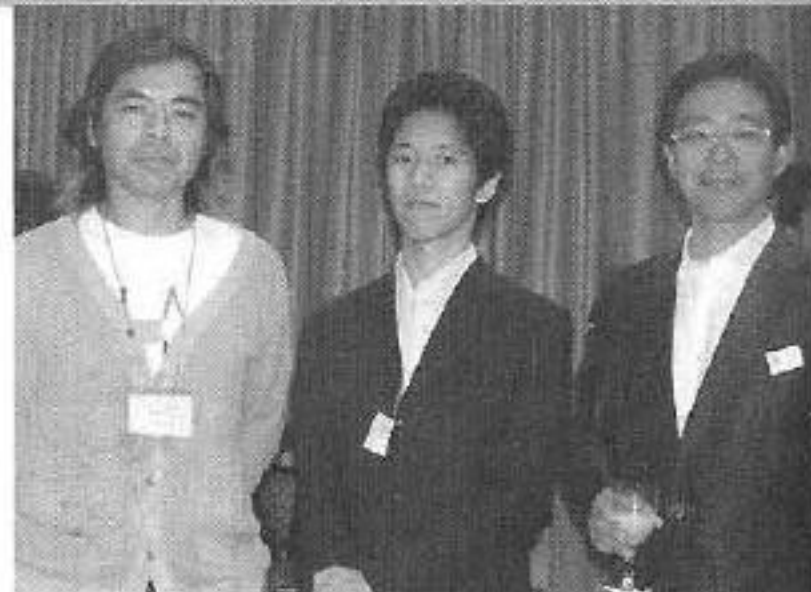
し/G204教室=講師:加藤美津恵、作品:蘭部式ユニットでの作品作り●2009年1月17日(土)/講師:未定

静岡友の会※折り紙は各自持参

会場=「紙友館ますたけ」増武ビル3F/参加費=500円(小学生以下200円)/時間=10:30~12:00●12月7日(日)/講師:未定/作品:干支(丑)

九州友の会※折り紙は各自持参

会場=佐賀県立アバンセ4階/参加費=大人300円、子供100円/時間=13:00~16:00●12月21日(日)/第2研修室B/講師:山北克彦/作品:柿の香炉(予定)●1月18日(日)/第2研修室A/講師:未定●2月22日(日)/3階美術工芸室※いつもとフロアが変わります。ご注意ください/講師:未定



同展のオープニングセレモニーにて。左から日比野克彦氏、神谷哲史氏、学芸員の森司氏

JOASホール今後の予定

◆12月13日(土)「知子の部屋」布施知子/参加費=2,500円/12:30~16:00
※12月は第2土曜日になります

◆12月23日(火・祝日)「ある折紙作家の教室」神谷哲史/参加費=3,000円/11:00~16:00/講習作品「ケルペロス」/定員28名(申し込みが定員になり次第締め切ります)

◆1月17日(土)「知子の部屋」布施知子/参加費=2,500円/12:30~16:00

■参加の申し込みはFAX(03-5684-6080)か、メールinfo@origamihouse.jp宛でお願いします。上記方法が困難な場合は電話でも受け付けます(03-5684-6040)。

編集後記

■ジョワゼル氏の作品の魅力は、一つ一つの作品に時間をかけて見ている見学者の姿を見ているとよくわかる。■これまでにいろいろな作品展を開いてきたが、作品にプライスをつけたことがなかった。■今回、初めて販売を積極的に試みた。それは彼のプロとして作品を制作している姿に惚れたもの。■勿論、彼の作品に魅力を感じているからでもある。■決して安くはないのだが、購買希望者も出てきて、売約済みのラベルが作品の横に置かれている。嬉しい。■きっかけは大切である。これがきっかけになって、プロの作品が売れるような世界になってくれたらと願うばかりである。(や)

公式ホームページ

折紙探偵団 <http://www.origami.gr.jp/>
団員パスワード/Pyramid(大文字・小文字)

折紙探偵団

2008年11月25日発行 第19巻4号 通巻112号
発行所/日本折紙学会

〒113-0001

東京都文京区白山1-33-8-216

Phone & Fax / 03-5684-6080

発行人/前川 淳

編集人/山口 真

編集スタッフ/松浦英子、神谷哲史

デザイン/おりがみはうす

翻訳/立石浩一

発売元/おりがみはうす

●本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

定価635円(本体605円)

■ORIGAMITANTEIDAN / No.112 / Published on 25, November 2008 by Japan Origami Academic Society, 1-33-8-216 Hakusan Bunkyo-ku 113-0001 Tokyo JAPAN / Cover Photo: "Milk Cow" Produced by Kawahata Fumiaki: Photographed by Matsuura Eiko / Publisher: Maekawa Jun / Editor in Chief: Yamaguchi Makoto / Editor: Matsuura Eiko, Kamiya Satoshi / Editorial Design: ORIGAMI HOUSE / Translator: Tateishi Koichi

おりがみはうす商品案内

website = <http://www.origamihouse.jp/>

E-mail = info@origamihouse.jp

このページの商品の取扱いはすべておりがみはうすです。

日本折紙学会とは別になります。

ATTENTION! : This advertisement is for Japan-internal use only.
For overseas shipment, please refer to the OrigamiHouse Web Site.



第14回折紙探偵団 折り図集vol.14
コンベンション
日本折紙学会 編 / 2,000円 / 送料420円
B5判 / 全256頁 **好評発売中!**

キューブリック:川村みゆき、リス 22.5:前川
淳、ネコ-15: 2007:西川誠司、アゲハチョ
ウ:目黒俊幸、カブトムシ2.1:神谷哲史、フグ:
シッポ:マボナ、カーラー:ユニット:ヘルマン:バ
ン:グー:ベルジャン、パンダ:ロマン:ディアス、
ヒッポグリフ:マヌエル:シルゴ等、国内外の41
作品収録

書籍名/著者・編者	価格(税込)	送料	内 容
神谷哲史作品集 神谷哲史 著 山口 真 編 立石浩一 訳	4,000円	国内一律 1冊 420円 (梱包込) ※ 複数冊は 異なります	B5判/全228頁/カラー口絵4頁/19作品収録 超複雑系折り紙の創作活動8年間の集大成。
西川誠司作品集 西川誠司 著 山口 真 編 立石浩一 訳	3,200円		B5判/全196頁/カラー口絵4頁/32作品収録 シンプルからコンプレックスまで幅広く楽しめる本
折紙図鑑「昆虫1」 川畑文昭・西川誠司 共著 山口 真 編	3,100円		B5判/全196頁/カラー口絵 4頁/17作品収録 '93~'94年の「昆虫戦争」で誕生した作品の記録
折紙図鑑「昆虫2」 ロバート・J・ラング 著 山口 真 編 立石浩一 訳	3,500円		B5判/全196頁/カラー口絵4頁/18作品収録 初心者お断り、世界で一番難しい昆虫折り紙の本
折り紙色紙百花 田中具子 著 山口 真 編	2,500円		B5判/全120頁/カラー口絵8頁/31作品収録 色紙に貼り込んで飾る花の折り紙作品集
面~The Mask~ 布施知子 著 山口 真 編	3,300円		B5判/全200頁/全27作品カラー写真紹介 作者がユニットに出会う前の、お面だけの作品集
空想おりがみ 川畑文昭 著	2,900円		B5判/全180頁/カラー口絵4頁/18作品収録 1995年6月初版発行の恐竜と空想動物の本
第13回折紙探偵団 折り図集vol.13 日本折紙学会 編	2,000円		B5判/全256頁 国内・外から集まった秀作39作品を収録
第12回折紙探偵団 折り図集vol.12 日本折紙学会 編	2,000円		B5判/全256頁 国内・外から集まった秀作52作品を収録
第11回折紙探偵団 折り図集vol.11 日本折紙学会 編	2,000円		B5判/全256頁 国内・外から集まった秀作55作品を収録
第10回記念 折紙探偵団 国際コンベンション 折り図集vol.10 日本折紙学会 編	2,000円		B5判/全256頁 国内・外から集まった秀作50作品を収録

※第1回~第9回の折り図集は全て絶版です ※書籍は郵便の「ゆうメール」で発送しております。送料には梱包材代が含まれています

商品名	送 料	内 容
限定版 折紙探偵団Tシャツ XS, S, M, L, 各サイズ 2,000円(税込)	国内一律 2着まで 500円	折紙探偵団のロゴが入ったTシャツ 色は黒のみで布は厚手 ※数に限りがありますので、ご注文の 際には在庫を確認してください。
恐竜柄おりがみ用紙 1,000円(税込)	国内一律 1~2セット 440円	35×35cm/10枚入/70kg の洋紙に紅い恐竜模様を印刷
恐竜柄おりがみ用紙 折り図つきセット 1,200円(税込)		恐竜柄おりがみ用紙+ ドラゴン(北條高史作)の折り図

※定形外郵便で発送しております(書籍とは別発送になります)
送料には梱包材代が含まれています

書籍 複数 の 送料	書籍2冊の送料は 530円 /書籍3冊の送料は 670円 例外:「折り図集」又は「色紙百花」だけを3冊の場合 (例:折り図集12.13と色紙百花1冊)のみ 530円
---------------------	---

上記以外の場合はお問い合わせください・書籍と紙製品は別発送となります

本ページに記載していない商品は、現在取り扱っておりません
ご送金頂いてもお送りできませんのでご注意ください

GALLERY **おりがみはうす**
〒113-0001 東京都文京区白山1-33-8-216
TEL:(03) 5684-6040 FAX:(03) 5684-6080
E-mail: info@origamihouse.jp 10時~18時 日・祝休

商品複数ご注文の場合は、送料が変わってきます。電話又はメールでお問い合わせください。

お待たせしました! 『折紙探偵団』専用ファイル
ピンが7本ついた改良型 **新発売!**
変形B5判/箔押し ロゴ入
※箔押しの色は紺色から緑になりました
■雑誌「折紙探偵団」1年分(6冊)と、
会員特別配布物(1冊)が収納可能!
お値段据え置き1冊750円
送料: 1冊250円(合計1,000円)
2冊350円(合計1,850円)
3冊470円(合計2,720円)
※定形外郵便で発送します(書籍・紙製品とは別)

商品の申し込み方法 冊数と料金をよくお確かめの上ご注文ください。
先に**郵便振替**か**現金書留**で料金(商品価格+送料)をお
送り下さい。入金を確認後、商品を送らせて頂きます。ご希
望の商品名と連絡先の記入(郵便振替の場合は振替用紙の
「通信欄」に記入)をお忘れのない様お願いします。

郵便振替番号 **00120-9-715400**
加入者名 **おりがみはうす**

※折紙探偵団の購読申込みとは別の口座です。くれぐれもご注意ください。
※郵便振替用紙は郵便局備え付けのものをご利用ください。
※現金書留の場合は左記の住所へお送りください。
※商品のお届けは通常、送金から約1週間~10日です(お盆・年末年始等を除く)。

広告有効期限: 2009年1月25日

トヨー 浮かべて遊べる!

船の折りがみ

水に強い! おふろもOK!

26cmで作る BIG サイズ

26cmで作る BIG サイズ

26cmで作る BIG サイズ

●帆船 ●ヨット ●海賊船 ●豪華客船 ●スワンボート ●ホバークラフト ●潜水艦

●プリントおりがみ 15.0×15.0cm 12枚入
●プリントおりがみ 26.0×26.0cm 4枚入

耐水ペーパー使用で

¥300 (税抜き)

水に強い! おふろもOK!

船の折りがみ

26cmで作る BIG サイズ

26cmで作る BIG サイズ

26cmで作る BIG サイズ

●豪華客船 ●スワンボート ●帆船 ●海賊船 ●ヨット ●ホバークラフト ●潜水艦

株式会社トヨー
ホームページ <http://www.kidstoyo.co.jp>

●写真は印刷ですので実際の商品とは色は違う場合があります。
※表示価格には消費税は含まれておりません。※内容・デザインは一部変更になることがあります。
本社 〒120-0044 東京都足立区千住緑町2-12-12 TEL03-3882-8161
大阪支店 / 名古屋営業所 / 福岡営業所 / 札幌出張所 / 松山出張所